

早稲田大学
大学院情報生産システム研究科要項
2024年度

STUDY GUIDE
2024

Graduate School of Information, Production and Systems,
Waseda University

この要項は、学業を進めていくうえで必要不可欠な基本的事項を収録したものであり、修了時まで使用するので紛失しないように十分に注意すること。

履修や学生生活に必要な情報はほぼ網羅されているので、日常的に確認し、わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

なお、本学ではホームページを開設し、インターネットを通じた情報発信を行っている。

この要項の内容が変更になった場合には、インターネットを通じて周知する。

アクセス方法は以下の通りなので、必ず常時確認すること。

MyWaseda／Wasedaメール

早稲田大学の学生・教職員・校友が共通して利用する基盤システムで、この MyWaseda にログインすることにより、利用者の資格、属性に応じたサービスや情報が得られる（授業の科目登録、試験、レポート、履修などに関することや、講演会やセミナー、シンポジウム、公開行事の案内など）。Waseda メールは Web ブラウザがあれば、どこでも利用できる Web メールサービスである。在学中に利用していたメールアドレスは卒業後も使用できる。

<https://my.waseda.jp/>

大学院情報生産システム研究科ホームページ

<https://www.waseda.jp/fsci/gips/>

目 次

I	大学院情報生産システム研究科について	
1	I P S の 3 つのポリシー	1
1	大学院情報生産システム研究科の理念・目的	2
2	大学院情報生産システム研究科の構成	4
3	大学院情報生産システム研究科の特徴	4
4	専攻および学位の種類	4
II	修士課程の教育内容	
1	教育課程の特徴	5
2	修了年限と修了要件（修士課程）	6
3	授業の実施方法	6
4	研究指導の方法・スケジュール	7
5	研究指導体制について	7
6	学位審査の方法	8
7	修士学位論文審査基準	8
8	学修成果	8
III	学科目の履修方法（修士課程）	
1	授業科目	9
2	科目履修	10
3	先取り履修制度	10
4	成績評価方法	11
5	G P A について	11
6	W e b 科目登録について	11
IV	博士後期課程の教育内容	
1	教育課程の特徴	12
2	修了年限と修了要件（博士後期課程）	12
3	研究指導の方法・スケジュール	13
4	研究指導体制について	13
5	科目履修	14
6	学位審査の方法	14
7	博士学位論文審査基準	14
8	成績評価方法	14
9	学修成果	14
●	実体情報学コース	15
V	博士学位審査に関する取り扱い	
1	学位請求の申出と取り扱い	16
2	分野会議による原案作成	16
3	分野主任会議による原案検討	16
4	研究科運営委員会による受理	16
5	論文審査と資格検定	16
6	研究科運営委員会による合否判定	16
7	大学および文部科学省への報告	16

VI	早稲田大学学位規則（抜粋）	19
VII	早稲田大学大学院学則（抜粋）	22
VIII	学生生活に関する各種情報	
1	日常の研究生活について	30
2	掲示について	30
3	事務取扱時間について	30
4	学籍番号について	31
5	学生証について	31
6	北九州学術研究都市キャンパスカードについて	31
7	各種願・届について	32
8	学費等の納入と抹籍について	33
9	各種証明書について	34
10	授業欠席の取り扱いについて	34
11	全学休講の取り扱いについて	35
12	奨学金について	36
13	医療給付について	36
14	事故にあった際の補償制度について	36
15	学業や学生生活で悩んだら？	36
16	健康診断実施について	36
17	AED設置場所	36
18	就職活動について	37
19	教育訓練給付制度について	37
20	留学生の方へ	38
21	ハラスメントの防止	39
22	スチューデントダイバーシティセンター	40
	早稲田大学校歌	巻末
	施設案内図	巻末
	キャンパスマップ	巻末

I P Sの3つのポリシー

■入学者受入の方針(アドミッション・ポリシー)

「学問の独立」、「学問の活用」、「模範国民の造就」という早稲田大学の基本理念を理解し、課題解決や新たな価値の創造に向けた学習と研究を行う意志と能力を有する学生を国内外から広く求める。

- ・十分な基礎学力を持ち、知的好奇心が旺盛で、目的意識を持って学習・研究に取り組む学生
- ・工学や情報技術の社会的影響や研究倫理を理解し、社会の諸問題の解決や新たな付加価値の創造を行うことができる研究者や技術者をを目指す学生
- ・基盤技術・要素技術の研究のみならず、それらを複合的に融合し、システムの思考で複雑な課題を解決することができる研究者や技術者をを目指す学生
- ・グローバルな視野で諸問題を解決し、地域の発展に貢献できる研究者や技術者をを目指す学生

これらの意志と能力を有する多様な学生を受け入れるため、修士課程入試として、日本人学生、外国人学生、社会人を広く対象とする一般入試、社会人として業績がある人材を対象とする社会人入試、提携校からの推薦にもとづき優秀な学生を国内外から積極的に受け入れる推薦入試を実施する。推薦入試においては、全国の高等専門学校専攻科やアジアを中心とするトップクラスの大学との提携を進め、研究者・技術者として国内外で活躍しうる素養を持つ人材を迎え入れる。博士後期課程の学生に対しても上記の入試制度を踏襲し、主導的な研究者・技術者として国際的に活躍しうる素養を持つ人材を迎え入れる。

■教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

情報アーキテクチャ、生産システム、集積システムの3つの研究領域を中心に、相互の連携が必要な研究領域を含め、ハード・ソフト両面から教育を実施する。修士課程の学生は3つの研究領域のいずれかの領域に属し、ディプロマ・ポリシーにもとづく設置カリキュラムの科目履修を行い、研究に必要な基本知識と能力を習得する。すなわち、学部で得た知識を補い基礎応用力を養う基礎講義科目、研究に必要な専門知識を身につけ活用するための専門講義科目、機器・設備に触れながら実践的専門知識を体得する実験科目、修士論文研究に深く関連する専門的な知識を習得し実践する特論・演習を履修する。さらに、教員の指導のもとで、各自の研究課題に対する修士論文研究を実施し、その成果を研究論文にまとめて発表する。博士後期課程では修士課程で求められる能力に加え、研究者として自立できる高度な研究能力を身につける。博士後期課程の学生は科目履修を必須としないが、必要に応じ修士課程の設置カリキュラムを履修できる。さらに、教員の指導のもとで、より高度な研究課題に関する専門的理論の究明、新規提案とその応用のための研究を行い、研究成果を積極的に学会等で公表し博士論文にまとめて発表する。また、国際的に活躍できる人材を育成するために、英語と日本語の2カ国語で講義および研究指導を実施し、外国人留学生と日本人学生が共に学び合う環境を提供する。

■卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

情報アーキテクチャ、生産システム、集積システムの3研究領域、もしくはそれらを相互連携する研究領域で、高い洞察力和高度な専門知識を活用し、これらの研究領域に関する技術発展に貢献し、複雑化する現代の技術問題を解決し、新システムの提案を担い、社会における新しい付加価値を創造する研究人材・技術人材を養成する。そのために、基礎応用力と専門知識、情報リテラシーと問題発見力、論理的思考力と問題解決力、システム構想力と実践的リーダーシップを身につけることが求められる。修士課程の学生は、教員の指導のもとで研究を実施し、研究成果を修士論文としてまとめ、研究者・技術者として活躍できる基本的研究スキルと専門知識を習得する。それが達成された場合、修士（工学）の学位を授与する。博士後期課程の学生は、教員の指導のもとで、技術発展に著しく貢献する独創的な研究を実施し、その成果を国内外の学会で発表し、かつ博士論文としてまとめることにより、高度な研究スキルと専門知識を駆使して自立的に研究を遂行できる能力を習得する。それが認められた場合、博士（工学）の学位を授与する。

I 大学院情報生産システム研究科について

1. 大学院情報生産システム研究科の理念・目的

大学院情報生産システム研究科は2003年4月に東京の本部から離れた北九州学術研究都市に開校し、国際化を目指した非常にユニークな大学院である。

北九州学術研究都市に早稲田大学が研究と教育の拠点を築くことを目指している大きな目的は、九州はアジアの諸国に近いこともあり、情報アーキテクチャ・生産システム・集積システムを中心としたアジアにおける国際化大学院を充実させることである。そのため、北九州市立大学、九州工業大学とも協力し、アジア全体を見通した知の発信拠点とすることを目指している。これを支える技術者の育成と研究開発を推進することがこの北九州学術研究都市に存在する早稲田大学の使命である。

北九州学術研究都市は早稲田大学、北九州市立大学、九州工業大学を中心として一つの大きなキャンパスを作っている。このように同一キャンパス内に種類の異なる3つの大学を持っているという特色は、広く世間を見通し、独善的になることを避ける上で、重視されるべき点である。

一方、早稲田大学は創立125周年を迎えた2007年には、「第2の建学」を標榜し、21世紀の社会に対応した大学の組織をつくるための展開を行っている。大学の国際化と高等教育機関の充実を含め、早稲田大学を世界の中で代表的な私立大学と認められるように発展させることを目指している。また、近年、日本社会は昔ながらの東京への一極集中ではなく、学問も産業も広く日本全体に拡大されるとともに地方の特徴をいかした独自の体系がつけられつつある。このことを考えると、早稲田大学が東京のみに存在せずに、地方への展開を考えることが必要であり、北九州への展開はその一例である。

北九州の地は韓国・中国に近く、特に博多と釜山は永い交流の歴史を持っている。このような永年の蓄積で得られた身に染み付いた国際性がアジアの教育機関として発展させていく上で有効である。アジアのみならず世界を見通した教育機関を目指す早稲田大学にとってこの地に国際化大学院のための確固たる拠点を築くことは21世紀の早稲田大学の展開に重要な役割を果たすことになる。

北九州は古くから日本有数の工業地帯の一つであり、永い伝統を持つ技術を誇ってきている。早稲田大学がこの地に情報・生産・システムを教育・研究する大学院を開設したことは、北九州の持つ伝統技術を基礎に21世紀における日本、アジアさらに世界の工業の将来に大きな貢献をもたらすことと期待される。

上記の背景、使命のもとに開設された早稲田大学大学院情報生産システム研究科は、最新の情報技術をハード・ソフト両面から教育・研究する情報アーキテクチャ分野、情報技術を駆使した高品質・高生産性の生産システムを追求する生産システム分野、将来の各種システム・部品の要となる集積システム分野から構成されている。

この3分野は相互に関連づけられた総合的な研究科を構成して研究・教育にあたっている。さらに、工業技術面での研究・教育に留まらず、企業経営の視点から各種システムを構築・運営するための研究・教育を含ませている。

情報アーキテクチャ分野は、情報獲得・表現という情報そのものを論ずる分野、情報伝送の分野、情報処理の分野、種々の対象への応用など、あらゆる工学に適用される幅広い基盤工学である。また、日々進展する情報技術はハードウェアとソフトウェアの相互に関連した進歩によって達成されてきている。このような現状を考え、本研究科では情報技術に関するハードウェア/ソフトウェアの両面にまたがる広範な教育・研究を目指している。

生産システム分野においては、生産に必要な情報をコンピューターネットワークを活用して管理・利用しようとする生産情報システムを導入し、より高度な生産性を追及する研究・教育を行っている。同時に、生産分野にも押し寄せているグローバル化の波に対処できるよう、生産現場のエンジニアが情報技術を身につけることが必要である。この意味で、生産現場を理解し、かつ情報分野の知識も併せもつエンジニアの育成を進めている。

一方、集積システム分野では産業の米といわれている半導体技術の教育・研究を行っている。幅広い各種システムのコンパクト化と高性能化にはシステムのLSI化が不可欠であり、これが将来の情報家電・自動車産業・ITサービスの発展において鍵を握ると考えられている。集積システム分野では、日本の各地から集結した10名の世界的水準の技術者・研究者が、LSIの設計技術を中心にこれらの高度な教育・研究を進めている。

さらに本研究科では、アジア諸国出身者を中心に多数の留学生を受け入れる国際的な大学院を目指している。既に中国の浙江大学、上海交通大学、復旦大学、南京大学、西安交通大学、台湾の国立成功大学、国立台北科技大学、タイのタマサート大学、チュラロンコーン大学等、40校を超える海外の著名な大学と箇所間協定・学術交流覚書を締結し、留学生の受け入れ、教員同士の交流、共同研究等を積極的に推進しており、国際的な大学院として国内外においてその評価を年々高めている。

また、大学院情報生産システム研究科に隣接して情報生産システム研究センターを設置しており、そこで、国内外の研究者との共同研究・受託研究を数多く進めている。また、研究センター内に国外の大学の研究分室を設け、海外との共同研究を積極的に進めている。

2. 大学院情報生産システム研究科の構成

本研究科は、博士課程5年を前期2年と後期3年に区分し、前期2年の課程を修士課程として取り扱う。

本研究科には、「情報アーキテクチャ」、「生産システム」、「集積システム」の3つの分野があり、それぞれの特徴は以下の通りである。

情報アーキテクチャ分野	今後ますます重要となる情報通信分野全般について、とくにその応用に重点をおいた教育と研究を行う。すなわち、その対象には、情報の表現・伝送を扱う「メディア情報」「データ工学」「情報ネットワーク」領域、人の情報処理に密接に関連する「自然言語処理」「計算知能」領域のほか、今後のスマート社会にとって不可欠な「コミュニティ工学」「ロボット・メカトロニクス」「スマート・ファクトリ」領域もある。
生産システム分野	生産技術のハード面を扱う「プロセス工学」「生産情報・機械システム工学」領域、高度な自動化システムに対応するための「計測・制御工学」領域に加えて、バイオエレクトロニクス・生体医工学・材料工学を対象とする「バイオ・医工学」「先進材料・デバイス」領域を設置し、ハード・ソフト両面から21世紀の次世代生産システムを追求する教育と研究を行う。
集積システム分野	将来のより高度で豊かなIT社会の実現には様々な要素技術を複合的に集積した応用システムの開発が不可欠である。当分野では、革新的な集積システムの創出をめざして、基盤となる「電子デバイス・回路技術」「光デバイス・回路技術」「LSI設計・検証技術」「情報処理技術」から「画像情報システム」「音声情報システム」「情報通信システム」等の応用システムに跨る幅広い領域の最先端技術について、企業との密な連携を有する教授陣による実践的な研究と教育を行う。

この3分野は相互に関連し合うように構成されており、学生は分野を越えた学習・研究活動が可能となるように3分野が融合されている。

3. 大学院情報生産システム研究科の特徴

本研究科は、北九州学術研究都市に設置されている「情報生産システム研究センター」と連携した教育と研究ができる特徴もある。情報生産システム研究センターでは企業との共同研究やプロジェクト型の研究を主に行っている。本研究科に所属する教員はこのセンターの兼任研究員となり、積極的に産学共同研究を推進し、先端的で実際に役立つ技術開発も行っている。

本研究科は東京にある早稲田大学の既設学部・大学院等関連諸組織と遠隔講義を実施するなど、既設機関との連携により研究・教育の質を高めている。さらには海外にある提携校や大学院との交流を積極的に行い、単位互換、教員・学生の交換などを実施している。

また、本研究科は北九州学術研究都市に他大学・大学院と共に開設されている特徴を活かし、これらの機関との単位互換、あるいは教員の相互交流、共同研究などを積極的に実施している。

4. 専攻および学位の種類

本研究科の専攻名は、「情報生産システム工学」である。

修士課程を修了した者に「修士(工学)」(英文学位名称:Master of Engineering)の学位を授与し、博士後期課程を修了した者に「博士(工学)」(英文学位名称:Doctor of Engineering)の学位を授与する。

Ⅱ 修士課程の教育内容

1. 教育課程の特徴

本研究科修士課程は1研究科1専攻とし、情報アーキテクチャ、生産システム、集積システムの三つの分野から構成されています。本研究科の学生は基本的に入学後半年以降にこれらの分野の一研究室に配属（入学約1ヵ月後に仮配属）されますが、全分野に設置されている講義科目を自由に選択できるので3分野にまたがって広い知識を得ることが可能です。さらに研究は各分野間で関連がありますので、学生は3分野が融合されたシステムの中で学ぶことができます。演習と修士論文研究では多彩な経験を持ち国際的にも活躍している教員の指導を受け、日本および世界で活躍できる技術者となるべく実務的かつ専門的な学習と研究を行います。

また、隣接する早稲田大学情報生産システム研究センターと連携し、本研究科の教員が組織する産学共同のプロジェクト研究の一部に演習や修士論文のための研究として多くの学生を参加させることで、実務的な問題解決と専門研究能力の養成を行っています。

本大学院の学生が十分な知識と研究能力を培って、修了出来るようにするため次の教育体制を実施しています。

- a. 修士課程の学生は柔軟な科目選択ができ、かつ早い時期から研究に取り組むことができます。

標準コース	1年春学期* ¹ に仮配属を行い、同学期末の本配属手続に従って配属を認定します。 配属された学生は、研究室に所属して教員の研究指導を受けることができます。
-------	---

また、以下の特別コースも設置されています。

Fコース (提携大学院 協定コース)	IPSと提携している外国の大学院の修士課程1年および2年に在籍する学生の中で、当該大学院がIPSの修士課程入学希望者として推薦する成績優秀な学生を対象とした留学生特別入学制度です。 入学時に配属を認定します。
--------------------------	---

*1 9月入学の場合は秋学期

- b. 多くの留学生が学べるよう多くの授業を英語でもしくは英語と日本語を併用して実施しています。
- c. 実験科目（情報アーキテクチャ実験、生産システム実験）を設けて、具体的な機器・設備を理解する教育を行うほか、語学ラボ、コンピュータ実習室での自習が可能です。
- d. 北九州学術研究都市に設置されている他大学・大学院・研究機関などと連携した教育研究を実施しています。

2. 修了年限と修了要件(修士課程)

本研究科修士課程の修了要件は、標準で修士課程に2年以上在学し、各学修コースの条件を満たす所要の授業科目について30単位以上を取得した上で、必要な研究指導を受けて修士論文の審査および試験に合格することです。

コース		内 容
標準	単位 30 20 10 0 0.5 1 1.5 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学1年後までに基礎講義科目・専門講義科目・実験科目18単位以上、演習または特論4単位以上、合計22単位以上を取得していること ・ 研究室配属後、1.5年以上の修士論文作成のための研究をしていること ・ 修了時に研究に必修の特論(2単位)、演習(8単位)を含めて合計30単位以上取得していること、但し基礎講義科目は4単位以内とする
	単位 30 20 10 0 0.5 1 1.5 2年	
F	単位 30 20 10 0 0.5 1 1.5 2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学1年後までに基礎講義科目・専門講義科目・実験科目18単位以上、演習または特論4単位以上、合計22単位以上を取得していること ・ 履修予定の科目は単位認定された(外国の大学において修得した)学科目と重複しないこと ・ 修了時に研究に必修の特論(2単位)、演習(8単位)を含めて合計30単位以上取得していること、但し基礎講義科目は6単位以内とする

Fコースで特に優秀な場合は、下記短縮修了もあります。

F	単位 30 20 10 0 0.5 1 1.5年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学半年後までに基礎講義科目・専門講義科目・実験科目18単位以上、演習または特論4単位以上、合計22単位以上を取得していること ・ 履修予定の科目は単位認定された(外国の大学において修得した)学科目と重複しないこと ・ 修了時に研究に必修の特論(2単位)、演習(8単位)を含めて合計30単位以上取得していること、但し基礎講義科目は6単位以内とする
---	---	---

【重要】研究室配属後は指導教員の担当する特論と演習の所定単位を取得すること。

3. 授業の実施方法

本研究科における授業は単なる教員からの一方的な講義でなく、演習課題を課したり、実験設備を活用するなど教員と学生の双方向的な授業を展開しています。

また、早稲田大学理工学術院の各研究科との連携を保ち、必要に応じて他の研究科での授業を受講でき、単位取得や修士論文作成の指導も受けることができます。さらに、北九州学術研究都市の他大学院との単位互換制度もあります。

4. 研究指導の方法・スケジュール

分野の選択や研究室配属については教員が詳細な相談に応じます。また、配属先での指導教員は研究計画の立案、論文の作成、研究の進め方に関して専門的なトレーニングを実施し、論文の作成まで一貫した指導を行い、先端的な研究に従事させ、高度な専門性を持つ研究者に育成することを目指します。

新入生は、履修ガイダンス、研究室訪問や教員との面談などを通して入学後約2週間で仮配属先の研究室を決定します。最初の学期は研究室には仮配属の状態、授業を履修して必要な単位を取得するとともに、配属先研究室の研究環境を理解し、研究設備の使用方法などを学びます。最初の学期の終了時に本配属を行い、研究室の正式メンバーとして研究室でのゼミや特論、演習に参加し、その後1年間(2学期間)指導教員からの研究指導を受けます。その後、修士論文作成へ向けて行っている研究に関する中間発表を行います。中間発表は、配属先の指導教員を主査とし、他に2名の副査の教員で審査を受けます。最後の学期は修士論文の作成に関する指導を配属先の指導教員より受けて修士論文を作成し、指導教員が務める主査および2名の副査の教員による審査を受けます。

ガイダンス・研究室訪問
仮配属(第一学期):授業、準備
本配属面談
本配属(第二学期):研究指導
取得単位数の確認
本配属(第三学期):研究指導
中間発表概要書提出
中間発表
本配属(第四学期):修士論文作成
概要書・修士論文提出
最終発表

5. 研究指導体制について

修士課程については、本配属先の主指導教員による研究指導を受けると同時に、中間発表の時点から主指導教員に加えて、2名の副査の教員により、発表の審査および修士論文の指導を受けます。

分野毎の教員の名簿を以下に示します。

指導教員・研究指導一覧

分 野	指導教員	研究指導名
情報 アーキテクチャ	教授 藤村 茂	スマートインダストリー研究
	教授 古月 敬之	ニューロコンピューティング研究
	教授 岩井原 瑞穂	データ工学研究
	教授 鎌田 清一郎	イメージメディア研究
	教授 亀岡 遵	バイオ情報センシング研究
	教授 ルバージュ イヴ	用例翻訳・言語処理研究
	教授 松丸 隆文	バイオ・ロボティクス&ヒューマン・メカトロニクス研究
	教授 坪川 信	光ファイバシステム研究
	教授 吉江 修	コミュニティ・コンピューティング研究
	教授 伍 軍	ネットワークインテリジェンスとセキュリティ研究
生産 システム	教授 荒川 雅生	設計工学システム研究
	教授 橋本 健二	移動ロボティクス・プラットフォーム研究
	教授 馬渡 和真	マイクロナノ流体デバイス研究
	教授 三宅 丈雄	先端バイオエレクトロニクス研究
	教授 田中 英一郎	機械システム設計研究
	教授 立野 繁之	生産プロセス工学研究
	教授 植田 研二	薄膜機能材料研究
	教授 志村 考功	半導体デバイス材料工学研究
	教授 高橋 淳子	生体医工学研究
集積 システム	教授 池橋 民雄	マイクロ電気機械システム研究
	教授 池永 剛	画像情報システム研究
	教授 木村 晋二	高位検証技術研究
	教授 牧野 昭二	知的音響システム研究
	教授 丹沢 徹	グリーン集積システム研究
	教授 山崎 慎太郎	集積システム最適化研究
	教授 吉増 敏彦	無線通信回路技術研究
	准教授 碓塚 孝明	発光システム研究
	准教授 高畑 清人	光電子集積システム研究
	准教授 芹田 和則	テラヘルツ集積システム研究

6. 学位審査の方法

修士課程は、社会人、留学生、学部卒の学生を区別することなく、一貫した指導体制のもとに公正な論文審査体制を設けています。審査方法に関しては、指導教員を主査とする3名以上の教員で論文審査を行います。

その結果を本研究科の「研究科運営委員会」に報告し、厳正な審査の上、学位審査の最終結果とします。

7. 修士学位論文審査基準

- 1) 情報生産システム研究において、一定の有用で新たな知見を含む内容であるか、または独自の考察による有効な問題解決を含む内容である自著の論文であること。
- 2) 研究の意義、目的、および、先行研究の調査に基づく研究課題の位置づけが述べられており、問題設定、分析、研究方法、結果、考察等の論旨が、明確かつ適切で一貫していること。
- 3) 式、記号、図、用語の使い方、文章表現が学術論文として適切であること。
- 4) 学術研究倫理に係るガイドラインを遵守して遂行された研究の成果であること。
- 5) 学位論文の発表審査において、学位申請者が学位論文の内容の意義、結果についての的確に発表できること。
- 6) 修士学位論文審査は、主査・副査を含む複数の教員によって行い、研究科により合否判定される。

8. 学修成果

- 1) 自らが取り組む学習・研究について計画を立て、これを実施するために必要な基礎学力、専門知識を身につけ、それらを応用できる。
- 2) 情報倫理、情報セキュリティについて正しい理解をもち実践できる。
- 3) 自らの専門領域における技術動向を調査・把握し、自らが取り組むべき課題を適切に設定できる。
- 4) 設定した課題を解決する手法、手段を提案し、これを客観的に検証して健全性、新規性、有効性を示すことができる。
- 5) 自分のアイデアや考えを正しく他人に伝えることができ、高い倫理観のもと、他人とのコミュニケーションにおける主張と協調のプロセスを身につけている。
- 6) 構想した解決手法を適正に実現する手段を計画・実行することができる。

Ⅲ 学科目の履修方法(修士課程)

1. 授業科目

本研究科修士課程では、「基礎講義科目」、「専門講義科目」、「実験科目」、「特論」、「演習」を設定します。各授業科目の使用言語は日本語又は英語とします。

基礎講義科目	各分野において専門的な学科目の学習と研究活動を行っていく上で必要となる基礎的な知識や技術の修得を目的として設定しています。 主として大学学部において学習した専門分野以外の知識を得るために学習するものですが、学生の経歴によって学習する機会のなかった学科目について、本研究科の修了生として身につけておくべき必須の知識を学ぶための役割も果たしています。
基礎講義科目 (基礎自由科目)	上記基礎講義科目のうち、取得単位が修了要件の単位に含まれないもの。
専門講義科目	本研究科の修士課程の中核をなす講義科目であって、修士課程修了生として修得しておくべき専門知識を学習することを目的としています。 修士論文の作成に向け、高度な知識の修得及び応用能力の練成を目指します。
専門講義科目 (専門自由科目)	上記専門講義科目のうち、取得単位が修了要件の単位に含まれないもの。
実験科目	情報アーキテクチャ実験と生産システム実験を設置しています。情報アーキテクチャ分野の基礎となるコンピュータネットワークを中心とした実験と生産システムで広く使用される機器・設備に触れることを目的とした生産システム実験を行います。これらを通して、本研究科修了後、実社会において高度専門技術者として役立つ基盤を与えます。
特論	主として個々の教員の先端研究に密接に関係する高度の講義科目であって、学生が所属する研究室における専門的知識を与えるために設定しています。この学科目を学習することによって学生は所属する研究室における最先端の学問を学び、修士課程修了者として固有の専門性を保持するとともに修士論文としての研究課題の位置づけを学びます。 また、博士後期課程への進学者にとっては、博士論文としての研究の基礎を明確にし、博士学位取得者としての専門性を身につける基となる学問を学びます。
演習	修士論文のための学習・研究の一貫として行われるもので、研究室に所属している学生を対象に行います。修士論文として研究しているテーマの周辺についての先端的な知識を学ぶほか、論文誌・国際会議で発表されている論文について学び、その分野の国際的な研究動向を得るために設定されています。 教員の指導の下に行われるゼミナール、実際の設備についての実習、学生の研究結果の発表など各研究室の特色に応じて種々の教育研究活動のひとつとして行われます。

※グローバルエデュケーションセンター(GEC)科目は、基礎自由科目となります。

2. 科目履修

学生は全ての分野の授業科目を履修することができます。各授業科目のシラバスに書かれている履修条件科目を考慮し、授業科目を履修してください。(受講者枠が設定されている科目では、受講者枠を超える場合、抽選を行います。)

(履修モデル)

項 目	標準コース					Fコース				
	1年		2年		修了要件 30単位以上	1年		2年		修了要件 30単位以上
	**春 学期	**秋 学期	春 学期	秋 学期		**春 学期	**秋 学期	春 学期	秋 学期	
*基礎 講義科目					(4以内)					(6以内)
専門 講義科目	}20				}20	}18 ※				}18以上
実験科目										
特論 (必修)	/	2			2		2			2
演習(必修)	/	4	4		8	6	4			8以上
修論(必修) (単位なし)	/	修論		合格		修論				合格

* 基礎講義科目、専門講義科目、実験科目を合せて修了に必要な単位数を定めてありますが、基礎講義科目は(以内)に示した単位数より多くを修得しても必要な修得単位数には含めません。

** 春学期:4月入学の場合は春学期、9月入学の場合は秋学期となります。
秋学期:4月入学の場合は秋学期、9月入学の場合は春学期となります。

※ Fコース:認定単位として10単位を上限に含むことができます。

研究倫理科目の受講が完了していることが中間発表を行うための条件です。(原則としてGEC設置科目「学術・研究公正概論」)
詳細はIPSスクエア「修士課程の研究倫理教育受講」を確認してください。

IPSスクエア:<https://www.waseda.jp/fsci/gips/campuslife/ipssquare/>

3. 先取り履修制度(学部4年次に履修した大学院授業科目の単位認定)

教育研究上有益と認めるときは、理工学術院内学部の4年次に履修(先取り履修)した大学院授業科目4単位以内を本研究科の既修得単位として認定します。

4. 成績評価方法

各授業科目・研究指導の成績を下図のように評価・表示します。

評価対象	点 数	成績通知書 の表示	成績証明書 の表示	判定
授業科目 (基礎・専門・ 実験・演習・特論)	90点以上	A ⁺	A ⁺	合格
	80～89点	A	A	
	70～79点	B	B	
	60～69点	C	C	
	59点以下	F	表示無し	不合格
研究指導及び 論文発表, 単位認定科目	点数無し	P	P	了
	点数無し	Q	表示無し	未

5. GPA (Grade Point Average) について

計算式: 科目の成績評価に対してGrade Pointと呼ばれる換算値 (A⁺は4点、Aは3点、Bは2点、Cは1点、不合格は0点) が決められています。それぞれの「科目の単位数」と「成績評価のGrade Point」の積の総和を「総登録単位数」で割って、スコア化したものがGPAです。総登録単位数には、不合格科目の単位も含まれます。式で表すと、次のようになります。

$$\frac{(A^+ \text{ 修得単位数} \times 4) + (A \text{ 修得単位数} \times 3) + (B \text{ 修得単位数} \times 2) + (C \text{ 修得単位数} \times 1) + (\text{不合格科目単位数} \times 0)}{\text{総登録単位数 (不合格科目を含む)}}$$

※GPAは、小数第2位まで表示します。(小数第3位は、四捨五入とします。)

対 象 科 目 : 卒業算入対象科目として登録した科目が対象となります。

GPAの通知・証明 : GPAは、成績通知書に記載されます。また、GPA対象科目の成績およびGPAが記載された「GPA証明書」を発行します。なお「成績証明書」には、GPAは記載されません。

6. Web科目登録について

各学期初めに履修科目の登録をMyWASEDAで行います。詳細については研究科事務所前の掲示板、IPSスクエアを参照して下さい。

IV 博士後期課程の教育内容

1. 教育課程の特徴

本研究科博士後期課程の基本的な特徴の第一は、体系的な専門能力と研究能力の練成を目的とする修士課程の仕組みを継承しつつ、教育・研究者のみならず、社会の各方面で活躍しうる高度な専門能力と創造性豊かな研究企画力や、研究推進力を有する人材の育成を図ることにあります。特に本研究科では積極的にベンチャー企業を設立していくような行動力ある博士学位取得者を育てることも目指しています。

第二の特徴は、本研究科の博士後期課程の学生は大学院のみならず情報生産システム研究センターで展開されている産・学・官共同研究プロジェクトに参加し、実際の課題を対象とした研究に従事できる点です。本研究科が対象とする情報、生産、システムという学問分野では実際の生産現場や応用分野における問題の正しい理解にもとづいた研究がなされなければなりません。本研究科は情報生産システム研究センターと一体となって北九州学術研究都市に開設されているので、同研究センターで遂行されているプロジェクト研究に加わって研究を遂行することができるという特徴があります。

第三の特徴は、プロジェクト研究に参画して本研究科内外の優秀な技術者・研究者と交流するほか、学会での研究成果報告も積極的に行なうことによって、内外の専門家の評価を受けることです。これによりグローバルスタンダードの学位水準を維持することができます。

これらの特徴を踏まえ、博士後期課程では、学生は情報アーキテクチャ、生産システム、集積システムのいずれかの分野に属し、所属する研究の指導教員のほか、同一分野または他分野の教員からの助言を受けて高度でグローバルな研究を行います。

研究の進め方としては、修士課程と同様に所属する研究室の指導教員の指導の下で高度な独自性のある研究を遂行するほか、指導教員が情報生産システム研究センターで展開しているプロジェクト研究に参画して、チームでの研究の一端を担うこともあります。いずれにしても、研究の過程で得られた研究成果については国内学術講演会、国際会議、学術論文誌への投稿、などの形で発表を行い、内外の評価を得て研究のグローバルスタンダードを維持します。

博士後期課程では、修得すべき単位数は設けませんが、指導教員の了解の下、本研究科の設置科目を受講し、学問領域を広げることができます。また、提携している国外の大学院などへ留学し、国外の教授・研究者との共同研究あるいは受講によって国際性のある研究者としての育成の機会も得ることができます。

2. 修了年限と修了要件(博士後期課程)

博士後期課程を修了するには、標準で博士後期課程に3年以上在学し、本研究科の定める研究指導を受けた後、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。(要件を満たせば早期に修了も可)

3. 研究指導の方法・スケジュール

学生は、指導教員の研究指導のもとで研究を行います。研究の進め方として、個別に研究計画を立案して研究を進めるものとします。

指導教員は、研究計画の立案を指導するとともに、先行研究のガイダンスや研究に必須となる資料検索及び収集・分析作業等専門的なトレーニングを随時実施し、論文作成までの一貫した指導を行います。

新入生は、修士での研究などに基づいて入学前に作成した研究計画に基づき、研究をスタートします。入学時には主たる指導教員は決められており、配属先の研究室でのゼミなどを通して研究指導を受けます。また、入学後に副指導教員が1名以上選定されます。講義については、研究倫理教育の履修が義務付けられており、通常は最初の学期で履修します。1年目は主指導教員、副指導教員の指導のもとで研究を進め、成果が出た段階で、研究成果を国際会議や学術誌に論文として投稿します。2年目も主指導教員、副指導教員の指導のもとで研究を行い、国際会議や学術誌に論文を投稿します。3年目には主指導教員、副指導教員が、これまでの研究成果に基づき博士論文作成の指導をします。博士論文の草稿ができた時点で、研究科内の分野において予備審査会を行い、最終審査に至る前の審査を受けます。予備審査会での合格をもって研究科長に学位申請を行うことができ、これが受理された場合には、研究科内で学位の審査が行われます。

主指導教員決定、研究計画策定
副指導教員選定
1 年次：研究倫理教育履修、研究指導 国際会議、学術誌への論文投稿
2 年次：研究指導 国際会議、学術誌への論文投稿
3 年次：研究指導・博士論文作成指導
予備審査会
学位申請

4. 研究指導体制について

博士課程については、入学時から主指導教員と1名以上の副指導教員を選定し、3年間を通して継続的に研究指導を受けます。分野毎の教員の名簿を以下に示します。

指導教員・研究指導一覧

分 野	指導教員	研究指導名
情報 アー キテ ク チャ	教授 藤村 茂	スマートインダストリー研究
	教授 古月 敏之	ニューロコンピューティング研究
	教授 岩井原 瑞穂	データ工学研究
	教授 鎌田 清一郎	イメージメディア研究
	教授 亀岡 遼	バイオ情報センシング研究
	教授 ルバージュ イヴ	用例翻訳・言語処理研究
	教授 松丸 隆文	バイオ・ロボティクス&ヒューマン・メカトロニクス研究
	教授 坪川 信	光ファイバシステム研究
	教授 吉江 修	コミュニティ・コンピューティング研究
	教授 伍 軍	ネットワークインテリジェンスとセキュリティ研究
	教授 荒川 雅生	設計工学システム研究
生 産 シ ス テ ム	教授 橋本 健二	移動ロボティクス・プラットフォーム研究
	教授 馬渡 和真	マイクロナノ流体デバイス研究
	教授 三宅 丈雄	先端バイオエレクトロニクス研究
	教授 田中 英一郎	機械システム設計研究
	教授 立野 繁之	生産プロセス工学研究
	教授 植田 研二	薄膜機能材料研究
	教授 志村 考功	半導体デバイス材料工学研究
	教授 高橋 淳子	生体医学研究
	教授 池橋 民雄	マイクロ電気機械システム研究
集 積 シ ス テ ム	教授 池永 剛	画像情報システム研究
	教授 木村 晋二	高位検証技術研究
	教授 牧野 昭二	知的音響システム研究
	教授 丹沢 徹	グリーン集積システム研究
	教授 山崎 慎太郎	集積システム最適化研究
	教授 吉増 敏彦	無線通信回路技術研究
	准教授 碓塚 孝明	発光システム研究
	准教授 高畑 清人	光電子集積システム研究
	准教授 芹田 和則	テラヘルツ集積システム研究

5. 科目履修

博士後期課程では修得すべき単位数は設けてはいませんが、指導教員の了解のもとで、本研究科の授業科目および他研究科授業科目を受講し学問領域を広げることが可能です。

6. 学位審査の方法

博士後期課程は、企業からの派遣者、既卒の社会人学生、留学生等を区別することなく、一貫した指導体制の下で、研究指導を行うとともに、公正な学位論文の審査体制を設けます。すなわち、原則として指導教員を論文主任審査員とし、3人以上の論文審査員により論文審査を行います。この結果を、本研究科の教員で構成される「研究科運営委員会」に報告し、厳正に判断します。研究成果については、早稲田大学リポジトリ、学会誌、シンポジウム、国際会議等で幅広く公開されていることとします。

7. 博士学位論文審査基準

- 1) 情報生産システム研究において、有用で新たな知見を含む内容であり、かつ十分な学術的価値を持つ自著の論文であること。
- 2) 研究の意義、目的、および、先行研究の調査に基づく研究課題の位置づけが述べられており、問題設定、分析、研究方法、結果、考察等の論旨が、明確かつ適切で一貫していること。
- 3) 式、記号、図、用語の使い方、文章表現が学術論文として適切であること。
- 4) 学術研究倫理に係るガイドラインを遵守して遂行された研究の成果であること。
- 5) 学位論文の発表審査において、学位申請者が学位論文の内容の意義、結果についての的確に発表できること。
- 6) 博士学位論文審査は、主査・副査を含む複数の教員によって行い、研究科により合否判定される。

8. 成績評価方法

研究指導の成績、論文発表の結果を下図のように評価・表示します。

成績証明書の発行が可能です。(単位は取得しない)

評価対象	点 数	成績通知書の表示	成績証明書の表示	判定
研究指導及び 論文発表	点数無し	P	P	了
	点数無し	Q	表示無し	未

9. 学修成果

- 1) 自らが取組む学習・研究について計画を立て、これを実施するために必要な専門知識を身につけ、それらを応用できる
- 2) 情報倫理、情報セキュリティについて正しい理解をもち実践できる。
- 3) 自らの専門領域における技術動向を調査・把握し、自らが取組むべき課題を適切に設定できる。
- 4) 設定した課題を解決する手法、手段を提案し、これを客観的に検証して健全性、新規性、有効性を示すことができる。
- 5) 自分のアイデアや考えを正しく他人に伝えることができ、高い倫理観のもと、他人とのコミュニケーションにおける主張と協調のプロセスを身につけている。
- 6) 構想した解決手法を適正に実現する手段を計画・実行することができる。
- 7) 技術発展に著しく貢献する独創的な研究をしている。

●実体情報学コース●

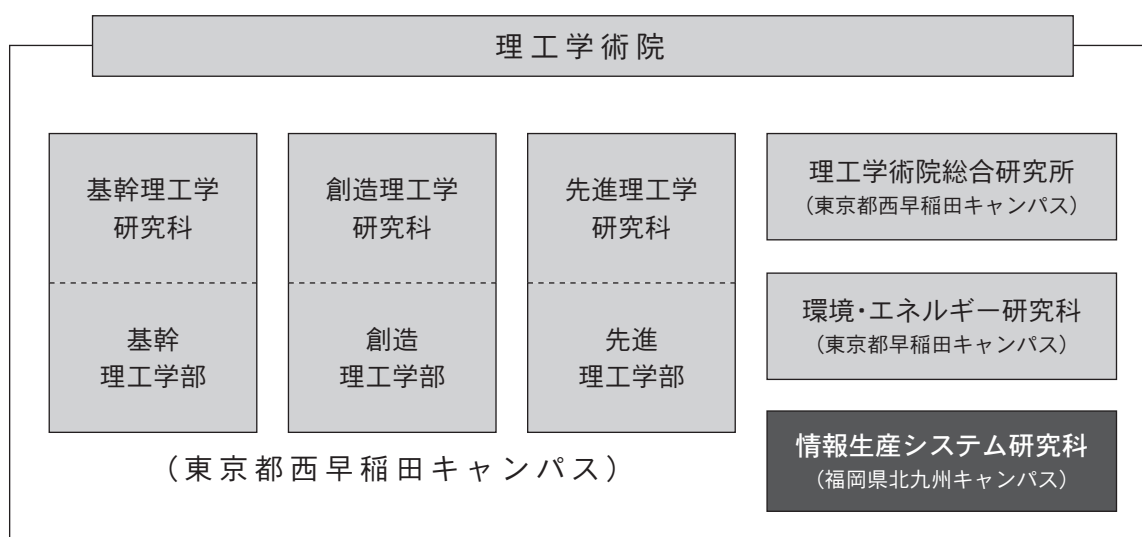
2014年度より、理工学術院の5研究科に属する以下の専攻に「実体情報学コース」を設置する。

基幹理工学研究科	数学応用数理専攻、機械科学・航空宇宙専攻、情報理工・情報通信専攻、表現工学専攻、 電子物理システム学専攻、材料科学専攻
創造理工学研究科	総合機械工学専攻、経営システム工学専攻
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻、生命理工学専攻
環境・エネルギー研究科	環境・エネルギー専攻
情報生産システム研究科	情報生産システム工学専攻

実体情報学コースは、情報技術が持つコンピューティングベネフィット(計算の効果)、通信技術が持つネットワークベネフィット(資源共有の効果)、機械技術が持つボディベネフィット(実在と力の効果)の複合的価値創出を指向する中で、医療・環境エネルギー等の重要分野におけるアプリケーションベネフィット(問題を解くこと自体の直接的価値)を導く、「実体」と「情報」の融合学としての「実体情報学(Embodiment Informatics)」を構成し、この新学術領域におけるイノベーションを先導する、先見力、構想力、突破力を兼備した人材を輩出することを目指して創設された。

コース進入の可否は面接試験等により判断する。コース進入を許可された学生には、所属する研究科の要項とは別に「別冊：実体情報学コース要項」を配布する。実体情報学コースの修了要件は、この「別冊：実体情報学コース要項」に定めるので、必ず内容を参照すること。

〈理工学術院 組織構成〉



V 博士学位審査に関する取り扱い

1. 学位請求の申出と取り扱い

学位請求の申出を受けた情報生産システム研究科教員(以下教員という)は学位授与の要件(研究科事務所:学務係にて確認すること)を満たしているか否かを予備的に判断し、資料(略歴、業績表、論文別刷等)を添えてその教員の所属する分野会議に、学位審査を提案する。

2. 分野会議による原案作成

分野会議は教員の説明にもとづき受理の要件についての判断を行い、

- ・(課程内の場合)予定される3名以上の「論文審査員」
- ・(課程外の場合)その他に予定される「資格検定科目」、「同検定審査員」

の原案を作成し、分野主任会議に提出する。なお、「論文審査員」には「論文審査」(課程外の場合は「論文審査」と「資格検定審査」)を統括する「主任審査員」の予定者が含まれているものとする(以下特に断らない場合、「審査員」は「主任審査員」を含むものとする)。

主任審査員は博士後期課程研究指導担当の専任教員、特任教授、任期付教員でなければならない。

学位請求者が教員の仲介を経ることなく、直接、学則・規則の定める学位請求の手続を行う場合があり得るが、情報生産システム研究科長(以下「研究科長」という)は適当と考えられる分野に本段階の手続の実行を依頼することができる。

審査開始の判断にあたっては、予備審査会の開催を必要とする。

3. 分野主任会議による原案検討

研究科長は前記手続によって、提出された学位審査に関する事項(請求者氏名、論文題目、予定される審査員、資格検定科目等)を分野主任会議に諮る。分野主任会議では審査員の人選を中心に協議し、研究科運営委員会に提出する原案を作成する。

4. 研究科運営委員会による受理

研究科運営委員会による学位請求の「受理」・「論文審査員」を決定する。課程外の学位請求に対しては、その他に「資格検定科目」、「同検定審査員」を決定する。本研究科運営委員会は構成員の1/3の出席で成立し、出席研究科構成員の過半数の同意で決定する。

5. 論文審査と資格検定

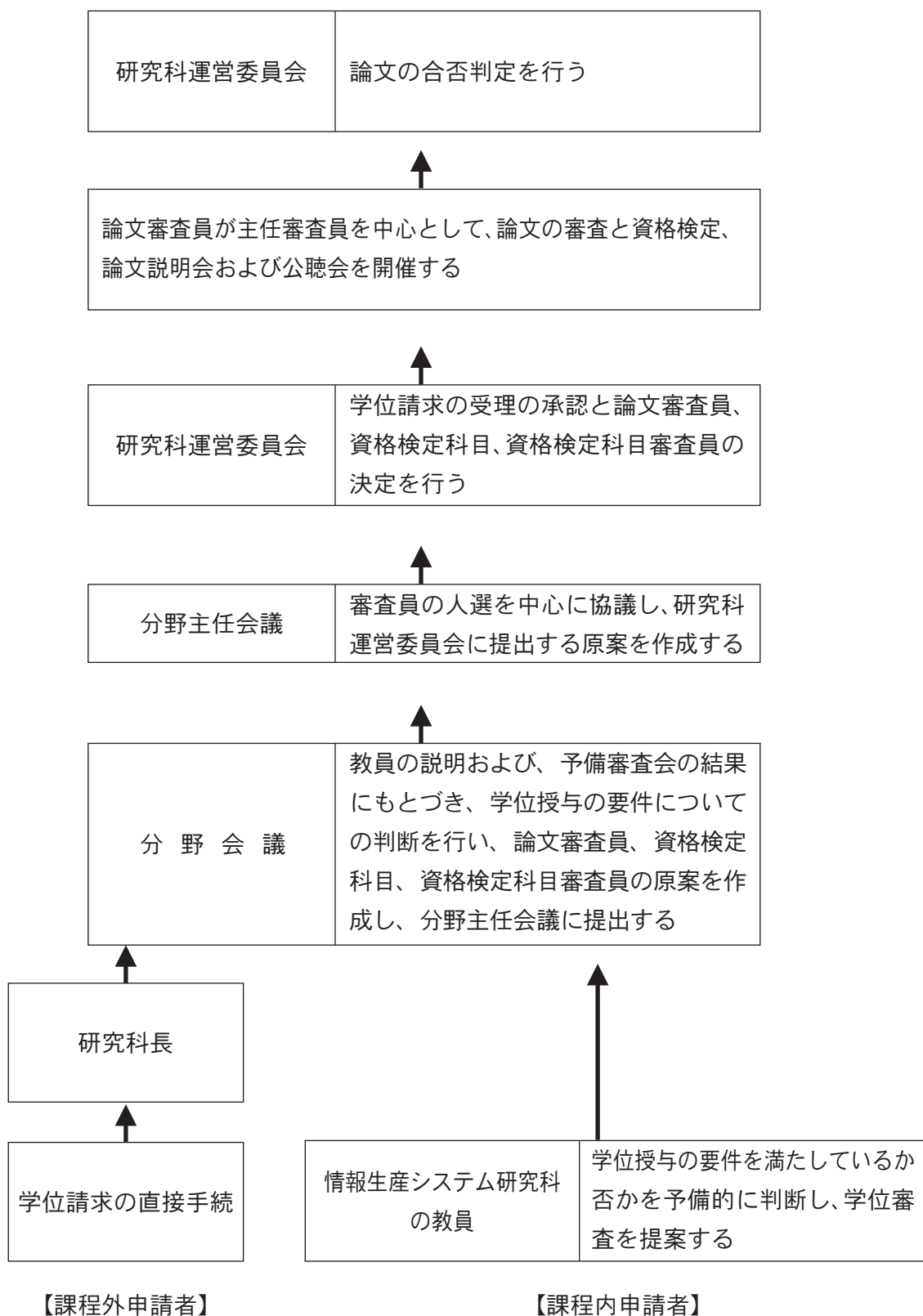
論文審査と資格検定は学則・規則に準拠して行ない、その具体的方法は審査員に委ねるが、論文説明会および公聴会を行うことを原則とする。「主任審査員」は論文審査と資格検定審査を統括し、論文審査については「論文審査報告書」を、資格検定については「資格検定結果」を作成し研究科長に提出する。

6. 研究科運営委員会による合否判定

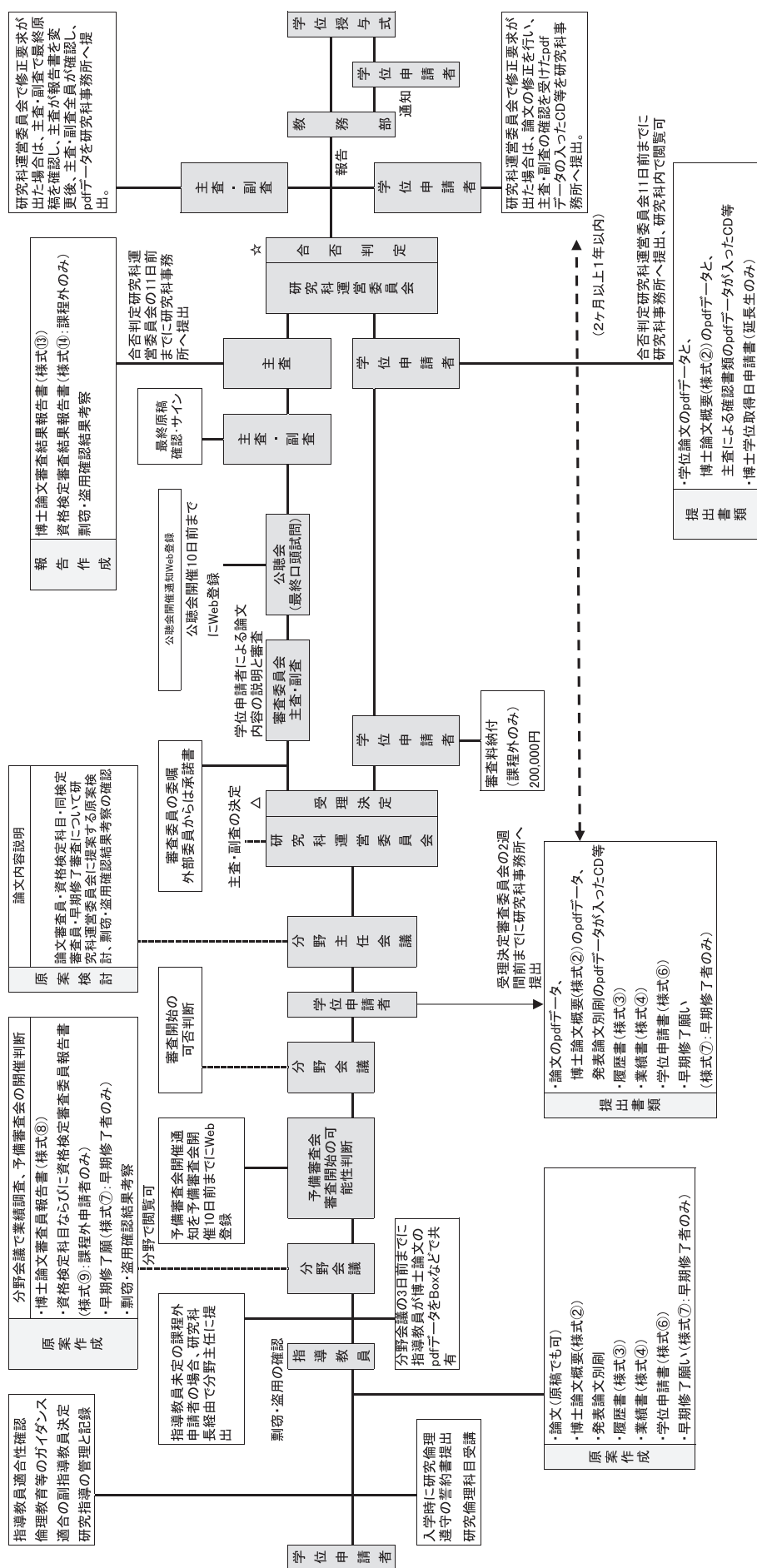
合否判定に関する研究科運営委員会は構成員の2/3の出席をもって成立し、無記名投票によって学位授与の合否を判定する。但し出席した構成員の2/3以上の賛成によって合格する。

7. 大学および文部科学省への報告

申請手順



早稲田大学大学院生産システム博士学位申請手続を(博士入学時から学位取得までのフロー一)



***申請スケジュール、提出書類については研究科事務所にて確認

*様式②～⑭はIPS Squareよりダウンロードすること

注 ① 研究科運営委員会構成員の1/3出席で成立、出席研究科委員の過半数の同意で決定
 ☆ 博士論文審査委員会の構成員の2/3出席で成立。論文審査は無記名投票で
 出席構成員の2/3の賛成で合格

VI 早稲田大学学位規則(抜粋)

第1条 この規則は、早稲田大学学則(1949年4月1日示達。以下「大学学則」という。)および早稲田大学大学院学則(1976年教務達第1号。以下「大学院学則」という。)に定めるもののほか、早稲田大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

(学位)

第2条 本大学において授与する学位は、学士、博士、修士および専門職学位とする。

3 博士の学位は次のとおりとする。

研究科	専攻	学位(専攻分野)
情報生産システム研究科	情報生産システム工学専攻	博士(工学)

(情報生産システム研究科のみ抜粋)

5 修士の学位は次のとおりとする。

研究科	専攻	学位(専攻分野)
情報生産システム研究科	情報生産システム工学専攻	修士(工学)

(情報生産システム研究科のみ抜粋)

(博士学位授与の要件)

第4条 博士の学位は、大学院学則第14条により博士課程を修了した者に授与する。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位は本大学院の博士課程を経ない者であっても、大学院学則第17条により授与することができる。

(修士学位授与の要件)

第6条 修士の学位は、大学院学則第13条により修士課程を修了した者に授与する。

(課程による者の学位論文の受理)

第7条 本大学院の課程による者が、学位論文の審査を求めるときは、各研究科の定めるところにより、学位論文および論文概要書を研究科長に提出するものとする。

2 研究科長は、前項の学位論文を受理したときは、学位を授与できる者か否かについて研究科運営委員会の審査に付さなければならない。

(課程によらない者の学位の申請)

第8条 第4条第2項の規定により学位の授与を申請する者は、その申請する学位の専攻分野に応じた研究科の定めるところにより、学位申請書、博士論文、論文概要書および履歴書を総長に提出しなければならない。

(課程によらない者の学位論文の受理)

第9条 前条の規定による博士論文の提出があったときは、総長は、その論文を審査すべき研究科運営委員会の議を経て、受理するか否かを決定し、受理することに決定した学位論文について審査を付託するものとする。

2 研究科長は、受理の可否および審査のため必要と認めるときは、前条に規定する論文の部数のほか、必要な部数を追加して提出させることができる。

(学位論文)

第10条 博士、修士および専門職学位の学位論文は1篇に限る。ただし、参考として、他の論文を添付することができる。

- 2 前項により、一旦受理した学位論文等は返還しない。
- 3 審査のため必要があるときには、学位論文の副本、訳文、模型または標本等の資料を提出させることがある。

(公開発表)

第10条の2 研究科長は、博士論文を提出する者または提出した者に、当該博士論文の公開発表の機会を設ける。

- 2 公開発表の方法、時期その他の必要事項は、研究科運営委員会において定める。

(審査料)

第11条 第9条の規定により、学位論文を受理したときは、学位の申請者にその旨を通知し、別に定める審査料を納付させなければならない。ただし、一旦納付した審査料は返還しない。

(審査員)

第12条 研究科運営委員会は、第7条第2項の規定により、学位論文が審査に付されたとき、または第8条および第9条の規定により、学位の審査を付託されたときは、当該研究科の教員のうちから、3人以上の審査員を選任し、学位論文の審査および試験または学識の確認を委託しなければならない。

- 2 研究科運営委員会は必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず本大学の教員または教員であった者を、学位論文の審査および試験または学識の確認の審査員に委嘱することができる。
- 3 研究科運営委員会は必要と認めたときは、第1項の規定にかかわらず他の大学院または研究所等の教員等に学位論文の審査員を委嘱することができる。
- 4 研究科運営委員会は、第1項の審査員のうち1人を主任審査員として指名しなければならない。ただし、研究科運営委員会が必要と認めたときは、第2項の審査員のうち、本大学の専任教員である者または協定等に基づいて嘱任した客員教員を主任審査員として指名することができる。

(審査期間)

第13条 修士学位および専門職学位の授与にかかわる論文の審査および試験は、論文提出後3か月以内に、また博士学位の授与にかかわる論文の審査、試験および学識の確認は、論文の提出または学位の授与の申請を受理した後、1年以内に終了しなければならない。ただし、特別の理由があるときは、研究科運営委員会の議を経てその期間を延長することができる。

(面接試験)

第14条 第8条の規定により学位の授与を申請した者については、博士論文の審査のほか、面接試験を行う。この試験の方法は研究科運営委員会において定める。

- 2 前項の規定にかかわらず、研究科運営委員会が特別の理由があると認めたときは、面接試験を行わないことができる。

(試験)

第15条 大学院学則第14条による試験の方法は、研究科運営委員会において定める。

(学識確認の方法)

第16条 大学院学則第17条による学識の確認は、博士論文に関連ある専攻分野の科目および外国語についての試問の方法によって行うものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず研究科運営委員会が特別の理由があると認めた場合は、学識の確認のための試問の一部または全部を免除することができる。

(審査結果の報告)

第17条 博士の学位に関する審査が終了したときは、審査員は速やかに審査の結果および評価に関する意見を記載した審査報告書を研究科運営委員会に提出しなければならない。

(学位論文の判定)

第18条 前条の審査の報告に基づき、研究科運営委員会は無記名投票により、合格、不合格を決定する。ただし、特別の場合には、他の方法によることができるものとし、その方法については、研究科長会の承認を得なければならない。

- 2 前項の判定を行う研究科運営委員会には、当該研究科運営委員の3分の2以上の出席を要し、合格の判定については、出席した委員の3分の2以上の賛成がなければならない。この場合の定足数の算定に当たっては、外国出張中の者、休職中の者、病気その他の事由により、引き続き2か月以上欠勤中の者、および所属長の許可を得て出張中の者は、当該研究科運営委員の数に算入しない。
- 3 前項の規定にかかわらず、研究科運営委員会が必要と認めたときは、当該研究科運営委員以外の第12条に規定する審査員を学位論文判定の審議に加えることができるものとする。
- 4 研究科運営委員会が第1項の可否を決定したときは、研究科長はこれを総長に報告しなければならない。

(学位の授与)

第19条 総長は、前条第4項の規定による報告に基づいて学位を授与し、学位記を交付する。

- 2 学位を授与できない者には、その旨を通知する。

(論文審査要旨の公表)

第20条 博士の学位を授与したときは、その論文の審査要旨は、インターネットの利用によってこれを公表する。

(学位論文の公表)

第21条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士論文の全文を、公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に、公表されているときは、この限りではない。

- 2 前項の規定にかかわらず博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、研究科運営委員会の承認を受けて、当該博士論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、大学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- 3 前2項に規定する博士の学位を授与された者が行う公表は、インターネットの利用によって行うものとし、第1項の規定により、公表する場合は、当該論文に「早稲田大学審査学位論文(博士)」と、また前項の規定により公表する場合は、当該論文の要旨に、「早稲田大学審査学位論文(博士)の要旨」と明記しなければならない。

(学位の名称)

第22条 本大学の授与する学位には、早稲田大学と付記するものとする。

- 2 共同教育課程を修了した者に授与する学位には、当該共同教育課程を編成する大学名および専攻名を付記するものとする。

(学位授与の取消)

第23条 本大学において博士、修士または専門職学位を授与された者につき、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、総長は、当該研究科運営委員会および研究科長会の議を経て、既に授与した学位を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

- 2 研究科運営委員会において前項の議決を行う場合は、第18条第2項の規定を準用する。
- 3 第1項において博士学位を取り消された者は、再び博士学位の授与を申請することはできない。

Ⅶ 早稲田大学大学院学則(抜粋)

第1章 総則

(設置の目的)

第1条 本大学院は、高度にして専門的な学術の理論および応用を研究、教授し、その深奥を究めて、文化の創造、発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

(博士課程)

第2条 本大学院に博士課程をおく。

- 2 博士課程の標準修業年限は、5年とする。
- 3 博士課程のうち、前期2年、後期3年に区分することができ、この区分をするものを「区分制博士課程」といい、この区分をしないものを「一貫制博士課程」という。
- 4 区分制博士課程における前期2年の課程は「修士課程」といい、この場合における後期3年の課程は「博士後期課程」という。
- 5 修士課程の標準修業年限は、2年とする。ただし、教育研究上の必要があると認められる場合には、研究科、専攻または学生の履修上の区分に応じ、その標準修業年限は、2年を超えるものとすることができる。
- 6 前項の規定にかかわらず、修士課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって、教育研究上の必要があり、かつ、昼間と併せて夜間その他特定の時間または時期において授業または研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻または学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を1年以上2年未満の期間とすることができる。

(課程の趣旨)

第3条 一貫制博士課程および博士後期課程は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

2 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

(研究科の構成)

第4条 本大学院に次の研究科をおき、各研究科にそれぞれの専攻をおく。

研究科	課程	
	修士課程	博士後期課程
情報生産システム研究科	情報生産システム工学専攻	情報生産システム工学専攻

(情報生産システム研究科のみ抜粋)

(収容定員)

第5条 各研究科の収容定員は、次のとおりとする。

研究科	専攻	修士課程		博士後期課程		合 計 収容定員
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
情報生産システム研究科	情報生産システム工学専攻	200	400	20	60	460

(情報生産システム研究科のみ抜粋)

第2章 教育方法等

(教育方法)

第6条 本大学院の教育は、授業科目および学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行うものとする。

(履修方法等)

第7条 各研究科における授業科目、単位数および研究指導ならびにこれらの履修方法は各研究科において別に定める。

2 学生の研究指導を担当する教員を指導教員という。

3 本大学院の講義、演習、実習などの授業科目の単位数の計算については、学則第12条および第13条の規定を準用する。

(入学前の既修得単位の認定)

第8条の2 当該研究科運営委員会等において教育研究上有益と認めるときは、本大学院に入学する前に本大学院または他大学の大学院(外国の大学の大学院および国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する国際連合大学(以下「国際連合大学」という。)を含む。)において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含み、学則第52条に規定する単位として算入したものを除く。)を、第13条に規定する単位(次項において「修了要件単位」という。)に充当することができる。

2 前項の規定により修了要件単位に充当することができる単位数は、当該学生が入学した研究科において修得した単位以外のものについては、15単位を超えないものとし、かつ、その総数は、修了要件単位数の2分の1を超えないものとする。

(授業科目の委託)

第9条 当該研究科運営委員会等において教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院(外国の大学の大学院および国際連合大学を含む。)とあらかじめ協議の上、その大学院の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修させた単位は15単位を超えない範囲、かつ、第8条の2第2項の規定により修了要件単位に充当することができる単位数と合わせて20単位を超えない範囲で修了要件単位に充当することができる。

(研究指導の委託)

第10条 当該研究科運営委員会等において、教育研究上有益と認めるときは、他大学の大学院または研究所(外国の大学の大学院または研究所および国際連合大学を含む。)とあらかじめ協議の上、本大学院の学生にその大学院等において研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生について認める場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(単位の認定)

第11条 授業科目を履修した者に対しては、試験その他の方法によって、その合格者に所定の単位を与える。

(試験および成績評価)

第12条 授業科目に関する試験は、当該研究科運営委員会等の定める方法によって、毎学年末、またはその研究科運営委員会等が適当と認める時期に行う。

2 授業科目の成績は、A+、A、B、CおよびFの五級に分ち、A+、A、BおよびCを合格とし、Fを不合格とする。ただし、研究指導等の成績については、PおよびQの二級に分ち、Pを合格とし、Qを不合格とすることができる。

第3章 課程の修了および学位の授与

(修士課程の修了要件)

第13条 修士課程の修了の要件は、大学院修士課程に2年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の授業科目について所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、大学院修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(博士課程の修了要件)

第14条 博士課程の修了の要件は、博士課程に5年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、博士課程に3年(修士課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

2 第2条第6項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者および第13条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件は、博士課程に修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、各研究科の定めた所定の単位を修得し、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、博士課程に3年(修士課程における在学期間を含む。)以上在学すれば足りるものとする。

3 研究科運営委員会等は、第8条の2の規定により当該大学院に入学する前に修得した単位(第28条の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。)を当該大学院において修得したものとみなす場合であつて、当該単位の修得により当該大学院の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で当該大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。

4 前項の規定は、修士課程を修了した者の第1項(第2項の規定により読み替えて適用する場合を含む。以下この項において同じ。)に規定する博士課程における在学期間(第1項の規定により博士課程における在学期間に含む修士課程における在学期間を除く。)については、適用しない。

5 前4項の規定にかかわらず、第29条第2号、第3号、第4号および第5号の規定により、博士後期課程への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士後期課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、博士課程に3年以上在学し、各研究科の定めた所定の博士論文提出資格要件を満たし、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り、博士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

博士論文を提出しないで退学した者のうち、博士後期課程の場合は3年以上在学し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、退学した日から起算して3年以内に限り、当該研究科運営委員会等の許可を得て、博士論文を提出し、試験を受けることができる。

(博士学位の授与)

第15条 博士課程を修了した者には、博士の学位を授与する。

(修士学位の授与)

第16条 修士課程を修了した者には、修士の学位を授与する。

(学位規則)

第18条 この学則に定めるもののほか、学位に付記する専攻分野名その他学位に関し必要な事項は、早稲田大学学位規則をもって別に定める。

第4章 教員、運営委員会および職員

(担当教員)

第19条 本大学院における授業科目の担当は、本大学の教授、准教授、講師、助教、特任教授、客員教授、客員准教授および客員講師が行う。ただし、特別の事情がある場合には、研究員が授業科目を担当することができる。

2 本大学院における研究指導は、本大学の教授、准教授、特任教授、客員教授および客員准教授が行う。ただし、特別の事情があるときは専任講師、講師(テニュアトラック)、講師(任期付)、客員講師または研究員が行うことができる。

第5章 学年、学期および休業日

(学年および学期)

第25条 本大学院の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

2 学年は次の2期に分ける。

春学期 4月1日から9月20日まで

秋学期 9月21日から翌年3月31日まで

第6章 入学、休学、退学、転学、専攻の変更および懲戒

(保護者等)

第32条 保護者等(学生が学修研究活動を円滑に遂行していく上で、本大学院と連携し、学生を指導、支援する立場の者をいう。以下同じ。)は、学生が在学中に本大学院の諸規則、指示および遵守事項を守るよう指導し、監督する責任を負う。

2 保護者等として不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。

3 保護者等が死亡し、またはその他の理由でその責務を果たし得ない場合には、新たに保護者等を選定して届け出なければならない。

(在学年数の制限)

- 第33条** 本大学院における在学年数は、修士課程にあっては4年、博士後期課程にあっては6年を超えることはできない。
- 2 前項の規定にかかわらず2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻または学生の履修上の区分における修士課程の在学年数にあっては当該標準修業年限の2倍を超えることはできないものとする。

(休学)

- 第34条** 病気その他の理由で引き続き2か月以上出席することができない者は、休学願書にその理由を付し、保証人連署で所属する研究科の研究科長に願い出なければならない。
- 2 休学は当該学年限りとする。ただし、特別の事情がある場合には、引続き休学を許可することがある。この場合、休学の期間は通算し修士課程においては2年、博士後期課程においては3年を超えることはできない。
- 3 前項の規定にかかわらず2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻または学生の履修上の区分における修士課程の通算年数にあっては当該標準修業年限を超えることはできない。
- 4 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。
- 5 休学期間は、在学年数に算入しない。

(専攻および研究科の変更等)

- 第35条** 専攻および研究科の変更または転入学に関する願い出があった場合には、当該研究科運営委員会等の議を経てこれを許可することができる。

(任意退学)

- 第36条** 任意に退学しようとする者は、理由を付し、保証人と連署で願い出なければならない。

(措置退学)

- 第37条の2** 次の各号の一に該当する者については、退学の措置をとるものとする。
- 一 第33条に定める在学年数を満了した者
 - 二 指導教員から博士後期課程および一貫制博士課程において研究指導を終了する旨の報告が教授会に対してされた者
 - 三 各研究科が定める一の学年から次の学年に進むための要件を満たすべき期間を満了した者
 - 四 正当な理由がなく、各研究科が定める出席基準を満たさない者
 - 五 学業を怠り、各研究科が定める必要単位数を一定期間に満たさない者

(懲戒)

- 第38条** 学生が、本大学の規約に違反し、または学生の本分に反する行為があったときは懲戒処分に付することができる。
- 2 懲戒は、訓告、停学、退学の3種とする。

(懲戒退学)

- 第39条** 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者は、懲戒による退学処分に付する。

(再入学)

第39条の2 第36条または第37条の2第4号および第5号の規定により退学した者が再入学を志望したときは、別に定める期間内に限り、選考の上これを許可することがある。ただし、退学した日の属する学期の翌学期の始めにおいてこれを許可することはできない。

2 第39条の規定により退学した者が再入学を志望したときは、これを許可しない。ただし、退学後別に定める期間を経過し、改悛の情が顕著でありかつ成業の見込みがある場合には、選考の上これを許可することがある。

3 再入学を許可された者が退学または学費未納により抹籍となった場合、以後の再入学は認めない。ただし、特別の事情がある場合はこの限りではない。

4 第1項から前項までの規定により再入学を許可した場合においては、既修の科目の全部または一部を再び履修させることがある。

(教授会の議)

第39条の3 入学、退学、休学もしくは研究科の変更の許可または懲戒は、各教授会の議を経てこれを行う。懲戒による退学とすべき事由がある者については、他の事由による退学を認めないものとする。

第7章 入学金・授業料・施設費・教育環境整備費・演習料および実験演習料等

(授業料等の納入期日)

第41条の2 学生は、第31条の場合を除き、次の各号に掲げる学期に係る授業料、施設費、教育環境整備費、演習料および実験演習料(以下「授業料等」という。)を当該各号に掲げる日までに大学に納めなければならない。

一 春学期 4月15日

二 秋学期 10月1日

(納入学費の取扱)

第43条 既に納入した授業料およびその他の学費は、事情のいかんにかかわらず返還しない。

(中途退学者の学費)

第44条 学年の途中で退学した者でも、その期の学費を納入しなければならない。

(抹籍)

第45条 学費の納入を怠った者は、抹籍することがある。

第9章 科目等履修生

(科目等履修生)

第51条 第27条から第29条までの規定によらないで、本大学院において授業科目を履修しようとする者または特定課題についての研究指導を受けようとする者があるときは、科目等履修生として入学させることができる。

(科目等履修生の種類)

第52条 官公庁、外国政府、学校、研究機関、民間団体等の委託に基づく者を委託履修生という。

2 科目等履修生のうち、特定の目的を果たすために、大学院等の科目群から構成されるプログラムを履修しようとする者を特定プログラム履修生という。

3 前2項に定める履修生以外の者を一般科目等履修生という。

(科目等履修生の選考)

第53条 科目等履修生として入学を志願する者については、正規の学生の修学を妨げない限り、選考の上入学を許可する。

(科目等履修生の履修証明書)

第54条 科目等履修生が履修した科目について試験を受け、合格したときは、単位を授与し、本人の請求によって証明書を交付する。

(科目等履修生の学費、入学手続等)

第55条 科目等履修生は、聴講料および研究指導料を納めなければならない。

2 科目等履修生の入学手続、学籍等の取扱いについては、別に規程をもって定める。

(正規学生の規定準用)

第56条 科目等履修生については、第3章ならびに第33条および第34条を除き、正規の学生に関する規定を準用する。

第10章 研究生

(研究生)

第57条 本大学院博士後期課程に6年間に在学し、博士論文を提出しないで退学した者のうち、引き続き大学院において博士論文作成のため研究指導を受けようとする者があるときは、研究生として入学させることができる。

(研究生の選考)

第58条 研究生として研究指導を受けようとする者については、正規の学生の修学を妨げない限り、選考の上入学を許可する。

(研究生の入学手続、学費および在学期間等)

第59条 研究生の入学手続、学費および在学期間等については別に規程をもって定める。

(正規学生の規定準用)

第60条 研究生については、本章の規定および別に定める規程によるほか、正規の学生に関する規定を準用する。

VIII 学生生活に関する各種情報

1 日常の研究生生活について	30
2 掲示について	30
3 事務取扱時間について	30
4 学籍番号について	31
5 学生証について	31
6 北九州学術研究都市キャンパスカードについて	31
7 各種願・届について	32
8 学費等の納入と抹籍について	33
9 各種証明書について	34
10 授業欠席の取り扱いについて	34
11 全学休講の取り扱いについて	35
12 奨学金について	36
13 医療給付について	36
14 事故にあった際の補償制度について	36
15 学業や学生生活で悩んだら？	36
16 健康診断実施について	36
17 AED設置場所	36
18 就職活動について	37
19 教育訓練給付制度について	37
20 留学生の方へ	38
21 ハラスメントの防止	39
22 スチューデントダイバーシティセンター	40

VIII 学生生活に関する各種情報

1. 日常の研究生生活について

北九州学術研究都市には、早稲田大学の他に北九州市立大学、九州工業大学、福岡大学、産学連携センター等の大学、企業、研究所が設置されており、共同で使用する施設があるので、お互いに譲り合って気持ちよく利用することが求められます。皆さんは早稲田大学の大学院生としての自覚をもって行動し、定められた施設を利用するようにして下さい。また、自ら出したごみ類は責任を持って処理するようにして下さい。

大学院棟への入館可能時間 8:00～22:30

コンピュータ実習室、自習室、語学ラボ 9:00～22:00

＊休業期間中には変更となりますので、掲示に留意して下さい。

尚、日曜日および祭日は終日入館できません。(但し、祭日が開校日の場合は入館可)

- a. 大学院生の学園生活の拠点として学生ロビーがあります。(ロッカー使用可。詳細は研究科事務所にてお尋ね下さい。)
- b. 学生ロビーのほか講義室エリアのロビーには休憩コーナーがありますので、休憩・討論・談話などいろいろな目的でご利用下さい。ジュース類の販売機は学生ロビーに備えてあります。なお、大学院棟共有部分の灰皿の設置してある場所以外は禁煙です。
- c. 学生用駐車場の利用が可能です(年額3,000円)。研究科事務所にてお申し込み下さい。
- d. 図書館等関連施設の利用については、学研都市内、学術情報センター等を利用して下さい。利用時にはキャンパスカードが必要です。利用方法などの詳細は、新入生向けに配布された資料等でご確認下さい。また、早稲田大学中央図書館(早稲田キャンパス18号館)、理工学図書館(西早稲田キャンパス51号館)を利用する際には学生証が必要です。
 - ・資料の取寄せ(ILL)について

学術情報センター図書館を通じて、早稲田大学図書館等からの図書資料取寄せが可能です。

 - ・北九州学術研究都市学術情報センター(<https://media-lib.hibikino.ne.jp>)
 - ・早稲田大学中央図書館TEL:03-3203-5581(<https://www.waseda.jp/library/>)
 - ・理工学図書館TEL:03-5286-3889(<https://www.waseda.jp/library/libraries/sci-eng/>)
- e. データベース・電子ジャーナルの利用方法

大学図書館のHPより学術情報検索を利用して、IEL(IEEEおよびIETの電子ジャーナル)など、多数のデータベース・電子ジャーナルをご利用になることができます。
- f. 正規授業以外の教室利用は届出制です。無断利用はできません。事前に研究科事務所で手続きを取って下さい。
- g. その他研究生生活上、わからないことや困ったことがあれば、遠慮なく研究科事務所にお尋ね下さい。

2. 掲示について

大学院生に対する通知等情報提供は、原則としてすべて研究科事務所の掲示板や研究科ウェブサイト『IPS スクエア』(URL <https://www.waseda.jp/fsci/gips/campuslife/ipssquare/>)にて行われますので、見落としのないようご注意下さい。

3. 事務取扱時間について

研究科事務所の事務取扱時間は次の通りです。

月～金曜日 9:00～17:00

土・日・祭日他、大学が定める休業日には事務取扱をしません。夏季および冬季の授業休止期間中の事務取扱については、別途掲示等でお知らせします。

4. 学籍番号について

2024年度入学生の学籍番号は以下の通りです。

例

4	4	2	4					—	
a		b		c	d			e	

- a. 研究科コード (情報生産システム研究科は「44」)
- b. 入学年度の西暦下2桁
- c. 学科・専修コード
情報生産システム工学専攻修士課程は1
情報生産システム工学専攻博士後期課程は2
- d. 個人番号
- e. チェック・ディジット

5. 学生証について

本学の学生には学生証が交付されます。学生証は、身分を証明するものですから、キャンパス内では常に携帯し、破損・紛失しないようにして下さい。なお、下記の諸点にも注意して下さい。

- a. 学生証は入学の際に交付します。
- b. 学生証は、学生証(カード)と有効年度を明示した「裏面シール」からなり、学生証(カード)の裏面に「裏面シール」を貼り合わせることで効力が生じます。
- c. 学生証の交付を受けたら、速やかに学生証の裏面に「裏面シール」を貼り、学生証の氏名欄に、黒い油性のペンまたはボールペンで氏名(漢字)を楷書で記入して下さい。なお、留学生等で漢字を持たない学生については、裏面シールの氏名欄に印刷されているアルファベットまたはカタカナと同じように、活字で記入して下さい。
- d. 学生証(カード)は、在学期間中使用します。
- e. 「裏面シール」は、毎学年度末に研究科事務所にて交付しますので、各自貼り替えをして下さい。
- f. 住所を変更したときは、速やかにMyWasedaにて変更、または研究科事務所に届け出て下さい。
- g. 学生証を紛失したり、盗難にあつたと悪用されるおそれがありますので、十分注意するとともに、紛失等の場合には直ちに研究科事務所へ届け出て下さい。
- h. 紛失等のため再交付を受ける場合には、研究科事務所に再交付願(カラー写真1枚と所定の手数料)を提出して下さい。なお、同一年度内に2度以上再交付を願い出る場合は、保証人の連署が必要です。
- i. 試験、各種証明書・学割・通学証明書の交付、種々の配布物を受け取る時、その他本学教職員の請求があったときは学生証を呈示しなければなりません。
- j. 有効期間は、「裏面シール」に示された有効年度の4月1日から翌年3月31日までの1年間です。
- k. 学生証は、修了または退学などにより学生の身分がなくなると同時に、その効力を失いますので、直ちに研究科事務所に返却しなければなりません。修了の場合は、学生証と引き換えに学位記が授与されますので、その日まで必ず携帯して下さい。

6. 北九州学術研究都市キャンパスカードについて

北九州学術研究都市キャンパスカードは個人を認証し、研究室・大学院棟内共通施設への入退室および夜間の大学院棟への入室や、学術情報センター図書館を含む北九州学術研究都市の共同施設利用の際に必要となりますので、常時携帯してください。なお、カード引渡時にお知らせする初期パスワードとIDは、図書館(北九州学術研究都市)のコンピュータを利用する際に必要となります。大切に保管してください。

キャンパスカードを紛失した場合は、紛失カードの利用を停止するため、使用者本人であることを証明するものを持って、直ちに研究科事務所で所定の手続を行ってください。再発行の手続については、研究科事務所にてお尋ねください。(要発行手数料)

7. 各種願・届について

在学中、本人または保証人に何らかの異動等があった場合には、届け出が必要です。

用紙の請求および詳細については、研究科事務所にお問い合わせください。願または届は、以下の通りです。

- a. 休学願
- b. 復学願
- c. 退学願
- d. 再入学願
- e. 改姓名届

※改姓名届の場合は、戸籍謄本(写し可)を添えてください。

- f. 住所変更届

※MyWasedaより住所変更申請を行ってください。

- g. 保証人変更届

※保証人が住所を変更した場合および保証人を変更した場合は、直ちに届け出てください。届出がない場合、大学院からの連絡等が保証人に伝わらず、不利になるケースが多々ありますので、必ず手続きをしてください。

- h. 欠席届

・忌引き

・裁判員制度

・学校で予防すべき感染症 [保健センター / 学校保健安全法による]

※詳細は、掲示板、IPSスクエアもしくは研究科事務所にてご確認ください。

●休学について

病気その他の正当な理由により、引き続き2ヵ月以上授業に出席できない学生は、研究科所定の申請手続きに基づき、研究科長の許可を得て、休学できます。

「休学願」は春学期6月1日以降、秋学期は12月1日以降の提出はできません。

休学は、原則として当該学期に限り許可されます。ただし、特別な事情がある場合は、引き続き休学を許可することがあります。ただし休学は、在籍期間中通算し、修士課程においては2年、博士後期課程においては3年を超えることはできません。休学期間は在籍年数に算入しません。詳細については研究科事務所にお問い合わせください。

【休学中の学費】

(春学期休学)

休学申請日	休学申請可否	学費等
4月30日まで	○	・在籍料5万円 ・学生健康増進互助会費1500円
5月1日から5月31日	○	・春学期 所定学費 ・学生健康増進互助会費1500円
6月1日から9月20日	× (春学期の休学を認めない)	・春学期 所定学費 ・学生健康増進互助会費1500円

※4月入学と同時に休学する場合は申請時期に関わらず、所定学費を納入することが必要です。

(秋学期休学)

休学申請日	休学申請可否	学費等
10月31日まで	○	・在籍料5万円 ・学生健康増進互助会費1500円
11月1日から11月30日	○	・秋学期 所定学費 ・学生健康増進互助会費1500円
12月1日から翌年3月31日	× (秋学期の休学を認めない)	・秋学期 所定学費 ・学生健康増進互助会費1500円

※9月入学と同時に休学する場合は申請時期に関わらず、所定学費を納入することが必要です。

●退学について

自ら退学を希望する場合は、学生証を添えて研究科事務所へ申し出てください。

学期途中の退学をする場合でも、その学期の学費等を納めなければなりません。(下表参照)

申請日	春学期		秋学期	
	4月1日～14日	4月15日～9月20日	9月21日～30日	10月1日～3月31日
退学日	前年度3月31日	申請日又は9月20日	9月20日	申請日又は3月31日
当該学期の学費等の取扱い	徴収しない	徴収する	徴収しない	徴収する

※入学した学期に該当する場合は、入学手続き時に徴収済で、返金はありません。

詳細については研究科事務所にお問い合わせください。

8. 学費等の納入と抹籍について

(1) 学費等はそれぞれの年度において、次の期日までに納入しなければならない。

春学期 4月15日
秋学期 10月1日

(2) 2024年度入学者の学費等

※正規の課程で本大学に入学金を納め在籍した者が入学する場合は、入学金免除となる。

■修士課程

(単位:円)

年度	納入期	入学金	学費・諸経費			合計
			授業料	実験演習料	学生健康増進互助会費	
第1学年	入学時	300,000	557,000	25,000	1,500	883,500
	第2期	-	557,000	25,000	1,500	583,500
	計	300,000	1,114,000	50,000	3,000	1,467,000
第2学年	第1期	-	657,000	25,000	1,500	683,500
	第2期	-	657,000	25,000	1,500	683,500
	計	-	1,314,000	50,000	3,000	1,367,000

※他大学出身の修士課程正規入学者の方は最終学年・最終学期に校友会費40,000円(卒業後10年分)が必要となります。

※実験演習料・諸会費は改定されることがあります。

■博士後期課程

(単位:円)

年度	納入期	入学金	学費・諸経費			合計
			授業料	実験演習料	学生健康増進互助会費	
第1学年	入学時	200,000	353,500	25,000	1,500	580,000
	第2期	-	353,500	25,000	1,500	380,000
	計	200,000	707,000	50,000	3,000	960,000
第2学年	第1期	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	第2期	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	計	-	907,000	50,000	3,000	960,000
第3学年	第1期	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	第2期	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	計	-	907,000	50,000	3,000	960,000

※実験演習料・諸会費は改定されることがあります。

(3) 所定年限以上在学する学生(延長生)の各期学費取り扱いについて下記表を参照すること。

学費等	徴収する額		
授業料	修士論文もしくは博士論文(以下「修士論文等」という。)の審査に合格している者	修了に必要な単位を取得していない者	当該年度の標準修業年限の最高学年度の学生(修士2年生、博士3年生)～以下「延長生学費等算出基準学生」～が支払う金額の50%に相当する金額
	修士論文等の審査に合格していない者	前学期終了時までに修了に必要な単位を取得している者	延長生学費等算出基準学生が支払う金額の50%に相当する金額
		前学期終了時までに修了に必要な単位数を取得していない者	延長生学費等算出基準学生が支払う金額と同額
実験演習料	延長生学費等算出基準学生が支払う金額と同額		

(4) 納入方法

学費等の納入方法は学費振込用紙での振り込み、もしくは郵便局を含む全国の金融機関指定口座からの口座振替のいずれかになる。

(5) 抹籍

学費の納入を怠った場合は抹籍(本学学生の身分を失う)となり、学費が納入された学期末に遡って退学となる。この場合、在学年数及び成績の一部が無効となる。なお、特別の事情により自動的に抹籍になる日(以下参照)以前に離籍を希望する場合は、研究科事務所へ相談すること。

学期	納入期日	自動的に抹籍となる日	退学とみなす日
春学期	4月15日	9月20日	3月31日
秋学期	10月1日	翌年の3月31日	9月20日

9. 各種証明書について

以下の証明書発行が可能です。

〈修士課程〉	〈博士後期課程〉
・在学証明書(和文・英文)	・在学証明書(和文・英文)
・成績証明書(和文・英文)	・成績証明書(和文・英文)
・GPA証明書(和文・英文)	・健康診断証明書(和文)
・修了見込証明書(和文・英文)・修了証明書(和文・英文)	
・修了証明書(和文・英文)	・成績・修了証明書(和文)
・成績・修了見込証明書(和文)・学位取得証明書(和文・英文)	
・成績・修了証明書(和文)	
・健康診断証明書(和文)	

手続きは以下のサイトで確認してください。

Support Anywhere https://wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/2023/05/01/certificate_request/
IPSスクエア <https://www.waseda.jp/fsci/gips/campuslife/certificate/>

10. 授業欠席の取り扱いについて

以下の事例により、「授業欠席(オンライン授業における未受講を含む)」、「レポート未提出」、「試験未受験」に該当する場合は、所属箇所(学部・研究科等)事務所で手続きを行うことで、その間の取り扱いについて成績評価において不利にならないよう当該科目の担当教員に配慮をお願いすることができます。ただし、欠席の取扱いの最終的な判断は、担当教員の判断によります。

■ 忌引き

(1) 対象

1親等(親、子)、2親等(兄弟姉妹、祖父母、孫)および配偶者

(2) 日数

授業実施日連続7日まで(ただし、対象者が海外在住者の場合は、柔軟に対応する)

(3) 手続方法

- ①欠席期間終了後10日以内に、所属箇所事務所より「忌引きによる欠席届」を受け取る。
- ②「忌引きによる欠席届」(記入済)および会葬礼状等を、すみやかに所属箇所事務所に提出する。
※保護者等死去の場合は、保護者等変更の手続きも必要。
- ③所属箇所事務所より「忌引きによる授業欠席等に関する取扱いのお願い」を受領。
- ④担当教員に、教場にて(オンライン授業の場合はEメール、LMS等を通じて、あるいは科目設置箇所事務所に)、「忌引きによる授業欠席等に関する取扱いのお願い」を渡し、配慮をお願い出る。

■ 裁判員制度

(1) 対象

裁判員候補者に指名され、裁判員選任手続期日、審理・公判当日に、裁判所へ出頭する本学通学課程に在学する者(国内交換留学生は、これに準ずる)

※科目等履修生や人間科学部eスクール学生は対象外とする。

【参考】法律により学生であることを理由に、裁判員の辞退をお願いすることができます。

裁判員の参加する刑事裁判に関する法律(第十六条抜粋)

(辞退事由)

第十六条 次の各号のいずれかに該当する者は、裁判員となることについて辞退の申し立てをすることができる。

- 一 年齢七十年以上の者
- 二 地方公共団体の議会の議員(会期中の者に限る。)
- 三 学校教育法第一条、第二百二十四条又は第三百二十四条の学校の学生又は生徒(常時通学を要する課程に在学する者に限る。)

(2) 手続方法

- ①「選任手続期日のお知らせ(呼出状)」とともに、所属箇所事務所に申し出る。
- ②担当教員に、教場にて(オンライン授業の場合はEメール、LMS等を通じて、あるいは科目設置箇所事務所に)、「配慮願」を渡し、配慮をお願い出る。

■ 学校において予防すべき感染症【保健センター／学校保健安全法による】

(1) 対象

保健センターホームページ「学校において予防すべき感染症」参照

*新型コロナウイルス関連についても以下をご確認ください。

<https://www.waseda.jp/inst/hsc/information/healthcare/infection>

(2) 手続方法

- ①罹患したことを、所属箇所(学部・研究科等)事務所に連絡する。
- ②登校の許可または出席停止期間終了後、診断を受けた医師に『学校において予防すべき感染症』登校許可証明書の記入を依頼し、所属箇所(学部・研究科等)事務所に提出する。
- ③所属学部または大学院所定の「欠席届」に記入し、所属箇所(学部・研究科等)事務所の指示に従い、担当教員に配慮をお願い出る。

11. 授業期間中の全学休講の取り扱いについて

気象情報悪化等、次に挙げる事案に際し、全学休講とする場合があります(休日および休業期間を除く)。休講・延期となるのは、対象キャンパスにて対面で実施されるすべての授業および試験となります。

学生は大学の決定した授業の休講・試験の延期措置に原則として従うこととしますが、授業が実施されるキャンパスまでの経路において、交通機関の乱れや弾道ミサイル発射に伴うJアラート発信等により通学することが危険又は困難であると自身で判断し、通学を見合わせた場合は、所属箇所事務所による承認済みの欠席届をもって、該当科目の担当教員へ配慮を願い出ることができます。

■例外的な対応

※オンライン授業受講にあたっては、授業を受講する場所において、気象状況の影響等により受講が困難である場合は、各自で判断する。各自の判断で視聴を見合わせた場合は、後日所属学部(研究科)において手続きを行うことにより、欠席の配慮を求めることができる。

1) 気象状況悪化

気象庁による気象警報のみに基づく授業の休講・試験の延期措置は行いません。ただし、大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪等の気象状況および気象庁による気象警報をもとに、危険であると判断した場合は、次の通り、授業の休講・試験の延期措置をとります。なお、大学から特段の通知等がない場合は、原則として授業の休講・試験の延期措置は行いません。

- ①授業の休講・試験の延期措置を決定する場合は、原則として、各時限の授業・試験開始60分前までに決定し、以下に記載の「緊急時の通知方法」に従って周知・広報する。ただし、できる限り授業・試験開始の2時間前までには周知できるよう努力する。
- ②台風や大雪等、気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合は、前日に授業の休講・試験の延期措置の決定を行うことがある。その場合は、前日の午後7時までに決定の判断を行い、学生への周知は以下に記載の「緊急時の通知方法」に従って前日の午後9時までに通知を行う。

2) 大地震

大地震発生により、授業実施が困難であると判断した場合は、次の通り、授業の休講・試験の延期措置をとります。

- ①授業の休講・試験の延期措置を決定した場合は、直ちに以下に記載の「緊急時の通知方法」で周知・広報する。
- ②授業時間中の場合は、校内放送で迅速に周知する。

3) 大規模停電

電力需要量が供給量を大幅に上回り、予測不能な大規模停電が発生した場合は、次の通り授業を休講とし、復旧の翌日の1時限から授業を再開します。

- ①授業時間中(1～7時限)に大規模停電が発生した場合は、状況が落ち着くまで教室待機とします。その後の授業は全て休講とします。
- ②授業時間外に大規模停電が発生した場合は、当日の授業は全て休講とします。

4) JR等の交通機関がストライキを実施した場合

- ①北九州・福岡地区のJR等交通機関のストライキが実施された場合(ゼネスト)は次の通りとします。
 - A 午前0時までに中止された場合、平常通り授業を行います。
 - B 午前8時までに中止された場合、授業は3時限目(午後1時10分)から行います。
 - C 午前8時までに中止の決定がない場合は、授業は終日休講とします。
- ②北九州・福岡地区のJRの部分(拠点)ストライキが実施された場合は通常通り授業を行います。
- ③北九州・福岡地区のの全面時限ストライキが実施された場合は次の通りとします。
 - A 午前8時までストライキが実施された場合、授業は3時限目(午後1時10分)から行います。
 - B 正午までストライキが実施された場合、6時限目(午後6時55分)から授業を行います。
 - C 正午を越えてストライキが実施された場合、授業を終日休講とします。

緊急時の通知方法

緊急時に大学から通知する内容は、以下の方法で確認してください。

- 1] 早稲田大学緊急用お知らせサイト <https://emergency-notice.waseda.jp/>
 - 2] MyWaseda内のお知らせ
 - 3] Wasedaメール
- また、以下からも同一の内容にアクセスできます。
- 1] MyWasedaログイン前画面下段（緊急時のお知らせ） <https://my.waseda.jp/>
 - 2] 早稲田大学公式Webサイト <https://www.waseda.jp/>
 - 3] 早稲田大学公式X（旧：Twitter） https://twitter.com/waseda_univ
 - 4] 早稲田大学公式Facebook <https://www.facebook.com/WasedaU>

12. 奨学金について

奨学金については、日本人学生は「奨学金情報Challenge」、留学生は「留学生ハンドブック」で紹介されています。奨学生募集中の奨学金に関する情報は、研究科事務所の掲示板およびPSスクエアにて随時お知らせしています。

13. 医療給付について

学生健康増進互助会では、会員（正規生および研究生）が病院で支払った医療費（保険診療分）の一部を、締切日までに申請したのに対し、年間6万円を上限として給付しています。詳細は、PSスクエア『学生健康増進互助会案内』をご参照ください。

14. 事故にあった際の補償制度について

「早稲田大学学生補償制度（傷害補償）」（略称：学傷補）と「早稲田大学学生補償制度（賠償責任補償）」（略称：学賠補）があります。学傷補は、大学で認められている教育研究活動中に万が一の事故に遭い、ケガをしてしまった際に利用できる制度です。教育研究活動中とは、「正課中」「学校行事中」「学校施設内にいる間」「通学中」「施設間移動中」「課外活動中」をいいます。「課外活動中」については、課外活動を行う7日前までに、事前の届け出が必要です。学賠補は、大学が認めたインターンシップ、教育実習、ボランティア活動中等に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりすることにより被る法律上の損害賠償を補償する制度です。活動前に事前の届け出が必要です。学傷補、学賠補とも、詳細は、研究科事務所にお尋ねください。また、ウェブサイトでも参照できます。

<https://www.waseda.jp/inst/student/support/injury>

<https://www.waseda.jp/inst/student/support/liabilitycoverage>

15. 学業や学生生活で悩んだら？

「授業についていけない」「研究が進まない」「研究室の友達、先輩、先生とうまくいかない」などの履修計画や成績不振についての悩みを、学生生活専門委員の教員に相談することができます。

詳細はPSスクエア「学生生活専門委員オフィス・アワー」のページを確認してください。

また、「友達がいない」「居場所がない」「イライラして落ち着かない」「眠れない」「ホームシック」など、対人関係や心の健康など不安になった時には、心理専門相談員（臨床心理士）に相談することもできます。

相談の申し込みなどの詳細はPSスクエア「PS学生相談室」のページを確認してください。

16. 健康診断実施について

毎年4月に研究科にて健康診断を行います。必ず受診してください。当年の9月に入学する新入生に関しては、10月に行います（在校生は対象外）。早稲田キャンパス（東京）での受診も可能です。詳しくは研究科事務所にお尋ねください。

※受診しない場合、健康診断証明書を発行することはできません。

17. AED設置場所

研究科N棟1階中央管理室前に設置されています。

18. 就職活動について

a. 就職活動スケジュール

(下記は日本で就職する場合の一般的な例で、例外や変動する場合があります。IPS スクエア等で常に最新情報入手してください)

・2024年4月入学者の流れ

2024.4	入学
2024.8ほか	インターンシップ
2025.3～	就職活動開始 (就職セミナー、会社説明会等)
2025.6～	入社試験
2025.10～	入社内定
2026.4	入社

・2024年9月入学者の流れ

2024.9	入学
2025.8ほか	インターンシップ
2026.3～	就職活動開始 (就職セミナー、会社説明会等)
2026.6～	入社試験
2026.10～	入社内定
2027.4	入社

b. インターンシップ

・インターンシップはこれまで多くの場合、夏季休業期間中に実施されてきましたが、最近ではそれ以外の期間にも実施されることが増えてきました。就業体験を通じて企業を直接知ることができる貴重な機会ですので、特に就職希望者には、インターンシップに参加することをお勧めします。

c. 日本語能力

・日本企業に就職する場合、業務上でコミュニケーションがとれるレベルの日本語能力が求められます。選考(筆記試験、面接)も日本語で実施される場合がほとんどです。

19. 教育訓練給付制度について

働く人の主体的な能力開発の取り組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。本研究科の修士課程は、教育訓練講座として指定されています。一定の条件を満たした本研究科修士課程修了者は、本学に支払った教育訓練経費(入学金と受講料が対象)の20%(支給要件期間が3年以上の方。ただし、初回に限り、1年以上の方。)に相当する額(上限10万円)がハローワークから支給されます。

a. 支給対象者

修士課程修了者で雇用保険の一般被保険者、もしくは一般被保険者資格を喪失した日(離職日の翌日)以降受講開始日(入学日)までが1年以内である雇用保険の一般被保険者であった方。<いづれも支給要件期間が3年以上(初めて教育訓練給付を受けようとする場合は、支給要件期間が1年以上)ある方。>

b. 申請手続

教育訓練の受講修了日の翌日から起算して1ヶ月以内に、原則として本人の住所を管轄するハローワークに本人自ら出頭し、支給申請を行わなければなりません(やむを得ない理由がある場合のみ、代理人または郵送での申請ができます。やむを得ない理由と認められるか否かと必要な証明書については、事前に本人の住所を管轄するハローワークにお問い合わせください)。

上記、教育訓練給付制度に関する条件、手続等は変更になる場合があります。詳しくは、厚生労働省ホームページにて確認、もしくは研究科事務所にお問い合わせください。

20. 留学生の方へ

a. 各種届出

外国籍の方は、以下の届け出が必要です。

a). 在留カードの届出

在留資格を更新や変更をしたときや、住所変更したときなど、記載事項に変更が生じた場合には、直ちにFormsを使って研究科事務所に提出してください。在留資格の更新および変更方法については、IPSスクエアでご確認ください。

Forms(Waseda IDでログイン)



b). 国外移動届

学会参加や長期休暇で離日する前に、研究科事務所に提出してください。

b. 留学生ハンドブック

留学センターウェブページ(<https://www.waseda.jp/cie/handbook/index.html>)でご確認ください。入国管理局での手続や医療制度についての説明のほか、留学生向けの奨学金の説明などが、日本語・英語併記で掲載されています。

c. 留学生向けセミナーなど

各機関より、留学生向けのセミナーの案内が来ることがあります。IPSスクエアや掲示板にてお知らせしますので、適宜参加してください。

d. 在留資格管理について

在学期間中に在留資格の変更や更新を行う場合は、入国管理局で行います。在留期限までに更新の手続を行わないと、国外退去となり、IPSで研究を続けられなくなりますので、ご注意ください。更新手続方法については、入国管理局ホームページか、IPSスクエアをご参照ください。

引っ越し等で住所が変更になった場合は、14日以内に居住地を管轄する区役所で行います(出張所ではできません)。14日以内に届け出を行わない場合、在留資格が取り消される可能性があります。在留カードは、提示を求められたときに、すぐに対応できるよう、常に携行しなければなりません。日本での在在を継続するためには、在留資格管理を最優先してください。

21. ハラスメントの防止

本学では、「早稲田大学におけるハラスメント防止に関するガイドライン」を制定し、相談を受け付け、その解決に取り組むだけでなく、パンフレットやWebサイト等での広報や、講演会等の催し物を通して、啓発・防止活動を実施しています。

Q ハラスメントって何ですか？

A ハラスメントとは、性別、社会的身分、人種、国籍、信条、年齢、職業、身体的特徴等の属性あるいは広く人格に関わる事項等に関する言動によって、相手方に不利益や不快感を与え、あるいはその尊厳を損なうことをいいます。大学におけるハラスメントとしては、性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント、勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント、優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどがあります。

Q ハラスメントって何で問題なのですか？

A ハラスメントをされた側にとっては、安心して学習・研究・労働する環境が阻害され、悪影響が生じ、学習・研究・労働する権利の侵害、つまり、人権侵害になるからです。ごく気軽な気持ちでの行為や言動が、相手にとっては耐えられない苦痛となっていることもあります。結果として、日常生活に支障をきたすことも少なくありません。

Q 学生が加害者になることもありますか？

A はい、あります。例えば、サークルのコンパで性的な言動を繰り返したり、飲酒を強要したり、交際をしつこく迫った結果、相手が不快感を持った場合には、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントになりえます。

Q 「ハラスメントかな」と思ったら？

A あなた自身が被害に遭った時、友人からの相談を受けた時、また大学の取り組みについて質問や意見がある時には、気軽に相談窓口ご連絡して下さい。専門のスタッフが対応します。相談の流れなど、詳しい内容につきましては、下記Webサイトも参照して下さい。

■コンプライアンス推進室

初回相談は、電話・メール・FAX・手紙、どの方法でもOK。来室前なら匿名でも結構です。
あなたのプライバシーと意向を最大限に尊重します。来室希望の場合は、WEBサイトを確認の上
ご予約ください。

(学内)コンプライアンス相談窓口(コンプライアンス推進室)

【E-mail】 compliance@list.waseda.jp

【URL】 <https://www.waseda.jp/inst/harassment/>

【開室時間】月～金 9:30～17:00 *面談中などは留守番電話になることがあります。

【所在地】〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-21-1 早稲田キャンパス19号館1階

(学外)相談窓口(委託先 NEC VALWAY株式会社)

【TEL】0120-123-393

【相談時間】平日 8:30～19:00/土曜日8:30～17:00

※英語・中国語対応可能

【URL】 <https://koueki-tsuhou.com/WFcXVtaEFdCd/>

※詳しくはWEBサイトをご覧ください。

スチューデントダイバーシティセンター (SDC)

スチューデントダイバーシティセンターでは、人種、エスニシティ、国籍、ジェンダー、セクシュアリティ、障がいの有無、宗教、年齢などにかかわらず、多様な学生の豊かな学生生活環境の確保と、多様な価値観や生き方を受容するキャンパスづくりの推進を目的に、下記3オフィスが連携し支援や啓発を行っています。お気軽にお問合せ、ご相談、ご来室ください。

★詳細



■ICC(異文化交流センター)

ICCは、国境、国籍、文化の枠を越えてさまざまな学生同士が交流できるイベントやプログラムを運営しています。異文化交流に関心のあるみなさんの参加をお待ちしています。3号館1階にあるICCラウンジもお気軽にご利用ください。

場所:3号館1階

開室時間:ウェブサイトをご覧ください。

TEL:03-5286-3990 E-mail:icc@list.waseda.jp

URL:https://www.waseda.jp/inst/icc/

■アクセシビリティ支援センター (ARC)

視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、精神障がい、発達障がい、その他の障がい(失語症や内部障がいなど)のある学生が、他の学生と同等の修学環境を得られるよう、合理的配慮の調整をしています。合理的配慮について相談をしたい方はお問合せください。

身体障がい部門

場所:3号館1階110 TEL:03-5286-3747 E-mail:arc@list.waseda.jp

精神・発達障がい部門

場所:西早稲田ビル(19号館)102-10室 TEL:03-3208-0587 E-mail:shien02@list.waseda.jp

開室時間:ウェブサイトをご覧ください。

URL:https://www.waseda.jp/inst/dsso/ (両部門共通)

■GSセンター(ジェンダー・セクシュアリティセンター)

GSセンターは、早稲田大学のLGBTQ+(性的マイノリティなど)学生や、ジェンダー・セクシュアリティに関心のある全ての人々(アライ含む)の居場所であり、誰もが自由に利用できるセーフスペース/リソースセンターです。

学生スタッフとおしゃべりや、書籍や雑誌などのリソースを利用したり、イベントに参加することができます。また、ジェンダーやセクシュアリティに関する疑問や違和感、心配事などの相談に専門の職員が対応します。プライバシーは守られます。また、必要に応じて学内外の専門機関への橋渡しを行います。

場所:10号館2階213

開室時間:ウェブサイトをご覧ください。

E-mail:gscenter@list.waseda.jp

URL:https://www.waseda.jp/inst/gscenter/

This handbook contains information on academic policies, curriculum, graduation requirements, and school life that applies to graduate students in the Graduate School of Information, Production and Systems.

Please be careful not to lose this handbook. Even though new handbooks are issued each year, the academic policies, curriculum, and graduation requirements stated in the handbook issued in the year that you entered applies to you until you graduate.

Please read through this handbook at least once and consult it whenever you have questions related to your studies at Waseda University. In addition to the information in this handbook, the university posts important announcements on the websites listed below. Students should check these websites regularly.

MyWaseda / Waseda mail

This is an online system used by students, faculty and staff, and alumni of Waseda University. By logging into the system from this portal, you can get information or services tailored to your qualifications or attributes (information on courses such as registration, examinations, and reports, or information on public events such as lecture meetings, seminars, and symposiums).

Waseda mail is a web mail service that you can use over a web browser from anywhere. You can continue to use this email address after you graduate from the university.

<https://my.waseda.jp>

Graduate School of Information, Production and Systems website / IPS square

This website provides various types of information from the Graduate School of Information, Production and Systems. Course registration, scholarship information, and other important information are updated as needed.

<https://www.waseda.jp/fsci/gips/en/>

Contents

I	About the Graduate School of Information, Production and Systems (IPS)	
	The Three policies of IPS	1
	1 Philosophy and Objectives of IPS	2
	2 Composition of IPS	5
	3 Characteristics of IPS	6
	4 Major and Academic Degree	6
II	Educational Content of the Master's Degree Program	
	1 Features of the Curriculum	7
	2 Term and Requirements for Completion (Master Program)	9
	3 Conducting Classes	9
	4 Research Guidance Method and Schedule	10
	5 Research Guidance System	10
	6 Evaluations for Conferral of a Degree	11
	7 Criteria for Master's Degree Thesis Screening	11
	8 Academic Achievements	11
III	Undertaking Program Coursework (Master Program)	
	1 Subjects	12
	2 Course Requirements	13
	3 Provisionary Graduate Enrollment Program	13
	4 Grade Evaluations	14
	5 GPA	14
	6 Registering for Courses on Waseda-net portal	14
IV	Educational Content of the Doctoral Degree Program	
	1 Characteristics of the Curriculum	15
	2 Term and Requirements for Completion (Doctoral Program)	16
	3 Research Guidance Method and Schedule	16
	4 Research Guidance System	17
	5 Course Registration	17
	6 Evaluations for Conferral of a Degree	17
	7 Criteria for Doctoral Dissertation Screening	18
	8 Grade Evaluations	18
	9 Academic Achievements	18
V	Ph.D. Evaluation Procedures	
	1 Handling of Ph.D. Applications	19
	2 Proposal at a Field Meeting	19
	3 Proposal at an Executive Faculty Meeting	19
	4 Acceptance of Application by the IPS Steering Committee	19
	5 Doctoral Reading and Qualifying Examinations	20
	6 Decision by the IPS Steering Committee	20
	7 Reports to the University and the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology	20

VI Miscellaneous Information of Student Life

1 Daily Research Environment	24
2 Announcements	24
3 IPS Office Hours	25
4 Student ID Number	25
5 Student ID Card	25
6 KSRP Campus Card	26
7 Request and Notification Forms	26
8 Payments of School Fees and Dismissal	27
9 Certificates	28
10 Special Consideration for Leave of Absence	29
11 Class Cancellation Policy	30
12 Scholarships	31
13 Medical Bill Assistance	31
14 Accident Compensation Programs	31
15 If you have any problems with studying or student life in general... ..	32
16 Annual Health Checks	32
17 AED Location	32
18 Job Hunting	32
19 Training and Education Benefits System	33
20 International Students	34
21 Harassment Prevention	35
22 Student Diversity Center	36
School Song	At the back
Building map of IPS	At the back
Campus map	At the back

The Three Policies of IPS

■ Policy on the Acceptance of New Students (Admission Policy)

We seek students from inside and outside the country who understand the guiding principles of Waseda University; “Independence of Learning,” “Practical Utilization of Knowledge,” and “To Create Good Citizenship”. Students must also have the determination and ability to learn and conduct research aiming to solve issues and create value.

- Students with sufficient basic knowledge, sharp intellectual curiosity, and an interest in study and research with a sense of purpose
- Students who understand the research ethics and the social impact of engineering and information technology, and aim to become researchers and engineers who can resolve social problems and create added value
- Students who aim to become researchers and engineers who rely not only on basic and elemental technologies, but also integrate them in complex ways and resolve difficult issues through systems thinking
- Students who resolve problems from a global perspective, and aim to become researchers and engineers who can contribute to developing local regions

In order to admit a diverse student body with the determination and ability to achieve these goals, the entrance exams for our master’s program include a general examination aimed at Japanese students, foreign students, and professionals as well as a work force entrance exam targeting professionals who have already made existing accomplishments when they apply. We also practice recommendation exams, based on recommendations from partner institutions of learning, to actively admit excellent students from both within and outside the country. The recommendation exams, operating in cooperation with specialized high school programs from around the country and top-class universities mainly in Asia, admit talented students with skills as researchers and engineers from both within and outside the country. Our doctorate program adhere to the entrance examination methods above, admitting talented students with research and engineering skills that are internationally applicable.

■ Policy on the Design and Operation of the Curriculum (Curriculum Policy)

Centered around the three research fields of Information Architecture, Production Systems, and Integrated Systems, we provide education from both concrete and abstract perspectives, including research fields requiring interdisciplinary cooperation. Students in the master’s program enter one of the three research fields, earn credits in the established curriculum according to the diploma policies, and acquire the essential basic knowledge and abilities for research. Namely, in order to acquire various kinds of specialized knowledge required for their master’s thesis, students can take basic research courses that extend the foundational knowledge acquired in undergraduate studies, specialized research courses that instill and apply specialized knowledge necessary for research, and experimental classes that allow students to master practical knowledge through using devices and equipment. Additionally, under the guidance of instructors, they carry out research for their master’s thesis for each research problem, and assemble and present their results as research papers. In the doctoral program, students supplement the abilities developed in the master’s program and acquire advanced abilities to conduct independent research. Students in the doctoral program do not have a required number of credits, but can take courses in the master’s curriculum when needed. Furthermore, under the guidance of instructors, they investigate specialized theories relating to higher level research problems, conduct research based on new proposals and their applications, actively publicize their research findings at meetings such as conferences, and compile them into a doctoral dissertation which is then presented. Also, in order to cultivate talented graduates capable of operating internationally, courses and research guidance are provided in both Japanese and English, contributing to an environment where students from abroad and Japanese students study together.

■ Policy on Graduation Certification and the Conferring of Degrees (Diploma Policy)

In the three research areas: Information Architecture, Production Systems, and Integrated Systems or research areas which cooperate with the three research areas interdisciplinarily, we train prospective researchers and engineers who can contribute to developing technologies related to those research areas, solve complicated contemporary technical problems, assume an approach of new systems and create new values in the real world and in scientific fields by utilizing high insight and advanced knowledge. You will acquire the ability to apply basic knowledge to real world problems as well as professional knowledge. Also, it is expected to acquire information literacy and problem finding ability, logical thinking ability, problem solving skills, system conception ability and practical leadership. Students in the master’s program carry out research under the guidance of instructors, compile their research results into a master’s thesis, and acquire fundamental research skills and specialized knowledge to allow them to work as researchers and engineers. When this is accomplished, a master’s degree in engineering is awarded. Students in the doctoral program, under the guidance of instructors, master the ability to carry out independent research by making full use of specialized knowledge and sophisticated research skills by conducting independent research that contributes significantly to the development of their field, presenting their results inside and outside of Japan, and compiling them into a doctoral dissertation. When these accomplishments are recognized, a doctorate in engineering is awarded.

I About the Graduate School of Information, Production and Systems (IPS)

1. Philosophy and Objectives of IPS

The Graduate School of Information, Production and Systems, Waseda University (IPS) was opened in April 2003 in the Kitakyushu Science and Research Park (KSRP), a location far from the main campus of the university in Tokyo. IPS is an extremely distinctive graduate school which is aiming to achieve internationalization.

Partly because Kyushu is near to other countries in Asia, Waseda University is aiming to build a base for research and education in the KSRP with the major objective of creating a higher quality internationalized graduate school in Asia with a focus on Information Architecture · Production Systems · Integrated Systems. To achieve this goal, Waseda is cooperating with the University of Kitakyushu and the Kyushu Institute of Technology with the aim of making IPS a base for the transmission of knowledge throughout all of Asia. Educating the technicians that will support this program and promoting research development are the missions of Waseda University in the KSRP.

The KSRP has created one large campus centered on Waseda University, the University of Kitakyushu and the Kyushu Institute of Technology. This distinctive feature of having three different types of universities on the same campus is worthy of attention because it takes into account large sections of society and avoids elitism.

Meanwhile, Waseda University is currently undergoing expansion, a second establishment of the university, in order to build a university organization that can better meet the needs of 21st century society. Our aim is to further develop Waseda University so that it becomes recognized as one of the world's leading private university universities. This approach includes internationalization and enhancement of our advanced educational institutions. Furthermore, in recent years Japanese society has stopped concentrating excessively in Tokyo as it used to do. Both scholarship and industry are spreading widely throughout Japan and distinctive structures utilizing local characteristics are being created. Considering this fact, it is necessary to think that Waseda University should not exist only in Tokyo but should expand into local areas as well. Our expansion into Kitakyushu is an example of this.

Kitakyushu is located near to South Korea and China, and Hakata and Busan in particular have a long history of exchanges. This highly engrained international quality obtained by a process of accumulation over many years is effective for developing Waseda University into an educational institution of Asia. For Waseda University, which is aiming to be an educational institution for not only Asia but the entire world, building a strong base for an internationalized graduate school in this location plays an important role in the expansion of Waseda University in the 21st century.

Kitakyushu has been one of the leading industrial zones in Japan through the ages, and it has invited technologies with a long-standing tradition. We anticipate that a Waseda University graduate school engaged in education and research of Information · Production · Systems at this location will in the future be able to utilize the traditional technologies of Kitakyushu to make a large contribution to the industries of Japan, Asia and the entire world in the 21st century.

IPS was opened based on the above background and mission. It is comprised of the Information Architecture field, which carries out education and research of the latest information technologies from hardware and software perspectives, the Production Systems field, which attempts to develop high quality, high productivity production systems utilizing information technology, and the Integrated Systems field, which is the key to the various systems and components of the future.

These three fields are mutually interlinked to form a comprehensive graduate school engaged in research and education. Moreover, they go beyond research and education in the area of industrial technologies to include research and education for the construction and operation of various systems from the perspective of corporate management.

The Information Architecture field is a wide-ranging and core engineering field that is applied to all kinds of engineering, including the field that constructs theories about information itself, that is, about the acquisition and expression of information, the field of information transmission, the field of information processing, application to a variety of targets, etc. Furthermore, the rapid evolution of information technology is being achieved through the mutually linked evolution of hardware and software. Taking into account this situation, this graduate school is aiming to carry out wide-ranging education and research into information technology that straddles both hardware and software aspects.

In the Production Systems field, IPS is introducing production information systems that attempt to use a computer network to manage and use the information necessary for production, and is carrying out research and education in pursuit of higher levels of productivity. At the same time, it is necessary for engineers on the front line of production to master information technology so that they can cope with the wave of globalization that is sweeping through the production field. For this reason, we are training engineers that understand the production front line and also have knowledge of the information field.

Meanwhile, in the Integrated Systems field we are conducting education and research regarding semiconductor technology, which is said to be the “rice of industry.” Large-scale integration (LSI) of systems is essential for making a wide range of systems more compact and better performing, and it is thought this will determine the future success or failure of the information appliances and automobile industries. In the Integrated Systems field, 10 world class technicians and researchers brought

together from throughout Japan are carrying out advanced education and research in these areas centered on LSI design technologies.

Moreover this graduate school is aiming to be an international graduate school that accepts a large number of international students from around the world, primarily students from other Asian countries. It has already concluded an agreement of cooperation and a memorandum of understanding with over 40 highly-respected overseas universities, including Zhejiang University, Shanghai Jiao Tong University, Fudan University, Nanjing University and the Beijing Institute of Technology in China, National Cheng Kung University and National Taipei University of Technology in Taiwan, and Thammasat University and Chulalongkorn University in Thailand, is accepting international students, and is actively promoting exchanges among faculty, joint research, etc., and its reputation as an international graduate school is growing year by year both in Japan and overseas.

Waseda University has also established the IPS Research Center adjacent to IPS. In the IPS Research Center, Japanese and overseas researchers engage in joint research and sponsored research. Furthermore, we have set up research laboratories for Japanese and overseas universities within the research center in order to actively promote joint research with overseas researchers.

2. Composition of IPS

In IPS, the five-year Doctoral Program is divided into a two-year program for a Master's Degree and a three year program to complete the Doctorate.

IPS has three fields of Information Architecture, Production Systems, and Integrated Systems. The characteristics of each of these fields are as follows.

Information Architecture	We will conduct education and research on the information and communication fields, which will become increasingly important in the future, with a particular emphasis on their applications. In other words, the targets include the “media information”, “data engineering”, and “information network” areas that handle the expression and transmission of information, the “natural language processing” and “computational intelligence” areas that are closely related to human information processing. There are also areas of “community engineering,” “robot mechatronics,” and “smart factories,” which are indispensable for the future smart society.
Production Systems	In addition to the “process engineering” and “manufacturing information/mechanical system engineering” areas that deal with the hardware aspects of production technology, and the “measurement/control engineering” area that supports advanced automation systems, the graduate school established the “bio/medical engineering” and “advanced materials/devices” areas for bio-electronics, biomedical engineering, and materials engineering. This field conducts education and research to pursue production systems in the 21st century from both hardware and software perspectives.
Integrated Systems	In order to realize a more sophisticated and prosperous IT society in the future, it is indispensable to develop an application system that integrates various elemental technologies in a complex manner. In this field, aiming to create innovative integrated systems, practical research and education will be conducted by faculty members who have close ties with companies on cutting-edge technologies in a wide range of fields from the basic “electronic device/circuits technologies”, “optical device/circuits technologies”, “LSI design/verification technologies”, and “information processing technologies” to application systems such as “image information systems”, “voice information systems”, and “information communication systems”.

These three fields are structured so as to be related to each other, and the three fields are integrated so that students can carry out learning and research activities across fields.

3. Characteristics of IPS

Another characteristic of this graduate school is that it is possible to engage in education and research in collaboration with the IPS Research Center established inside the KSRP. The IPS Research Center is mainly engaged in joint research with companies and project research. The full-time faculty members belonging to this graduate school concurrently serve as researchers at the center, which actively promotes joint research involving industry and academia and develops advanced and practical technologies.

IPS collaborates with the related organizations of Waseda University in Tokyo such as the existing schools, graduate schools, etc., and IPS increases the quality of its research and education through collaborations with the existing institutions, including the holding of distance lectures, etc. It is also actively engaged in exchanges with affiliated schools and graduate schools located overseas, including credit transfers, exchanges of faculty members and students, etc.

Meanwhile, IPS will take advantage of the characteristic that it was opened together with the other universities and graduate schools inside the KSRP to actively implement credit transfers with these institutions, mutual exchanges among faculty members, joint research, etc.

4. Major and Academic Degree

Major of IPS is “Information, Production and Systems Engineering”.

When the student completes the IPS master program, he/she will receive a “Master of Engineering”.

When the student completes the IPS doctoral program, he/she will receive a “Doctor of Engineering”.

II Educational Content of the Master's Degree Program

1. Features of the Curriculum

This master's program consists of one major in one graduate course and is comprised of three fields of specialty: Information Architecture, Production Systems, and Integrated Systems. Students join one laboratory of these three fields basically one half year or more after entering the program (after being temporarily assigned to one of them) but are free to select lecture courses from any of the three fields, thus allowing them to acquire a diverse range of knowledge. Research is conducted across these fields of specialty, providing students with an integrated environment in which to pursue their studies. They undertake training and research for their master's thesis under the guidance of highly experienced teachers active on the international scene, and the practical yet specialized learning and research opportunities offered in the program prepare them as engineers capable of applying their skills at home and abroad.

Close ties are also maintained with the adjacent Information, Production and Systems Research Center, Waseda University. And a portion of the industry-academia joint research projects, comprising faculty members from this department, are reserved for student participation to provide them with useful opportunities to strengthen their practical problem solving skills and specialized research capabilities through training sessions and research for their master's thesis.

The following unique instructional system has been implemented so that students of this graduate school complete the program with sufficient knowledge and research skills.

- a. Students of the master's program have the flexibility to choose subjects and can work on research early.

Regular Course	<p>Provisional Research Laboratory assignments will be made in the spring semester^{*1}, and Research Laboratory assignments will be approved according to the final assignment procedure at the end of the semester.</p> <p>Assigned students can belong to the laboratory and receive research guidance from faculty members.</p>
----------------	---

^{*1} The fall semester for students entering in September

The following special course is also available.

<p>Course F (Course arranged with affiliate graduate schools)</p>	<p>A special program for international exchange students, this course is for students exhibiting outstanding performance who are in the first or second year of a master's program at an overseas graduate school that is in partnership with IPS and who have been recommended by the graduate school following their request to enter the IPS master's program.</p> <p>Research Laboratory assignments will be approved at the time of entrance.</p>
---	--

- b. Many classes are conducted in English or in combination with English and Japanese so that many international students can learn.
- c. Experimentation classes (in Information Architecture and in Production Systems) provide concrete understanding of various devices and equipment. Students can also receive training or conduct self-study in the language laboratory or in the computer laboratory and study rooms.
- d. In addition, education and research are conducted in close collaboration with the other universities, graduate schools and research facilities located at KSRP.

2. Term and Requirements for Completion (Master Program)

To fulfill the degree requirements, students must complete a minimum of two years of study basically and have acquired at least 30 credits which meet the requirements of their respective course of study in addition to receiving the necessary research guidance and passing the screening and examination for their master's thesis.

Course		Content
Regular		<ul style="list-style-type: none"> At least 18 credits in Fundamental Subjects, Advanced Subjects, and Laboratory Works, 4 credits in Exercises or Specialized Subjects, and a total of at least 22 credits acquired within one year of entering the program At least 1.5 years of research for producing a master's thesis completed after laboratory assignment At least 30 credits (up to 4 of which can be Fundamental Subjects), including 2 credits of required Specialized Subject class and 8 credits of Exercises, acquired by the end of the program
F		<ul style="list-style-type: none"> At least 18 credits in Fundamental Subjects, Advanced Subjects, and Laboratory Works, 4 credits in Exercises or Specialized Subjects, and a total of at least 22 credits acquired within one year of entering the program Planned subjects of study may not overlap with classes for which credits have already been received at an overseas university At least 30 credits (up to 6 of which can be Fundamental Subjects), including 2 credits of required Specialized Subject class and 8 credits of Exercises, acquired by the end of the program

If you are particularly excellent in F Course, there is also an early completion course.

F		<ul style="list-style-type: none"> At least 18 credits in Fundamental Subjects, Advanced Subjects, and Laboratory Works, 4 credits in Exercises or Specialized Subjects, and a total of at least 22 credits acquired within 6 months of entering the program Planned subjects of study may not overlap with classes for which credits have already been received at an overseas university At least 30 credits (up to 6 of which can be Fundamental Subjects), including 2 credits of required Specialized Subject class and 8 credits of Exercises, acquired by the end of the program
---	--	--

Important: After being assigned to a laboratory, students must acquire the designated number of credits in Specialized Subject and Exercises given by their supervising faculty member.

3. Conducting Classes

Classes are designed to generate student-teacher interaction such as by assigning practical exercises and utilizing experiment apparatuses instead of just having students listen to lectures.

Students can also take advantage of the relationship maintained with the Faculty of Science and Engineering, Waseda University to take classes in other departments as well as acquire credits and receive guidance for producing their master's thesis. There is also a credit transfer system existing with the other graduate schools located in the KSRP.

4. Research Guidance Method and Schedule

Faculty members are available for detailed consultations regarding students' selection of field and laboratory. Once placed, supervising faculty members provide comprehensive guidance regarding research project proposals and thesis production, as well as specialized training in conducting research, until the completion of the thesis. We aim to provide consistent guidance, engage in advanced research, and train researchers with advanced expertise.

New students will be temporarily assigned to a laboratory within two weeks of enrollment, which will be decided through course guidance, laboratory visits, interviews with faculty members, and so on. In the first semester, students will be temporarily assigned to a laboratory, where they will take classes to earn the required credits, understand the research environment of the laboratory to which they are assigned, learn how to use the research equipment, and so on. At the end of the first semester, they will be assigned to their major laboratory, where they will participate in seminars, specialized subjects, and exercises as an official member of the laboratory, and then receive research guidance from their supervisor for one year (two academic terms). Subsequently, they will make a midterm presentation on the research they are conducting for preparing their master's thesis. The midterm presentation will be reviewed by the supervisor at the assigned laboratory as the chief examiner and two faculty members as sub-examiners. In the last semester of the program, students receive guidance on the preparation of their master's thesis from their supervisor at the assigned laboratory and prepare their master's thesis, which is then reviewed by their supervisor as the chief examiner and two faculty members as sub-examiners.

Guidance, Laboratory visits
Provisional laboratory assignment(first semester): Classes, Preparation
Interview for major laboratory assignment
Major laboratory assignment(second semester): Research guidance
Check the earned credit numbers
Major laboratory assignment(third semester): Research guidance
Submission of a master thesis midterm presentation abstract
Midterm presentation of a master thesis
Major laboratory assignment(fourth semester): Write a master thesis
Submission of an abstract and a master thesis
Final presentation of a master thesis

5. Research Guidance System

In the master's course, students receive research guidance from the chief examiner at their assigned laboratory. From the time of their midterm presentation, in addition to their chief examiner, two faculty members as sub-examiners review their report and provide guidance on their master's thesis. The list of faculty members for each field is shown on the right.

IPS Supervisors and Research Guidances

Field	Supervisor	Research Guidance name
Information Architecture	Professor FUJIMURA, Shigeru	Smart Industry
	Professor FURUZUKI, Takayuki	Neurocomputing Systems
	Professor IWAHARA, Mizuho	Data Engineering
	Professor KAMATA, Sei-ichiro	Image Media
	Professor KAMEOKA, Jun	Bio Information Sensing
	Professor LEPAGE, Yves	Example-based machine translation/NLP
	Professor MATSUMARU, Takafumi	Bio-Robotics & Human-Mechatronics
	Professor TSUBOKAWA, Makoto	Fiber-optic systems
	Professor YOSHIE, Osamu	Community Computing
Production Systems	Professor WU, Jun	Network Intelligence and Security
	Professor ARAKAWA, Masao	Design Engineering and System
	Professor HASHIMOTO, Kenji	Mobile Robotics Platform
	Professor MAWATARI, Kazuma	Micro and Nano Fluidic Device
	Professor MIYAKE, Takeo	Current Bioelectronics
	Professor TANAKA, Eiichiro	Mechanical System Design
	Professor TATENO, Shigeyuki	Production Process
	Professor UEDA, Kenji	Functional Thin Films
	Professor SHIMURA, Takayoshi	Semiconductor Materials and Device Engineering Research
Integrated Systems	Professor TAKAHASHI, Junko	Biomedical Engineering
	Professor IKEHASHI, Tamio	Micro Electro-Mechanical Systems
	Professor IKENAGA, Takeshi	Image Information Systems
	Professor KIMURA, Shinji	High-Level Verification Technologies
	Professor MAKINO, Shoji	Intelligent Acoustic Systems
	Professor TANZAWA, Toru	Green Integrated Systems Research
	Professor YAMASAKI, Shintaro	Integrated System Optimization
	Professor YOSHIMASU, Toshihiko	Wireless Communication Circuits Technologies
	Associate Professor KAKITSUKA, Takaaki	Light Emitting Systems
	Associate Professor TAKAHATA, Kiyoto	Opto-electronic Integrated Systems
	Associate Professor SERITA, Kazunori	Terahertz Integrated Systems Research

6. Evaluations for Conferral of a Degree

A fair system of thesis evaluation has been established for the conferral of a master's degree for all students, whether they be businesspeople, international exchange students or graduates of an undergraduate department, and who will have all received comprehensive guidance throughout the program. Thesis evaluation is conducted by a reading committee of three or more faculty members and is chaired by the student's academic advisor.

The evaluation result is reported to the IPS Steering Committee and, after careful consideration, is considered an impartial final result pertaining to the conferral of an advanced degree.

7. Criteria for Master's Degree Thesis Screening

- 1) At the Graduate School of Information, Production and Systems, each applicant must write a thesis on his/her own that has either content containing a certain degree of useful new knowledge or content containing effective problem-solving that is original to the author.
- 2) The thesis must state the research's significance and purpose, and the value of research issues based on examination of previous studies. The thesis argument, including the establishment of issues, analysis, research method, results, and discussion must be clear, appropriate, and coherent.
- 3) The written expressions and utilization of formulas, notations, diagrams, and terminology must be appropriate for an academic paper.
- 4) The thesis must be the product of research that observes and executes guidelines pertaining to academic research ethics.
- 5) At the thesis presentation and screening, the degree applicant must be able to precisely present the significance and results of the thesis content.
- 6) The Master's Degree Thesis Screening will be conducted by several faculty members, including a chief examiner/deputy examiner, and determination of acceptance will be made by the graduate school.

8. Academic Achievements

- 1) To acquire the basic academic skills and specialized knowledge necessary to plan and conduct one's own studies and research, and to be able to apply these skills and knowledge.
- 2) To have a correct understanding of information ethics and information security and be able to put them into practice.
- 3) To be able to investigate and understand the technological trends in one's own area of expertise and to be able to appropriately set issues to be addressed by oneself.
- 4) Propose methods and means to solve the issues they have identified, and demonstrate their soundness, novelty, and effectiveness by objectively verifying them.
- 5) Be able to correctly convey one's ideas and thoughts to others, and acquire the process of assertion and cooperation in communication with others based on a high sense of ethics.
- 6) Be able to plan and execute the means to properly realize the solution methods envisioned.

III Undertaking Program Coursework (Master Program)

1. Subjects

The master's degree program consists of Fundamental Subjects, Advanced Subjects, Laboratory Work and Specialized Subjects. The language of instruction is either Japanese or English.

Fundamental Subjects	<p>Fundamental subjects are designed to help the student acquire the basic knowledge and skills necessary for the study of specialized subjects and research activities. Although these subjects are primarily designed to impart knowledge of subjects other than those studied in undergraduate courses, they are also very useful to students who lacked previous opportunities to study them. We encourage students to acquire the knowledge they will need to complete their graduate programs.</p>
Fundamental Subjects (Non-credit Subjects)	<p>The credits of Fundamental Subjects (Non-credit Subjects) are not included in the required credits for graduation.</p>
Advanced Subjects	<p>These subjects form the nucleus of the Graduate School master's program and impart the most advanced technical knowledge required for acquisition of a master's degree. Training in master thesis preparation and experience in the practical applications of theory are also provided.</p>
Advanced Subjects (Non-credit Subjects)	<p>The credits of Advanced Subjects (Non-credit Subjects) are not included in the required credits for graduation.</p>
Laboratory Works	<p>Lab work is provided in information Architecture and Production Systems. Students conduct experiments focused on computer networks and CAD design, which represent the foundation of Information Architecture. Through this process, they become familiar with equipment and machines commonly used in actual production systems. The experience gained through these activities will be invaluable when they begin contributing to society as highly skilled engineers upon completion of the program.</p>
Specialized Subjects	<p>These subjects are mainly comprised of lectures on advanced research provided by individual faculty members with the objective of imparting specialized knowledge linked to the student's chosen area of study and research. Students will master the most advanced content in their major, acquire skill sets in the areas of expertise required for completion of their master's degree and understand the importance of the research topics defined as their thesis material. Those students intending to proceed into the doctoral program will identify fundamental research for their dissertation and study subjects that form the foundation of their field.</p>
Exercises	<p>Faculty members managing the laboratories conduct exercises for students belonging to their field of study as part of the student's research towards their master's dissertations. In addition to acquiring the latest knowledge on themes related to their dissertation topic, students will also study research papers presented in journals and international conferences in order to grasp the most recent trends in their research field.</p> <p>The exercises will be conducted as part of a variety of educational activities the content of which will depend upon the character of each particular laboratory, including seminars under the guidance of professors, practical training in the use of equipment, and presentations of student research results.</p>

※The Subjects of Global Education Center (GEC) are Fundamental Subjects (Non-credit Subject)

2. Course Requirements

Students may take subjects in any field. Be sure to select subjects in consideration of the required subjects for each major listed in the syllabus. If the number of applicants exceeds the limit, students will be selected by lot.

Registration Model

	regular course					course F				
	1 st year		2 nd year		Total required credits for graduation 30 or more	1 st year		2 nd year		Total required credits for graduation 30 or more
	S.**	F.**	S.	F.		S.**	F.**	S.	F.	
Fundamental *Subjects					(within 4)					(within 6)
Advanced Subjects	} 20				} 20	} 18 ※				} 18 or more
Laboratory Works										
Specialized Subjects	/	2			2		2			2
Exercise(required)	/	4	4		8	6	4			8 or more
Master Thesis(required)	/	Thesis			Pass	Thesis				Pass

* The number of required credits in fundamental subjects, Advanced subjects and laboratory works are combined and counted as the total required credits. Extra credits in the fundamental subjects beyond then minimum required number (as indicated in parentheses in the above table) will not be included in the number of the required credits.

** Spring Semester, the spring semester for students entering in April and the fall semester for students entering in September.

Fall Semester, the fall semester for students entering in April and the spring semester for students entering in September.

※ F course: Transferred credits, up-most 10, are to be recognized within this 20 credits.

Completion of the Research Ethics course is a prerequisite for conducting the midterm presentation. (As a general rule, the course "Introduction to Academic and Research Integrity" is offered by the GEC.)

Please refer to IPS Square for details on " Taking research ethics course/program in the master's program "

IPS SQUARE : <https://www.waseda.jp/fsci/gips/en/campuslife/ipssquare/>

3. Provisionary Graduate Enrollment Program

From the viewpoint of coherent education between undergraduate and graduate programs, each school in the Faculty of Science and Engineering adopts a system under which fourth year students can take specified lecture courses offered by the graduate school in which they plan to study. Earned credits under this system are counted toward the credits required for completion of master's programs (30credits) up to a maximum of 4 credits.

4. Grade Evaluations

Grade Evaluations will be indicated as below.

Subjects	Mark	Indicated on Grade Report	Indicated on Transcript	Judgment
Fundamental, Advanced, Laboratory Works, Exercise, Specialized	90 and above	A ⁺	A ⁺	Pass
	80-89	A	A	
	70-79	B	B	
	60-69	C	C	
	Under 59	F	N/A	Failed
Research Instruction of Master's/Doctoral Program, transferred subjects	N/A	P	P	Approved
	N/A	Q	N/A	Not Approved

5. GPA

1. Calculation Formula

A Grade Point Average (GPA) is a score calculated by multiplying "total number of credits by grade point(A+, A, B etc.)" and "corresponding grade point (4 for A+, 3 for A etc.)", then totaling the obtained figures for the all grades and dividing the result by "total number of registered credits"

<Calculation Formula>

$$\frac{[(\text{Credit No. of A+} \times 4) + (\text{Credit No. of A} \times 3) + (\text{Credit No. of B} \times 2) + (\text{Credit No. of C} \times 1) + (\text{CreditNo. of Failing Grades} \times 0)]}{\text{Total number of registered credits}}$$

= GPA Score(* The GPA will be rounded to the second decimal place.)

*The total number of registered credits includes credits earned for failing grades.

*Subjects used in the GPA calculation

The GPA calculation considers only the subjects registered as the subjects to count toward graduate credits. However, the following case(s) will not be subject to the GPA calculation even if the subject is counted toward graduate credits.

*GPA on Grade Report and Transcript of Academic Record

Please note that the GPA will appear on the Grade Report, but not on the Transcript of Academic Record. We can issue a "Transcript of Academic Record / GPA" indicating the GPA and the grades used in the GPA calculation.

6. Registering for Courses On Waseda-net portal

Regarding the instruction for Registration for Courses on My Waseda, please check the bulletin board of the IPS office and IPS square.

IV Educational Content of the Doctoral Degree Program

1. Characteristics of the Curriculum

The first basic characteristic of the Doctoral Program at this graduate school is that it has inherited the structure of the Master's Program which has the objective of systematically developing specialized proficiency and research proficiency. Therefore the Doctoral Program also aims to train human resources possessing the advanced specialized proficiency, richly creative research planning proficiency and research promotion proficiency that will enable them to be successful not only in education and as researchers but also in all other walks of life. In particular, this graduate school is aiming to develop Doctorate degree holders who have the ability to take strong actions to establish venture companies.

The second characteristic is that the students in the Doctoral Program of this graduate school can participate in not only the research projects of this graduate school but also joint research projects between industry, academia and government that are developed at the IPS Research Center, meaning that they can engage in research on actual challenges. Research based on a correct understanding of the problems in actual production front lines and fields of application must be carried out in the academic field of Information · Production · System included in this graduate school. This graduate school was opened together with the IPS Research Center in the KSRP so a characteristic of the graduate school is that the students can perform research by getting involved in the project research being performed in the research center.

The third characteristic is that students receive the evaluations of internal and external specialists. They can do this by participating in project research to have exchanges with highly skilled technicians and researchers both inside and outside this graduate school, or by actively reporting their research results to academic societies. In this way the graduate school can maintain its degrees at a global standard.

Taking these characteristics into account, in the Doctoral Program the students join one of the field the Information Architecture field, the Production Systems field, or the Integrated Systems field, and carry out advanced and global research while receiving advice from the supervising faculty member in their research area and from faculty members in the same field and department.

The approach to the research, just as with the Master's Program, is for the students to carry out advanced and distinctive research under the guidance of the supervising faculty member in the Faculty Office to which they belong, and also sometimes playing a part in the research being carried out by the team by participating in the project research the supervising faculty member is working on in the IPS Research Center. In all cases the research results obtained through the research process will be published in the form of submissions, etc. to domestic academic lecture meetings, international conferences, and academic journals, thereby maintaining a global standard of research by obtaining internal and external evaluations.

In the Doctoral Program the number of credits the students have to obtain is not set, but with the consent of the supervising faculty member the students can take the established subjects of this graduate school and expand their scholarly field. Furthermore, they can obtain opportunities for training to be researchers with an international quality by studying at allied overseas graduate schools, etc., and engaging in cooperative research with or taking subjects taught by overseas professors and researchers.

2. Term and Requirements for Completion (Doctoral Program)

The standard requirement for completion of the Doctoral Program is that the student must be enrolled for three years or more in the Doctoral Program, receive the research guidance stipulated by this graduate school, and subsequently pass the screening of the Doctorate thesis and the final examinations. (Early completing program is possible when meeting the requirement)

3. Research Guidance Method and Schedule

The students conduct their research under the research guidance of the supervising faculty member. The approach to the research is for the students to formulate their own individual research plans and proceed with their research based on their plans.

The supervising faculty member provides guidance for the formulation of the research

plan, specialized training such as guidance from previous studies and the search, collection and analysis of the data necessary for the research as appropriate and consistent guidance to the student until the completion of their thesis.

New students will start their research based on the research plan prepared prior to enrollment, based on their research in the master's program and so on. At the time of enrollment, a main supervisor will be assigned, and students will receive research guidance through seminars in the laboratory to which they are assigned. In addition, one or more secondary supervisors will be selected after admission. Regarding lectures, students are required to take a research ethics education, which is usually taken in the first semester. In the first year, students will conduct research under the guidance of their main and secondary supervisors, and when they have achieved results, they will submit their research results as papers to international conferences and academic journals. In the second year, they will continue to conduct research under the guidance of their main and secondary supervisors and submit papers to international conferences and academic journals. In the third year, the main and secondary supervisors will provide guidance for the preparation of the doctoral dissertation based on the results of the research to date. When the draft of the doctoral dissertation is ready, a pre-qualification meeting will be held in the field within the Graduate School to review it before the final review. Students may apply for a degree to the Dean of the Graduate School upon successful completion of the pre-qualification meeting, and if this is accepted, the degree examination will be conducted within the Graduate School.

Decision of a main supervisor and Research plan
Selection of secondary supervisor
First year: Taking a research ethics education, Research guidance, Submission of papers to international conferences and academic journals
Second year: Research guidance, Submission of papers to international conferences and academic journals
Third year: Research guidance, Guidance for the preparation of the doctoral dissertation
Pre-qualification meeting
Application for a doctoral degree

4. Research Guidance System

For the doctoral course, a primary supervisor and one or more secondary supervisors are selected from the time of admission, and students receive continuous research guidance for a period of three years.

The list of faculty members for each field is shown below.

IPS Supervisors and Research Guidances

Field	Supervisor	Research Guidance name
Information Architecture	Professor FUJIMURA, Shigeru	Smart Industry
	Professor FURUZUKI, Takayuki	Neurocomputing Systems
	Professor IWAHARA, Mizuho	Data Engineering
	Professor KAMATA, Sei-ichiro	Image Media
	Professor KAMEOKA, Jun	Bio Information Sensing
	Professor LEPAGE, Yves	Example-based machine translation/NLP
	Professor MATSUMARU, Takafumi	Bio-Robotics & Human-Mechatronics
	Professor TSUBOKAWA, Makoto	Fiber-optic systems
	Professor YOSHIE, Osamu	Community Computing
Production Systems	Professor WU, Jun	Network Intelligence and Security
	Professor ARAKAWA, Masao	Design Engineering and System
	Professor HASHIMOTO, Kenji	Mobile Robotics Platform
	Professor MAWATARI, Kazuma	Micro and Nano Fluidic Device
	Professor MIYAKE, Takeo	Current Bioelectronics
	Professor TANAKA, Eiichiro	Mechanical System Design
	Professor TATENO, Shigeyuki	Production Process
	Professor UEDA, Kenji	Functional Thin Films
	Professor SHIMURA, Takayoshi	Semiconductor Materials and Device Engineering Research
Integrated Systems	Professor TAKAHASHI, Junko	Biomedical Engineering
	Professor IKEHASHI, Tamio	Micro Electro-Mechanical Systems
	Professor IKENAGA, Takeshi	Image Information Systems
	Professor KIMURA, Shinji	High-Level Verification Technologies
	Professor MAKINO, Shoji	Intelligent Acoustic Systems
	Professor TANZAWA, Toru	Green Integrated Systems Research
	Professor YAMASAKI, Shintaro	Integrated System Optimization
	Professor YOSHIMASU, Toshihiko	Wireless Communication Circuits Technologies
	Associate Professor KAKITSUKA, Takaaki	Light Emitting Systems
	Associate Professor TAKAHATA, Kiyoto	Opto-electronic Integrated Systems
	Associate Professor SERITA, Kazunori	Terahertz Integrated Systems Research

5. Course Registration

Although doctoral students are not required to obtain a specific number of credits, they can broaden their academic knowledge by taking various subjects in the Graduate School or in other graduate schools with the agreement of their supervisor.

6. Evaluations for Conferral of a Degree

The Doctoral Program does not distinguish between students sent from companies, mature students who have already graduated before, or international students. Research guidance is offered based on a consistent guidance system and a fair degree thesis screening system has been established. Specifically, as a general rule the thesis screening is carried out by three or more thesis adjudicators with the supervising faculty member as the chief thesis adjudicator. The results of the screening are reported to the Graduate School Steering Committee, whose members are faculty members of this graduate school, and the committee carries out a strict assessment of the results. The research results will be widely disclosed in the Waseda University Repository, scholarly journals, symposiums, international conferences, etc.

7. Criteria for Doctoral Dissertation Screening

- 1) At the Graduate School of Information, Production and Systems, each applicant must write a dissertation on his/her own that has content containing useful and new knowledge, which possesses sufficient academic merit.
- 2) The dissertation must state the research's significance and purpose, and the value of research issues based on examination of previous studies. The dissertation argument, including the establishment of issues, analysis, research method, results, and discussion must be clear, appropriate, and coherent.
- 3) The written expressions and utilization of formulas, notations, diagrams, and terminology must be appropriate for an academic paper.
- 4) The dissertation must be the product of research that observes and executes guidelines pertaining to academic research ethics.
- 5) At the dissertation presentation and screening the degree applicant must be able to precisely present the significance and results of the dissertation content.
- 6) The Doctoral Dissertation Screening will be conducted by several faculty members, including a chief examiner/deputy examiner, and determination of acceptance will be made by the graduate school.

8. Grade Evaluations

Grade Evaluations will be indicated as below.

Subjects	Mark	Indicated on Grade Report	Indicated on Transcript	Judgment
Research Instruction of Master's/Doctoral Program	N/A	P	P	Approved
	N/A	Q	N/A	Not Approved

*There is no credit earning for Doctor course.

9. Academic Achievements

- 1) To plan one's own study and research, acquire the specialized knowledge necessary to carry it out, and be able to apply it.
- 2) To have a correct understanding of information ethics and information security and be able to put them into practice.
- 3) To be able to investigate and understand the technological trends in one's own area of expertise and to be able to appropriately set issues to be addressed by oneself.
- 4) Propose methods and means to solve the issues they have identified, and demonstrate their soundness, novelty, and effectiveness by objectively verifying them.
- 5) Be able to correctly convey one's ideas and thoughts to others, and acquire the process of assertion and cooperation in communication with others based on a high sense of ethics.
- 6) Be able to plan and execute the means to properly realize the solution methods envisioned.
- 7) Have original research that makes a significant contribution to technological development.

V Ph.D. Evaluation Procedures

1. Handling of Ph.D. Applications

The IPS faculty member receiving an application for the doctoral program makes a preliminary assessment of the application after verifying conferral requirements with academic affairs personnel in IPS Office. The faculty member then submits documentation (such as career summary, performance record and dissertation copies) to his field meeting and proposes an evaluation for the conferral of a doctoral degree.

2. Proposal at a Field Meeting

Conferral requirements for an applicant are deliberated at a field meeting based on a report from the faculty member who received the applicant's request. The meeting participants then propose (a) a doctoral reading committee of three or more persons for applicants within the doctoral program, or (b) qualifying examinations and examination evaluators, in addition to a reading committee, for applicants coming from outside the program, and submit the proposal at an executive faculty meeting. The doctoral reading committee must include a member who has been endorsed to chair doctoral committees (applying to both doctoral reading committees and examination evaluations in the case of outside applicants). (Once this condition is met, a doctoral reading committee shall thereafter be assumed to include a person acting in a chairing capacity.) The member chairing the committee must be a full-time faculty member, professor or visiting professor who intends to serve as the applicant's academic advisor.

Applicants for a doctoral degree may carry out application procedures in accordance with the rules and regulations of the university on their own and without the mediation of a faculty member. However, the Dean of IPS (hereafter, the Dean) may request that procedures be carried out for the applicant at this stage in a field that is considered appropriate for the applicant.

To decide the start of the evaluation procedure for an application, it is necessary to hold the preliminary hearing for qualification.

3. Proposal at an Executive Faculty Meeting

Following the above procedures, the Dean presents an applicant's name, dissertation subject, planned evaluators, qualifying examinations, and other relevant particulars at an executive faculty meeting. Deliberations at the executive faculty meeting focus on the selection of evaluators, and a proposal is then drawn up for presentation to the IPS Steering Committee.

4. Acceptance of Application by the IPS Steering Committee

The IPS Steering Committee finalizes acceptance of the application and the selection of evaluators. Qualifying examinations and examination evaluators are also decided on for applicants coming from outside the program. The IPS Steering Committee comes into formation when at least

one third of its members are present, and decisions are passed when a majority of those members in attendance is reached.

5. Doctoral Reading and Qualifying Examinations

Doctoral readings and qualifying examinations are conducted in accordance with university rules and regulations. Actual methods are decided on by the reading committee, however all candidates shall give a presentation and conduct a dissertation defense. The person chairing the committee supervises the doctoral reading and qualifying examinations, prepares a report of the doctoral reading, and test results in the case of qualifying examinations, and presents them to the Dean.

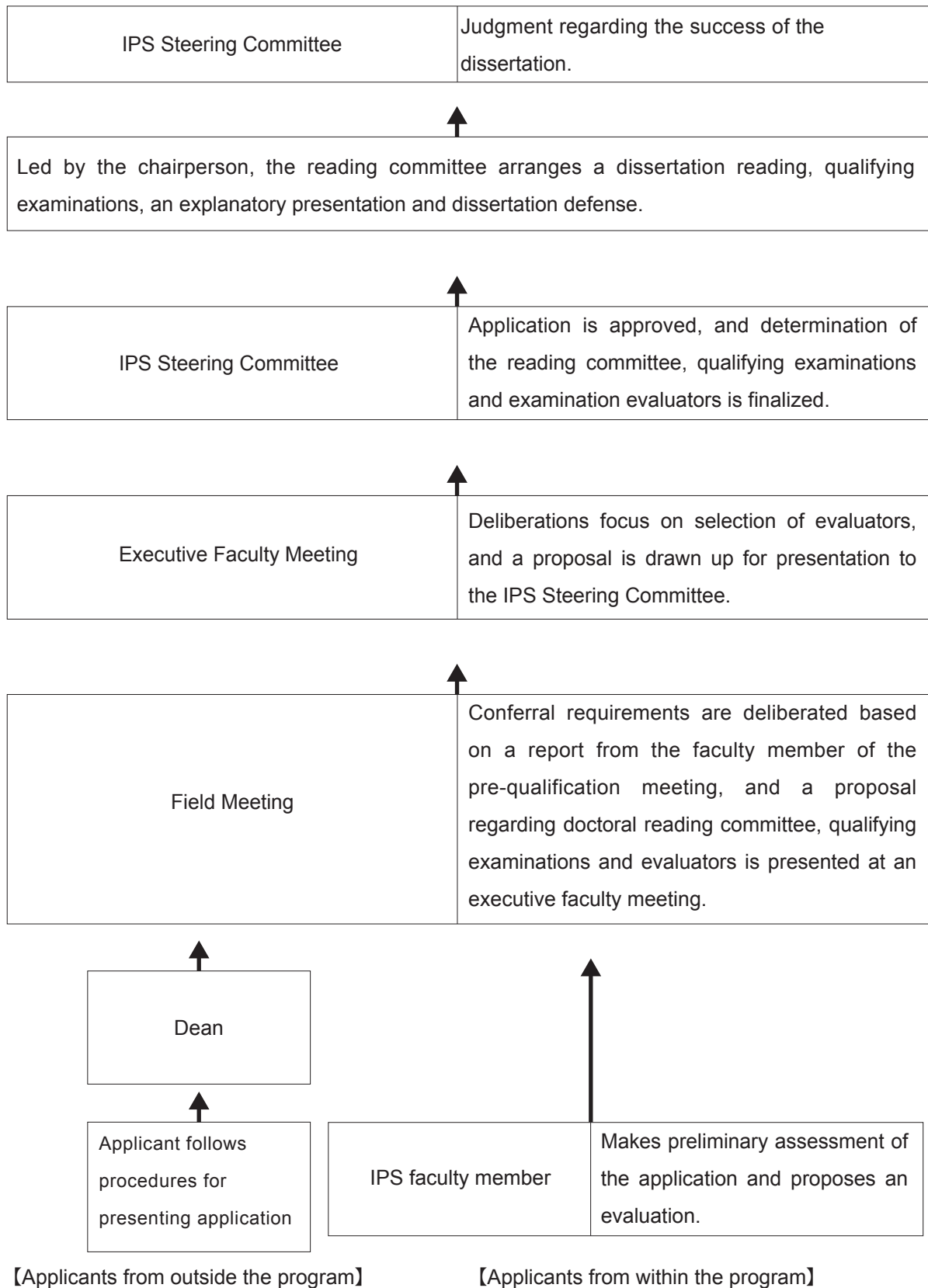
6. Decision by the IPS Steering Committee

The IPS Steering committee established to judge a dissertation comes into formation when at least two thirds of its members are present. Judgment on the success of a candidate's dissertation is conducted by anonymous vote, and the agreement of at least two thirds of those members present is needed to pass.

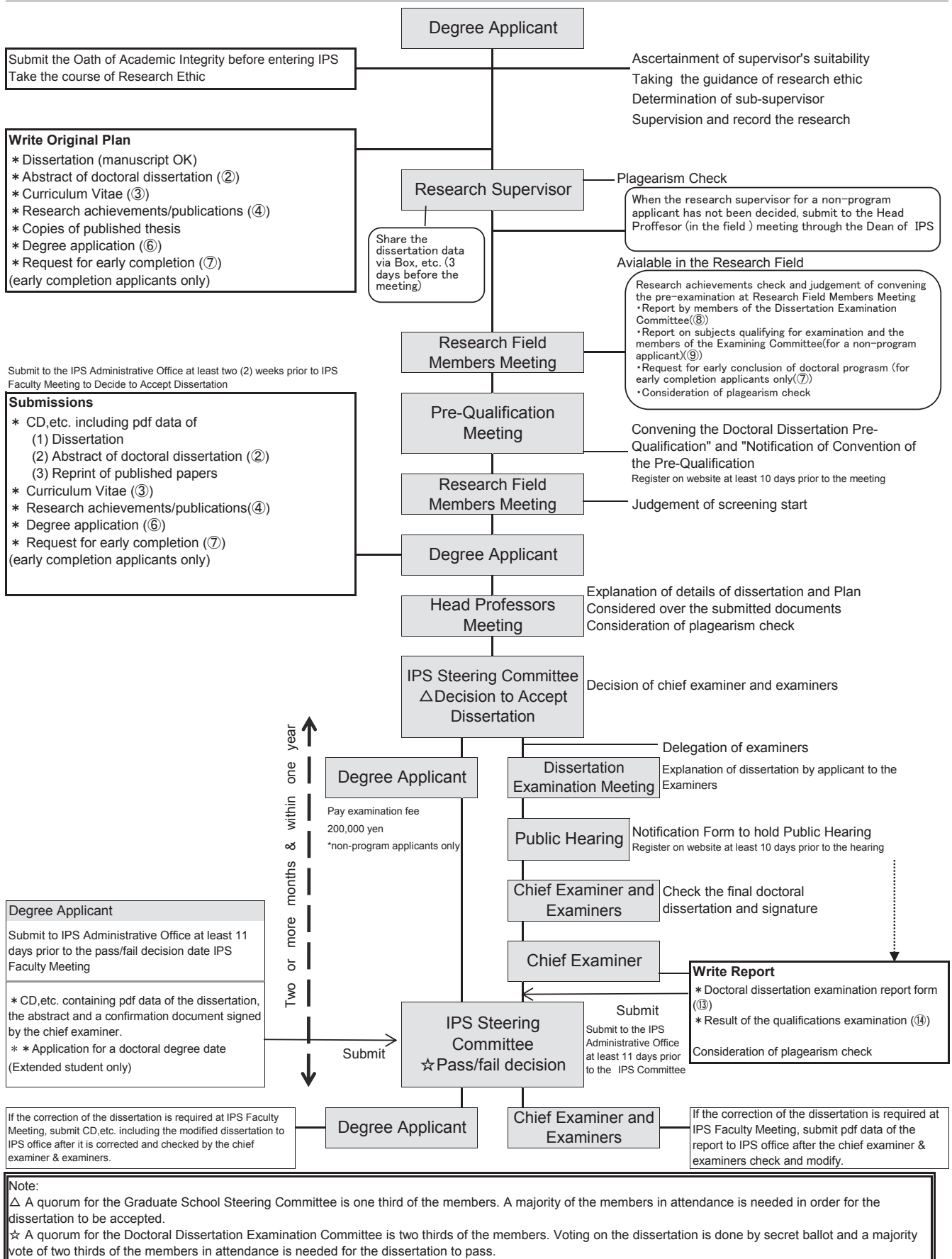
7. Reports to the University and the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

Prescribed procedures are followed in preparing and delivering reports. A summary of the dissertation appears in the IPS research journal.

Application Procedures



The Process from Receipt of the Doctoral Dissertation through Notification of Results



VI Miscellaneous Information of Student Life

1 Daily Research Environment	24
2 Announcements	24
3 IPS Office Hours	25
4 Student ID Number	25
5 Student ID Card	25
6 KSRP Campus Card	26
7 Request and Notification Forms	26
8 Payments of School Fees and Dismissal	27
9 Certificates	28
10 Special Consideration for Leave of Absence	29
11 Class Cancellation Policy	30
12 Scholarships	31
13 Medical Bill Assistance	31
14 Accident Compensation Programs	31
15 If you have any problems with studying or student life in general... ..	32
16 Annual Health Checks	32
17 AED Location	32
18 Job Hunting	32
19 Training and Education Benefits System	33
20 International Students	34
21 Harassment Prevention	35
22 Student Diversity Center	36

VI Miscellaneous Information of Student Life

1. Daily Research Environment

The University of Kitakyushu, Kyushu Institute of Technology, Fukuoka University, and the Industry-Academia Cooperation Center are some of the universities, businesses and laboratories that exist at KSRP in addition to the Graduate School of Information, Production and Systems (IPS). The use of some facilities is shared, calling for amicable cooperation by everyone. Students should remain aware that as graduate students, you are representatives of Waseda University. Please use only the designated facilities and be sure to dispose of your trash responsibly.

Graduate building, library, student lobby, classrooms and other facility hours: 8:00 – 22:30

Computer training rooms 1 and 2, self-study room, language lab: 9:00 – 22:00

*Watch for announcements as times may change during special periods when facilities close. The building is closed on Sunday and national holidays.(Except when the classes are on)

- a. The student lobby is a focal point of student life for graduate students. The free-locker will be available to use. Please apply at IPS office.
- b. The university shall not be held responsible for theft of personal items. Students must look after their own valuables and other possessions. In addition to the student lobby, there is a rest area in the lobby near the lecture rooms that students may use for taking breaks, holding discussions, conversing and other activities. Drink machines are located in the student lobby. Smoking is prohibited in the shared-use areas of the graduate school building except where ashtrays have been provided.
- c. Registration is required for use of the parking facility (¥3,000 per year; spaces are limited). Please inquire at IPS office for details.
- d. Details regarding use of the library, please use the nearby KSRP Media Center. Campus card will be required. Student ID card is required for use of the Waseda University Central Library (Waseda Campus, Bldg. 18) and the Waseda University Science & Engineering Library (Nishi-Waseda Campus, Bldg. 51).
 - Requesting documents (ILL)

Requests to the KSRP Media Center can be made for materials from Waseda University libraries and other facilities.

 - Kitakyushu Science and Research Park (KSRP) Media Center (<https://media-lib.hibikino.ne.jp>)
 - Waseda University Central Library: Tel. 03-3203-5581 (<https://www.waseda.jp/library/en/>)
 - Waseda University Science & Engineering Library: Tel. 03-5286-3889 (<https://www.waseda.jp/library/en/libraries/sci-eng/>)
- e. Using databases and electronic journals

IEL (IEEE electronic journal and IET electronic journal) and many other databases and electronic journals can be accessed from off campus via the University Library website.
- f. Requests must be received and approved for use of classrooms other than for conducting official classes. Use of classrooms is prohibited without permission. Follow the request procedures at IPS office.
- g. Please feel free to visit IPS office regarding any other inquiries you may have pertaining to campus life, problems or anything you are unsure of.

2. Announcements

Announcements and information for graduate students appear on the IPS office bulletin board and on the IPS web site IPS Square (URL: <https://www.waseda.jp/fsci/gips/en/campuslife/ipssquare/>). Be sure to check them on a regular basis.

3. IPS Office Hours

IPS office hours are:

Monday – Friday 9:00 – 17:00

The office is closed on Saturday, Sunday, National Holidays and other days decided by the university. Summer and winter holidays will be announced.

4. Student ID Number

A student matriculating in 2024 will have the following type of ID number.

4	4	2	4					–	
a		b		c	d			e	

- Graduate Department Code (The code for IPS is “44”)
- Last two digits of the matriculation year
- Program/Course code
Master’s program code is “1”
Doctoral program code is “2”
- Personal number
- CD, Check-Digit

5. Student ID Card

Students of this university are issued student ID cards. Student ID cards give proof of your identity, so please carry it at all times, and do not damage or lose it. Please note the following:

- A student ID card is issued at the time of admission.
- A student ID card comprises the card itself and a seal on the back indicating the year of expiration. The card is valid only when the seal has been affixed to the backside.
- Upon receiving your student ID card, immediately affix the seal to the backside and clearly write your full name (in Chinese characters) in the space provided on the card using a ballpoint pen with black oil-based ink. International exchange students whose name does not use Chinese characters should print their name in the space as it already appears on the seal in alphabet letters or katakana script.
- The student ID card is used during the time one is a student.
- A new seal for the backside of the ID card is issued by IPS office every new school year. Please remove the old seal and affix the new one.
- Notify IPS office of changes of address right away. Or please update your information on Waseda net portal.
- Guard your student ID card carefully. In the event of loss or theft, notify IPS office immediately to prevent fraudulent use of the card.
- When a new ID card is needed because of loss or theft, present a reissue request form (along with one color photo and the processing fee) to IPS office. A guarantor must cosign when a reissue request is made two or more times in the same year.
- Students must present their student ID card when taking examinations, for the issuance of certificates, student discounts and commuting vouchers, to receive various distributed items, and whenever asked by a faculty member of the university.
- Student ID cards are valid for one year from April 1 of the year indicated on the backside seal to March 31 of the following year.
- A student ID card expires when someone ceases to be a student by either completing the program or when leaving part way through, and the card must be returned to IPS office without delay. Students who have completed their program will exchange their student ID card for a diploma and must keep their card until then.

6. KSRP Campus Card

A campus card attests to who you are. Please keep it with you at all times as you will need it to enter and leave research laboratories and shared facilities in the graduate school building, as well as to enter and use the graduate school building at night, the KSRP Media Center library and other joint-use facilities in KSRP. You will need the initial password and ID given to you when you receive your card in order to use the computer in the KSRP library. Please store the card in a safe place.

If you lose your campus card, visit IPS office immediately with your Student ID Card or any identification in order to cancel the card for security purpose. Inquire at the IPS Office about how to have the card reissued. (There is a processing fee for the reissue of cards.)

7. Request and Notification Forms

Any change to the student's or guarantor's circumstances while the student is enrolled needs to be reported. Please enquire with the office to request the necessary form and to obtain further details. The list of notifications and applications is as follows:

- a. Request for leave of absence
- b. Request for reinstatement
- c. Request for withdrawal
- d. Request for re-admission
- e. Notification of name change
*Please include an abstract of your family register (koseki shohon) when making name change notifications.
- f. Notification of change of address
*Process address changes using the Waseda-net portal site.
- g. Notification of change of guarantor
*Please notify the office immediately when your guarantor changes addresses or when you change your guarantor. Failure to do so may affect you adversely if the graduate school is unable to contact your guarantor, so be sure to follow the correct procedures when necessary.
- h. Notification of absences
 - Bereavement Leave
 - Jury Duty
 - Infectious Disease

Please confirm further details with the notice board, IPS Square, or the office.

● Leave of Absence from School

If you cannot attend classes for a period of two months or longer due to the justifiable reasons, you may apply for leave of absence by obtaining the approval of the Dean, following to the procedures of application.

You cannot submit the application for leave of absence after June 1st for the Spring semester, and December 1st for the Fall semester.

Leaves of absence are only granted for a semester period within the relevant academic year. In special circumstances, however, permission may be granted to leave for a total period as specified below.

Master's Degree / Professional Degree (Two-year Program): a maximum of two (2) years, or four (4) semesters

Doctoral Degree / Waseda Law School: a maximum of three (3) years, or six (6) semesters

*A leave of absence period for students in certain graduate schools, majors, or master's programs or professional degree courses for which other than two (2) years is designated as the standard term of study may not exceed their stipulated periods of study.

The period of leave of absence will not count towards the period of enrollment required for graduation. Please enquire with the office to request the necessary form and to obtain further details.

[School fees during Leave of Absence]

(Spring Semester)

Submission Date	Granting Leave of Absence	Tuition and other Fees
~April 30 th	○	•Registration Fee 50,000 yen •Student Health Promotion Mutual Aid Association Fee 1,500 yen.
May 1 st ~ May 31 st	○	•School expenses for Spring Semester •Student Health Promotion Mutual Aid Association Fee 1,500 yen
June 1 st ~ Sept 20 th	× (Leaves of absence NOT granted for Spring Semester)	•School expenses for Spring Semester •Student Health Promotion Mutual Aid Association Fee 1,500 yen

※Students taking leaves immediately upon enrollment in April are responsible for the designated school expenses regardless of the date of application.

(Fall Semester)

Submission Date	Granting Leave of Absence	Tuition and other Fees
~ October 31 st	○	•Registration Fee 50,000 yen •Student Health Promotion Mutual Aid Association Fee 1,500 yen.
Nov. 1 st ~ Nov. 30 th	○	•School expenses for Fall Semester •Student Health Promotion Mutual Aid Association Fee 1,500 yen
Dec. 1 st ~ March 31 st of the following year	× (Leaves of absence NOT granted for Fall Semester)	•School expenses for Fall Semester •Student Health Promotion Mutual Aid Association Fee 1,500 yen

※Students taking leaves immediately upon enrollment in September are responsible for the designated school expenses regardless of the date of application.

- Withdrawal**

Students should submit an “Application for Withdrawal” and return their student ID card.

In case of withdrawing in the middle of a semester, school tuition and other fees must be fully paid for that semester. (See below.)

Date of application	Spring Semester		Fall Semester	
	Apr. 1 st ~14 th	Apr. 15 th ~ Sep. 20 th	Sep. 21 st ~ 30 th	Oct. 1 st ~ Mar. 31 st
Date of withdrawal	March 31 st (previous AY)	Date of application or September 20 th	September 20 th	Date of application or March 31 st
Tuition payment	Not required	Payment required	Not required	Payment required

※The student who withdraws in the first semester cannot receive the refund for tuition and fees they paid for the entrance procedure.

Please enquire with the office to request the necessary form and to obtain further details.

8. Payments of School Fees and Dismissal

(1) School fees must be paid for each academic year by the following dates.

Spring semester April 15th

Fall semester October 1st

(2) School fees for students entering the University in the 2023 academic year

*Students who have enrolled in a regular program and have paid the corresponding admission fees to Waseda University are exempt from admission fees.

■ Master's Program

(Unit: Yen)

Academic Year	Payment Period	Admission Fee	School Fees and Other Fees			Total
			Tuition	Seminar Fee	Membership Fee of Student Health Promotion Mutual Aid Association	
1st Year	At Admission	300,000	557,000	25,000	1,500	883,500
	Second Term	-	557,000	25,000	1,500	583,500
	Total	300,000	1,114,000	50,000	3,000	1,467,000
2nd Year	First Term	-	657,000	25,000	1,500	683,500
	Second Term	-	657,000	25,000	1,500	683,500
	Total	-	1,314,000	50,000	3,000	1,367,000

※Students who have newly enrolled master's program will be required to pay 40,000 yen as the "Alumni association membership fee". This membership fee will be paid in the final term/semester of their last year, which covers 10 years of annual membership fee that students pay in advance.

※Seminar fees and membership fees may be subject to revision.

■ Doctoral Program

(Unit: Yen)

Academic Year	Payment Period	Admission Fee	School Fees and Other Fees			Total
			Tuition	Seminar Fee	Membership Fee of Student Health Promotion Mutual Aid Association	
1st Year	At Admission	200,000	353,500	25,000	1,500	580,000
	Second Term	-	353,500	25,000	1,500	380,000
	Total	200,000	707,000	50,000	3,000	960,000
2nd Year	First Term	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	Second Term	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	Total	-	907,000	50,000	3,000	960,000
3rd Year	First Term	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	Second Term	-	453,500	25,000	1,500	480,000
	Total	-	907,000	50,000	3,000	960,000

※Seminar fees and membership fees may be subject to revision.

(3) Refer to the following table for details on the handling of school fees for each term regarding students who are enrolled beyond a specified number of years (referred to as "ENCHOSEI" hereinafter).

School Fees	Amount to be Collected		
Tuition	Students who have passed the master's thesis examination or doctoral dissertation examination (collectively referred to as "master's thesis examination, etc." hereinafter)	Students who have not obtained the required credits for completion of master's or doctoral program	Amount equivalent to 50% of the amount paid by *standard students for calculating ENCHOSEI school fees, etc. *standard students for calculating ENCHOSEI school fees refer to the students who are in the final year of the standard academic year, Master 2 nd year and Doctor 3 rd year.
	Students who have not passed the master's thesis examination, etc.	Students who will have obtained the required credits for completion of master's or doctoral program by the end of last term	Amount equivalent to 50% of the amount paid by standard students for calculating ENCHOSEI school fees, etc.
		Students who will not have obtained the required credits for completion of master's or doctoral program by the end of last term	Amount paid by standard students for calculating ENCHOSEI school fees, etc.
Seminar Fees	Amount paid by standard students for calculating ENCHOSEI school fees, etc.		

(4) Payment Methods

Payment methods for fees (to be selected during the admissions process) include direct deposit using the school fees payment slip or bank transfer from the specified financial institution (including the post office).

(5) Dismissal

Failure to pay the required school fees will result in dismissal (loss of student status at the University) and the student in question shall be considered to have withdrawn from the University at the end of the last semester for which tuition fees were paid. It should be noted that dismissal will also result in partial invalidation of the student's duration of enrollment as well as grades. If special circumstances exist and a student wishes to withdraw from the University prior to the date of automatic dismissal (refer to table below), please consult IPS office of the graduate school in question.

Semester	Deadline for Payment	Date of Automatic Dismissal	Effective Date of Withdrawal
Spring semester	April 15th	September 20th	March 31st
Fall semester	October 1st	March 31st of the following year	September 20th

9. Certificates

We can issue the following certificates:

<Master's program>

- Certificate of Enrolment (J/E)
- Transcript of Academic Record (J/E)
- Transcript of Academic Record /GPA(J/E)
- Certificate of Expected graduation (J/E)
- Certificate of Graduation (J/E)
- Certificate of Academic Transcript and Expected Graduation (J)
- Certificate of Academic Transcript and Graduation (J)
- Health Certificate (J)

※J…Japanese, E…English

<Doctoral program>

- Certificate of Enrolment (J/E)
- Transcript of Academic Record (J/E)
- Health Certificate (J)
- Certificate of Graduation (J/E)
- Certificate of Academic Transcript and Graduation (J)
- Degree Certificate (J/E)

Please refer to the website below for details.

Support Anywhere https://wnpspt.waseda.jp/student_en/supportanywhere/2023/05/01/certificate_request/

IPS Square <https://www.waseda.jp/fsci/gips/en/campuslife/certificate/>

10. Special Consideration for Leave of Absence

The University has systems in place to prevent students who are on a leave of absence due to the circumstances listed below from being unfairly disadvantaged in terms of assessment. Students who fail to meet coursework requirements such as class attendance (including that for online courses), submission of assignments, and exam-taking should consult the office of their affiliated department (school or graduate school) in order to request special academic consideration from their course instructors. Please note that the final decision on a student's absences is left to the discretion of the instructor.

■ Bereavement Leave

- a. Scope: This policy applies to all full-time students currently in the Waseda University system.
- b. Number of days: Students are eligible for up to seven consecutive class-meeting days for the death of a first-degree family member (parent, child), second-degree family member (sibling, grandparent, grandchild), or spouse (if international travel is involved, extra days may be granted).
- c. Procedure:
 - 1) Obtain a "Notification of Absence due to Bereavement" from the office of your affiliated department within ten days of the end of the period for which consideration is sought.
 - 2) Promptly fill out and submit the completed "Notification of Absence due to Bereavement," along with appropriate documentation, such as a funeral acknowledgment card, to the office of your affiliated department.
*In the event the deceased is your guardian, it will also be necessary to follow the procedure to change guardians.
 - 3) Obtain a "Special Consideration Request for Absence due to Bereavement" from the office of your affiliated department.
 - 4) Submit the "Special Consideration Request for Absence due to Bereavement" to your course instructor and seek special consideration for academic work missed during your bereavement leave (if you are taking an online course, submit this request to the office offering the course or your instructor via email, the LMS, etc.).

■ Jury Duty

- a. Scope: This policy applies to students who have been appointed as candidates for lay judges, and are required to appear in court for the appointment, proceedings, and trials.
*This policy also applies to students who are currently at Waseda University through participation in domestic student exchange programs. Students of e-learning courses in the School of Human Sciences and non-degree students are not included.
**N.B. College students may use their right to refuse such duty (under the right of civil law).
- b. Procedure:
 - 1) Notify the office of your affiliated department and submit the "Notice of Term of Service (Summons)" you received.
 - 2) Submit a "Request for Consideration" to your course instructor and seek special consideration for academic work missed during your jury duty leave (if you are taking an online course, submit this request to the office offering the course or your instructor via email, the LMS, etc.).

■ Infectious Disease

In order to prevent the spread of highly infectious diseases, students who have contracted any of the specified diseases will not be allowed to attend class, based on the authority of the *School Health and Safety Act* (the length of the suspension period is based on Mandatory Suspension Guidelines).

- a. Scope: See the information available on the Health Support Center homepage for details regarding preventing the spread of infectious diseases on campus.
*For information pertaining to COVID-19, follow the link below.
<https://www.waseda.jp/inst/hsc/en/information/healthcare/infection>
- b. Procedure:
 - 1) If you contract an infectious disease, notify the office of your affiliated department (undergraduate/graduate).
 - 2) Once you have received permission to attend school or the "suspension period of coming to school" has ended, ask your physician to fill out the designated *Certificate of Recovery from Infectious Disease Form* (学校における感染症治癒証明書) and submit it to the office of your affiliated department (undergraduate/graduate).
 - 3) Obtain, fill out, and submit a "Notification of Absence due to Quarantine for Infectious Diseases" to the office of your affiliated department (undergraduate/graduate) and follow all instructions given by the office. Contact your course instructor and seek special consideration for academic work missed during your illness.

11. Class Cancellation Policy during Term

In general, during severe and dangerous weather conditions, the University will issue a directive to cancel classes (except classes on public holidays or during vacation time) and postpone examinations, etc. Directives involving such contingency measures on any campus will apply to all courses and examinations taking place in person on the designated campus.

All affected students are expected to keep themselves informed and heed such directives. Students are advised to delay their commute or to refrain from coming to the University when their commuting routes (to the campus where their classes are taking place) are under any severe-weather warning issued by the Meteorological Agency or a “J-Alert” warning concerning a potential ballistic missile attack, and they feel that commuting will endanger their safety. In such cases, students should submit a completed “Notification of Absence” to the office of their affiliated department for approval and show the approved form to their course instructors when requesting consideration for that absence.

■Special Exemptions to Cancellation of Classes and Postponement of Examinations

*Regarding online classes, there may be cases in which it is difficult due to adverse weather conditions, etc. for students to participate online. Students should determine for themselves if they are unable to participate in that day’s classes, and in such cases, they can request consideration for the absence the following day through the office of their affiliated department (school or graduate school).

■Class Cancellation due to Severe Weather

Any decision to cancel classes, postpone examinations, or enact other contingency measures due to severe weather is the responsibility of the University and will not be based solely on warnings and advisories issued by the Japan Meteorological Agency.

However, when weather conditions are severe (heavy rainfall, flooding, high winds, blizzard conditions, heavy snow, etc.) or when a warning has been issued by the Japan Meteorological Agency and a determination has been made by the University that current conditions pose a danger to the safety of students, faculty, and staff, the University will enact contingency measures such as the cancellation of classes and postponement of examinations, etc. Please be aware, if there is no special directive issued by the University, classes and examinations will typically not be cancelled or postponed.

- 1) If the University decides to enact contingency measures such as the cancellation of classes, postponement of examinations, etc., the University will inform all students of the decision at least 60 minutes prior to the start of each affected class period or examination via the emergency communication channels shown below. Whenever possible, the University will make efforts to inform students, faculty, and staff of cancellations and postponements, etc. at least two hours prior to their scheduled time.
- 2) Based on the prevailing weather conditions during a typhoon, heavy snow, etc., where forecasts with reasonable accuracy can be made, the University may issue an emergency bulletin a day in advance to cancel classes, postpone examinations, etc. In such cases, a decision will be made by 7 p.m. and a notification posted for students via the emergency communication channels shown below.

■Class Cancellation due to the Occurrence of a Severe Earthquake

In the event that a severe earthquake occurs with such intensity that course instructors are not able to conduct classes safely, the following measures will be taken as soon as a decision is made by the University to cancel or postpone classes or examinations.

- 1) If a decision is made to cancel or postpone classes or examinations, students, faculty, and staff will be immediately notified via the communication channels listed below.
- 2) If a decision is made during instructional hours, an immediate announcement will be made over the campus public address system.

■Class Cancellation in the Event of a Large-Scale Power Outage

In the event of a large-scale power outage occurring unpredictably in the wake of overwhelming demand for electricity, the University will cancel classes as follows. Classes will be resumed in the first period of the day following the restoration of electric power.

- 1) If a large-scale power outage occurs during a class period (Periods 1 – 7):
Remain calm and stay inside the classroom until the situation is under control. All classes scheduled for the rest of the day will be cancelled.
- 2) If a large-scale power outage occurs outside a class period:
All classes scheduled for the day will be cancelled.

■Class Cancellation due to Transport Strikes

- 1) If JR in Kitakyushu and Fukuoka area goes on strike (a general strike or a JR strike), the following arrangements will apply:
 - A. If the strike ends by 12 midnight of the previous day, classes will proceed as normal.
 - B. If the strike ends by 8 a.m. on the day in question, classes will start from Period 3 (1:10 p.m.).
 - C. If the strike does not end by 8 a.m., all classes will be cancelled.It should be noted that the above does not apply to work-to-rule action at JR or to strikes affecting private railway companies.

<Method of Contact in Case of an Emergency>

Waseda University will make emergency announcements through the Emergency Communication System, as outlined below.

- 1) Waseda University Emergency Bulletin Website: <https://emergency-notice.waseda.jp/>
- 2) “Announcements” in MyWaseda
- 3) Waseda Mail

The same information can be accessed via the following channels.

- | | |
|---|---|
| 1) MyWaseda | : https://my.waseda.jp/ |
| 2) Waseda University Website | : http://www.waseda.jp/ |
| 3) Waseda University official X(former Twitter) | : https://twitter.com/waseda_univ |
| 4) Waseda University official Facebook | : https://www.facebook.com/WasedaU |

12. Scholarships

Details of scholarships for Japanese students are found in the Japanese-language handbook entitled “*Shogakukin Joho Challenge*” and for international students in the “International Student Handbook.” Information about any scholarship scheme currently accepting applications is communicated through the office’s notice board or IPS Square as it becomes available.

13. Medical Bill Assistance

Waseda University Student Health Promotion Mutual Aid Association reimburses members up to 60,000 yen a year towards hospital medical bills for treatment carried out under medical insurance. An application must be made before the relevant deadline; membership is open to regular students. For further details, please refer to IPS Square “Introduction to Waseda University Student Health Promotion Mutual Aid Association”.

14. Accident Compensation Programs

The Compensation Program for Waseda Students takes two forms: injury and accident compensation and liability compensation. Injury and accident compensation applies if you are injured while engaging in educational and research activities approved by the University.

Educational and research activities refer to “curricular activities,” “University-related events,” “being present in the University’s facilities,” “commuting to and from the University,” “moving from one University facility to another” and “extra-curricular activities.” When participating in “extra-curricular activities,” you need to inform the University no later than seven days prior to the date when the activity takes place. Liability compensation applies when you become legally liable to pay compensation because you have injured someone else or damaged someone else’s property during internship, teaching practice, or voluntary activities approved by the University. You need to inform the University prior to taking part in such activities. For further details of the injury and accident compensation program and liability compensation program, please enquire at the office, or please visit: <https://www.waseda.jp/inst/student/en/support/injury>

<https://www.waseda.jp/inst/student/en/support/liabilitycoverage>

15. If you have any problems with studying or student life in general...

If you feel you cannot keep up with coursework, your research is not progressing well, or you cannot get on with friends, senior students, or academics, you can consult with teaching staff appointed as specialist advisors on student life.

Please refer to the IPS Square "Office Hour : student affairs committee" page for details.

You can also talk to the psychological specialist counselor if you feel you don’t have any friends and you don’t belong, or you are constantly agitated, unable to sleep, or homesick.

Please refer to the IPS Square “IPS Counseling Room” page for details on how to apply for counseling.

16. Annual Health Checks

Annual health checks take place every April at your Faculty. Please attend the health check session without fail. Health checks for students enrolling in September of a given year take place in October (this does not apply to continuing students). It is also possible to have a health check at our Waseda Campus in Tokyo. Please enquire with the office for further details.

Please note that if you do not attend the health check session, the University cannot issue a health check certificate.

17. AED Location

An AED is placed in front of the central management office at the main entrance on the first floor.

18. Job Hunting

a. The typical timetable for job hunting

•For those students who enrolled in April 2024

August 2024:	Internship
From March 2025:	Start job hunting (Career seminars, company information sessions)
From June 2025:	Employment exams
From October 2025:	Receive Job offer
April 2026:	Start of your employment

•For those students who enrolled in September 2024

August 2025:	Internship
From March 2026:	Start job hunting (Career seminars, company information sessions)
From June 2026:	Employment exams
From October 2026:	Receive Job offer
October 2026 or April 2027:	Start of your employment

*The above schedule may be changed. Please check the recent schedule on IPS Square.

b. Internship

•Internship schemes often operate during the summer vacation period, but they also operate in other period recently. Because it offers a valuable opportunity to directly learn about a company through work experience, we strongly recommend that you try for an internship if you are thinking of finding a job after your studies.

c. Japanese Language Proficiency

•To find employment with a Japanese company, you will need a level of proficiency in Japanese that enables you to communicate at work. The selection process (including written exams and/or interviews) is almost always conducted in Japanese.

19. Training and Education Benefits System

This is a benefit system that supports measures for proactively developing workers' skills and distributes employment insurance benefits for promoting employment security and reemployment. Persons having completed the IPS program and who meet certain conditions shall receive from the national job agency, Hello Work, up to 20% (for persons who have met benefit requirements for three or more years, or one or more years for first-time recipients; totaling no more than ¥ 100,000) of the educational training fees they paid as part of their entrance and class fees.

a. Eligibility

- 1) Persons who have completed the master's program
- 2) Persons with employment insurance

Persons who have employment insurance as of the day of commencing educational training classes (hereafter, "class commencement day") designated by the Health Minister and who have met benefit requirements for three or more years (or one or more years for first-time recipients).

- 3) Persons who previously held employment insurance

Persons who do not have employment insurance but who commenced classes within one year of the day they were no longer eligible to hold employment insurance (i.e., the day after the day they became unemployed) and met benefit requirements for three or more years.

b. Application Procedures

Within one month from the day after the final educational training class, application to receive payments must be made at the public employment agency in the jurisdiction of the applicant's address. Please ask IPS office for further more information.

20. International Students

a. Notifications

Those without Japanese nationality need to submit the following notifications:

a). Visa Status Notification

If your details recorded for visa purposes change—due to visa renewal, change of residence status or change of address, for example—please submit the residence card copy (both sides) to the office via Forms immediately. How to renew your visa/change residence status can be confirmed on IPS Square. Forms(log-in by Waseda ID)



b). Notification of Travelling Abroad

Please submit this with the office before you leave Japan to attend a conference or for a long holiday.

b. International Student Handbook

Please see the CIE website (<https://www.waseda.jp/cie/handbook/index.html>). It explains, in both Japanese and English, various procedures at the Immigration Bureau and the medical care system as well as scholarships available to international students.

c. Seminars for international students

Various institutions organize seminars for international students. When we receive a seminar announcement, we will make an announcement through IPS Square and the notice board. Please make the most of these opportunities.

d. Managing your visa/residence status

If you need to change your residence status or renew your visa while you are enrolled in the University, you have to do it at the Immigration Bureau. Please be aware that if you fail to renew your visa before it expires, you may be expelled from the country and will be unable to continue your research at the IPS. For information on how to renew your visa, please see the Immigration Bureau's web site or IPS Square.

If your address changes due to a house move, you need to report it to the Ward Office that is in charge of the place you live within 14 days (you cannot do this at a branch office). If you fail to report change of address within 14 days, your visa may be cancelled. You must carry your residence card at all times so that you can immediately produce it when requested. Please prioritize visa/residence status management in order for you to continue your stay in Japan.

21. Harassment Prevention

Waseda University has instituted a variety of measures as part of its commitment to harassment prevention. This includes not only the establishment of the *Waseda University Guidelines for Harassment Prevention*, as well as consultation and grievance procedures, but also through educational activities in print, online, and in seminars, etc. aimed at raising awareness and proactively deterring harassment.

Q: What constitutes harassment?

A: Harassment as defined by the University's guidelines includes all forms of expression and behavior, which reflects unfavorably, causes discomfort, or otherwise insults the dignity of the victim on matters including one's sex, social status, ethnicity, national origin, beliefs, age, occupation, physical characteristics or features, and one's identity. In general, harassment in universities takes one of the following forms: sexual harassment, any expression or behavior of an offensive, sexual nature; academic harassment, any offensive expression or behavior relating to one's studies, education, or research; and power harassment, any expression or behavior of an offensive nature made by a person of superior social standing or someone who has authority over the victim.

Q: Why is harassment considered a problem?

A: From the victim's perspective, harassment hinders the ability to establish and maintain a comfortable environment for learning, research, and employment; the overall impact of such negative behavior constitutes an infringement on the victim's human rights. Sometimes, actions and behavior taken by someone without the slightest thought can be the cause of almost unbearable distress to others. Harassment cases often have an adverse impact on the daily lives of those who have come forward as victims.

Q: Can students ever be accused of perpetrating harassment?

A: Yes, of course. For example, one could easily imagine the following scenario taking place at a social mixer involving students belonging to one of the University's many interest groups ("circles"). When a student makes repeated comments of a sexual nature in front of others; pressures others into drinking alcohol; or persistently asks a member to go out on a date, and such behavior results in other students feeling uncomfortable, these actions become examples of sexual harassment and power harassment.

Q: If you feel that you or someone you know may be experiencing "harassment in some form," what should you do?

A: If you feel that you are a victim of harassment, or know of a friend who may be a victim, or have a question or opinion regarding the University's policy and procedures, please do not hesitate to contact our Consultation Desk manned by our staff of trained professionals. For more information on the consultation process and other matters, check our website.

■ **CONSULTATION DESK**

Anonymous consultations are accepted via phone, email, fax, letter, and any other means in the initial stages. Your privacy and wishes are of outmost concern to us. Persons requesting an in-person consultation are asked to make an appointment via email.

【E-mail】 compliance@list.waseda.jp

【U R L】 <https://www.waseda.jp/inst/harassment/en>

Consultation Hours: Mon - Fri, 9:30-17:00

Location (Consultation Desk): 1st floor, Bldg. No.19

1-21-1 Nishi-waseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0051

■ Waseda University external consultation desk【NEC VALWAY,Ltd.(Subcontractor)】

【T E L】 0120-123-393

Reception hours: 8:30-19:00 on weekdays/8:30-17:00 on Saturday

【U R L】 <https://koueki-tsuhou.com/WFcXVtaEFdCd/en>

※English,Chinese and Japanese are available.

22. Student Diversity Center (SDC)

Within the Student Diversity Center the following three offices work together to support students and to ensure a rich campus environment that welcomes the diverse values and experiences of all our students, inclusive of race, ethnicity, nationality, gender, sexuality, ability, religion or age. Please feel free to contact, consult and visit us.

★More Information



■Intercultural Communication Center (ICC)

At the ICC we create and host events and programs for students of all nationalities and backgrounds to interact. If you are interested in other cultures or sharing your own, please come and see us! The ICC Lounge is on the 1st floor of Building 3, so feel free to drop by.

Place: 1st Floor, Bldg. 3

Hours: Please check our website.

TEL: 03-5286-3990 E-mail: icc@list.waseda.jp

URL: <https://www.waseda.jp/inst/icc/en/>

■Accessibility Resource Center (ARC)

The ARC coordinates reasonable accommodation for students with visual impairment, hearing impairment mobility impairment, mental disorder, developmental disorder, and other disabilities (such as aphasia and internal impediments) to ensure that they have the same study environment as other students. Please contact us if you would like to discuss reasonable accommodation.

Department of Physical Disabilities

Place: #110 Building No.3

TEL: 03-5286-3747 E-mail: arc@list.waseda.jp

Department of Mental/Developmental Disorders

Place: Nishi-Waseda Bldg (Building No.19).102-10

TEL: 03-3208-0587 E-mail: shien02@list.waseda.jp

OSD Office Hours: Please check our website.

URL: <https://www.waseda.jp/inst/dsso/en/>

■Gender and Sexuality Center (GS Center)

The GS Center is a safer space/resource center for LGBTQ+ and allied students, as well as all students who are interested in issues related to gender and sexuality.

At the GS Center, you can access various resources, such as chatting with the student staff members, reading books and magazines, and attending and participating in events and workshops. You can also utilize our counseling services provided by our Gender and Sexuality Specialty Staff to address issues related to and stemming from gender and sexuality. Your privacy will be protected. As needed, we can also make referrals to and collaborate with programs and agencies on-and-off-campus.

Place: Building 10, Room 213, Floor 2

E-mail: gscenter@list.waseda.jp

Office Hours: Please check our website.

URL: <https://www.waseda.jp/inst/gscenter/en/>

早稲田大学校歌

坪内逍遙／校閲 相馬御風／作詞 東儀鉄笛／作曲

1. ^{みやこ} 都の西北 ^{せいほく} 早稲田の森に ^{わせだ} 聳ゆる ^{もり} 麓は ^{そび} われらが ^{いらか} 母校 ^{ぼこう}
miyako no seihoku waseda no mori ni sobiyuru iraka ha warera ga bokou
^ひ われらが ^{ほうふ} 日ごろの ^し 抱負を知るや ^{しんしゅ} 進取の精神 ^{せいしん} 学の独立 ^{がく} ^{どくりつ}
warera ga higo no houfu wo shiruya shinsyu no seishin gaku no dokuritsu
^{げんせ} 現世を ^{わす} 忘れぬ ^{くおん} 久遠の理想 ^{りそう} かがやく ^{ゆくて} われらが ^み 行手を見よや
gennse wo wasurenu kuon no risou kagayaku warera ga yukute wo miyoya

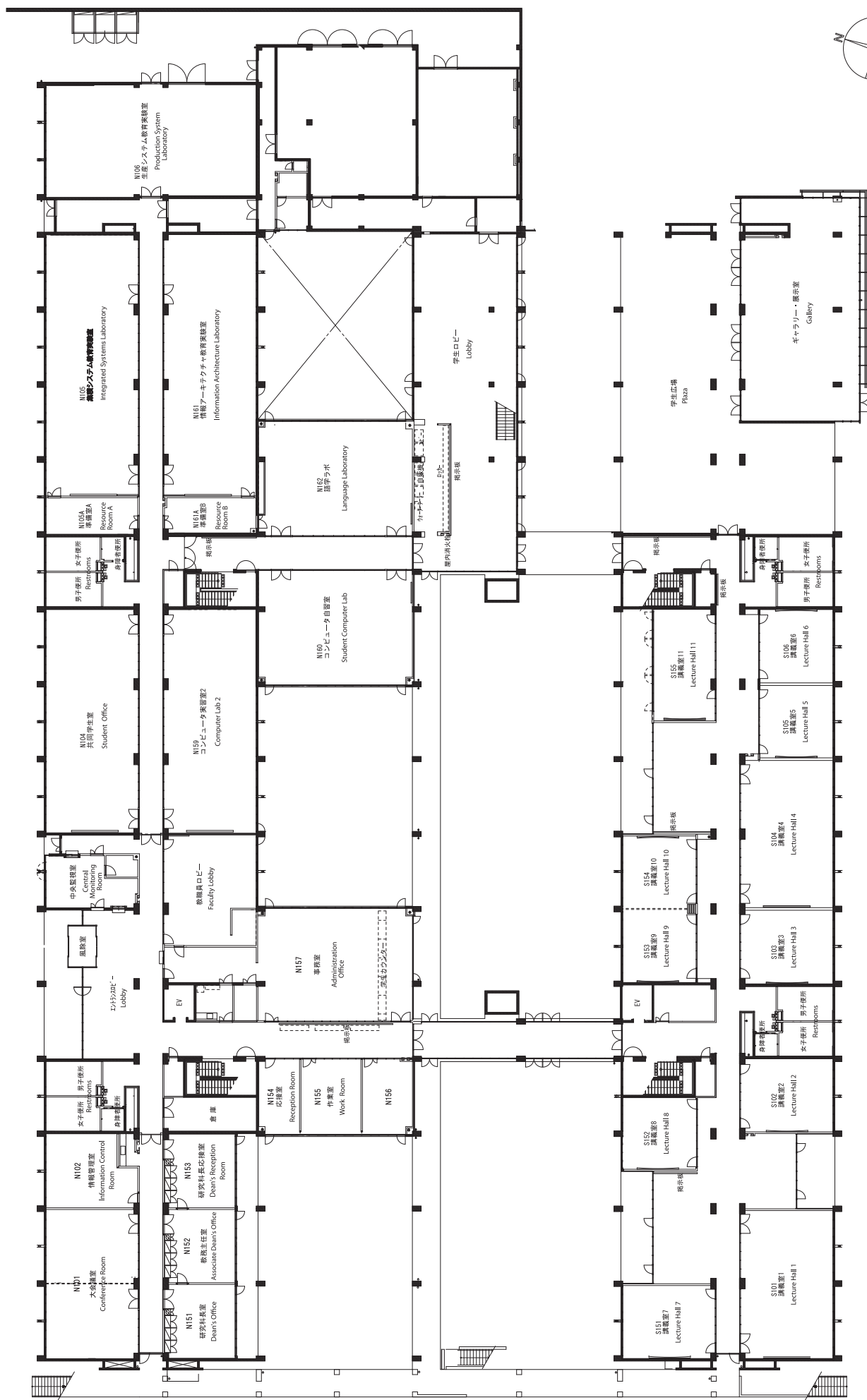
わせた わせた わせた わせた わせた わせた わせた
waseda waseda waseda waseda waseda waseda waseda

2. ^{とうざい} 東西古今の ^{ここん} 文化の ^{ぶんか} うしほ ^{ひと} 一つに ^{うずま} 渦巻く ^{だいとうこく} 大島国の
touzaikokon no bunka no ushio hitotsu ni uzumaku daitoukoku no
^{だい} 大なる ^{しめい} 使命を ^{にな} 担ひて ^た 立てる ^{ゆくて} われらが ^{きわま} 行手は ^し 窮り知らず
dainaru shimei wo ninaite tateru warera ga yukute ha kiwamari shirazu
^{くおん} やがても ^{りそう} 久遠の ^{かげ} 理想の影は ^{てんか} あまねく ^{かがや} 天下に ^し 輝き布かん
yagate mo kuon no risou no kage ha amaneku tenka ni kagayaki shikan

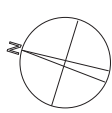
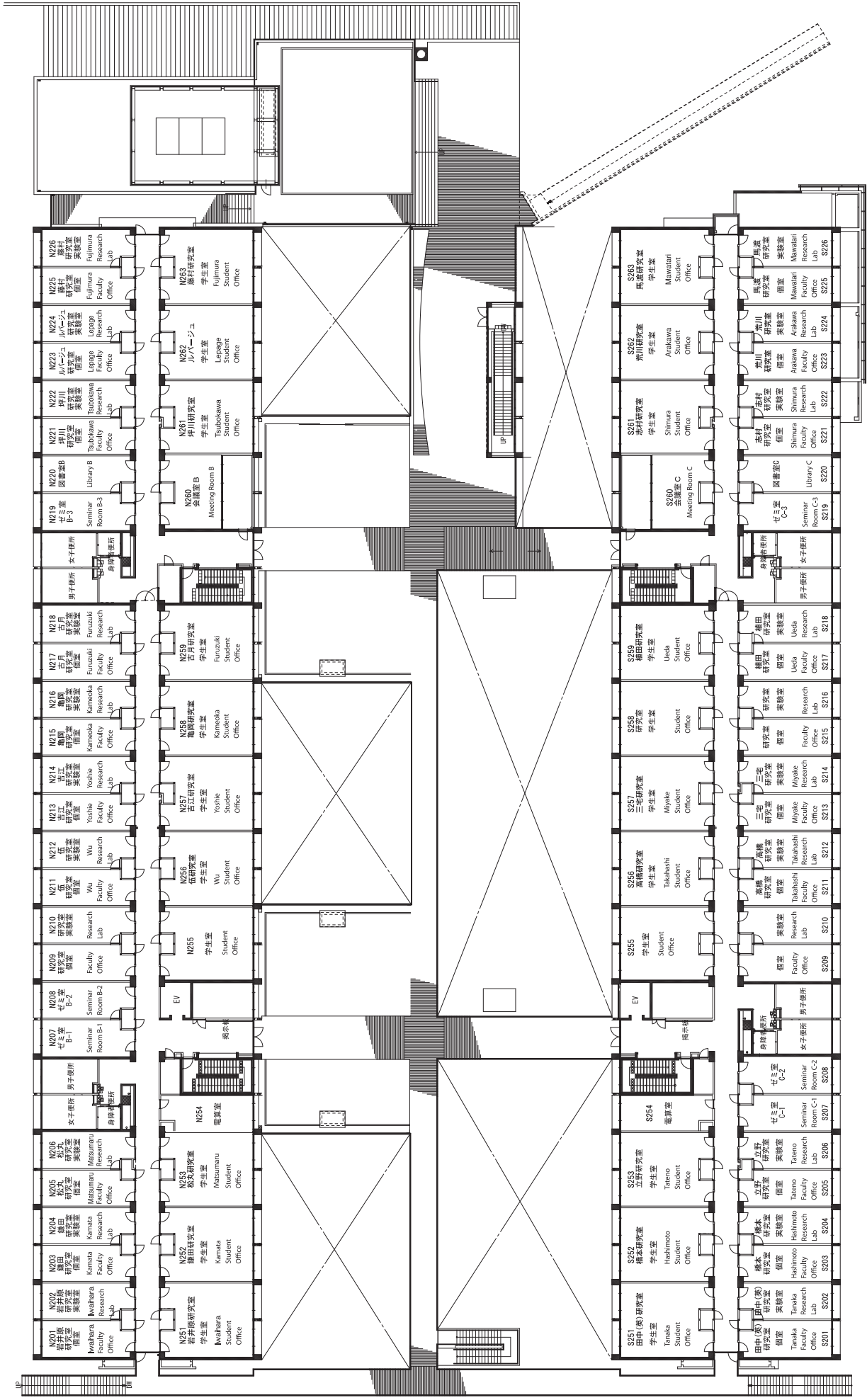
わせた わせた わせた わせた わせた わせた わせた
waseda waseda waseda waseda waseda waseda waseda

3. ^み あれ見よ ^{ときわ} かしこの ^{もり} 常盤の森は ^{こころ} 心の ^{ぼこう} ふるさと ^{ぼこう} われらが ^{ぼこう} 母校
are miyo kashiko no tokiwa no mori ha kokoro no furusato warera ga bokou
^{あつま} 集り ^{さん} 散じて ^{ひと} 人は ^{かわ} 変れど ^{あお} 仰ぐ ^{おな} は ^{りそう} 同じき ^{ひかり} 理想の光
atsumari sanjite hito ha kawaredo aogu ha onajiki risouno hikari
^{こえ} いざ ^{そら} 声 ^{ぼこう} そろへて ^な 空も ^{ぼこう} とどろに ^な われらが ^{ぼこう} 母校の ^な 名を ^{ぼこう} ばたた ^な へん
iza koe soroete sora mo todoroni warera ga bokou no naoba tataen

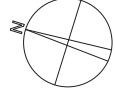
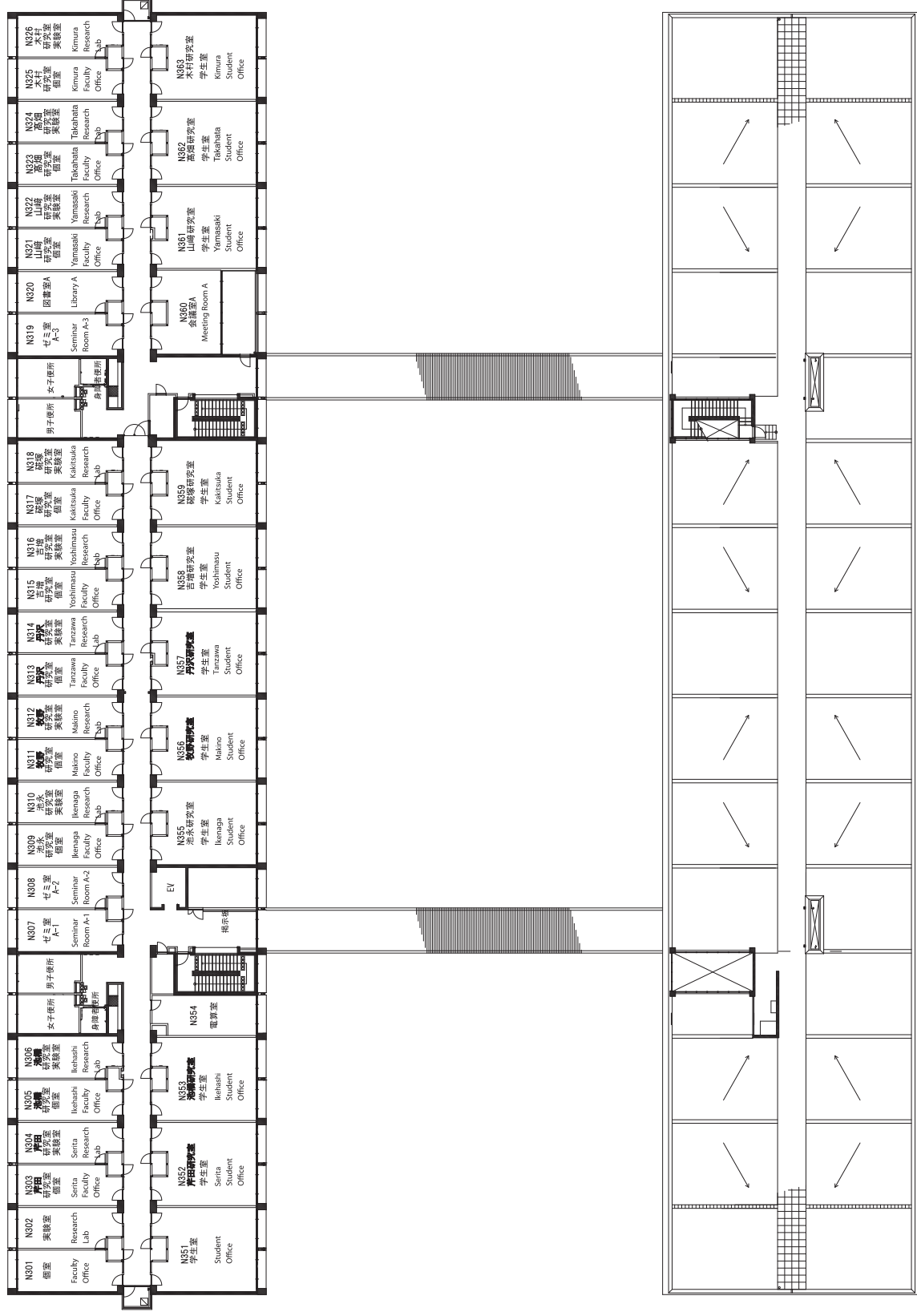
わせた わせた わせた わせた わせた わせた わせた
waseda waseda waseda waseda waseda waseda waseda



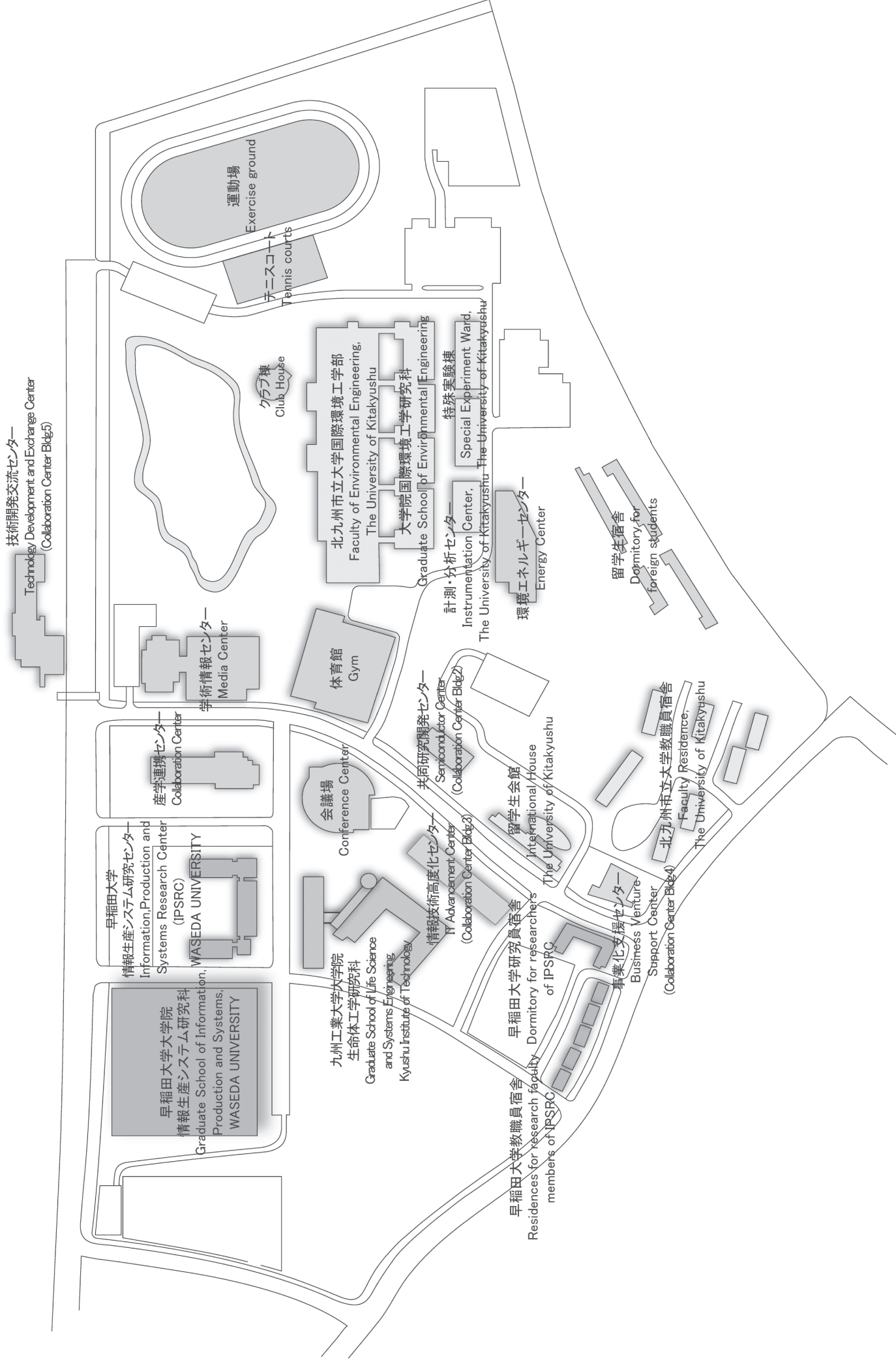
教室配置図(1階) / Building map of IPS (1st floor)



教室配置図 (2階) / Building map of IPS (2nd floor)



教室配置図 (3階) / Building map of IPS (3rd floor)



早稲田大学大学院情報生産システム研究科

Graduate School of Information, Production and Systems, Waseda University

〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの2-7

2-7 Hibikino, Wakamatsu-ku, Kitakyushu-shi, Fukuoka 808-0135 JAPAN

T e l: 093-692-5017

F a x: 093-692-5021

E-mail: gakumu-ips@list.waseda.jp

W e b: <https://www.waseda.jp/fsci/gips/>

